医療法人社団

筑波記念会

2019年度年報

2019.4-2020.3

筑波記念病院
筑波総合クリニック
つくばトータルヘルスプラザ
つくばケアセンター
つくば訪問看護ステーション
大穂豊里地域包括支援センター

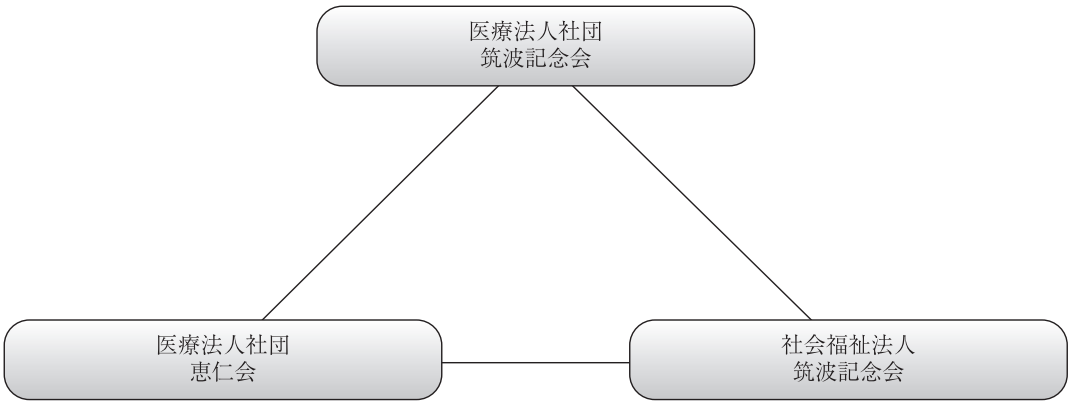
筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

INDEX

Fiscal year 2019

筑波記念グループ 組織図 …… 3
医療法人社団 筑波記念会　概要 …… 4
基本理念・基本方針・組織図 …… 4
筑波記念病院 組織図 …… 5
沿革 …… 6
施設概要 …… 8
筑波記念病院 …… 8
筑波総合クリニック …… 11
つくばトータルヘルスプラザ …… 11
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 12
診療部門 …… 14
循環器内科 …… 14
消化器内科 …… 16
血液内科 …… 18
神経内科 …… 20
糖尿病・内分泌代謝内科 …… 22
呼吸器内科 …… 24
消化器外科 …… 26
呼吸器外科 …… 30
心臓血管外科 …… 32
脳神経外科 …… 34
整形外科 …… 36
形成外科 …… 38
婦人科 …… 40
眼科 …… 42
耳鼻咽喉科 …… 44
皮膚科 …… 46
小児科 …… 47
精神科 …… 48
麻酔科 …… 50
放射線科 …… 52
病理診断科 …… 54
リハビリテーション科 …… 56
救急科 …… 58
リウマチ・アレルギー科 …… 60
腎臓内科 …… 60
乳腺・甲状腺外科 …… 60
泌尿器科 …… 60
もの忘れ診療科 …… 61
内科 …… 61
筑波記念病院　臨床研修医 …… 62
業績集 …… 64
論文 …… 64
書籍 …… 66
学会・講演・セミナー等 …… 66
診療支援部門 …… 74
看護部 …… 74
薬剤部 …… 78
放射線部 …… 80
リハビリテーション部 …… 82
臨床検査部 …… 86
臨床工学課 …… 88
栄養管理課 …… 90
医療相談室 …… 92
臨床心理 …… 94
地域医療連携部 …… 96
委　員　会 …… 100
病院運営管理会議 …… 100
医療安全管理委員会 …… 101
医療安全対策チーム …… 102
転倒転落対策 WG …… 104
感染対策管理委員会 …… 105
感染対策チーム …… 106
労働安全衛生委員会 …… 109
防火防災管理委員会 …… 110
臨床研修管理委員会 …… 110
臨床研修運営チーム …… 111
地域医療研修運営チーム …… 113
診療管理委員会 …… 114
救急診療運営チーム …… 115
手術部運営チーム …… 116
ICU 運営チーム …… 116
シーティング WG …… 117
病院機能改善管理委員会 …… 118
医療ガスチーム …… 119
がん化学療法運営チーム …… 120
輸血運営チーム …… 121
診療録チーム …… 122
臨床検査運営チーム …… 123
栄養チーム …… 124
栄養サポートチーム（NST） …… 125
摂食嚥下ケアチーム …… 126
褥創対策チーム …… 127
クリティカルパス・DPC チーム …… 129
緩和ケアチーム …… 130
地域医療サービスチーム …… 131
企画広報運営チーム …… 132
倫理委員会 …… 133
薬事委員会 …… 134
筑波総合クリニック …… 136
つくばトータルヘルスプラザ …… 138
介護老人保健施設 つくばケアセンター …… 142
つくば訪問看護ステーション …… 143
大穂豊里地域包括支援センター …… 144
筑波記念病院 統計 …… 146
患者統計 …… 146
科別外来患者数 …… 146
救急車搬送患者記録 …… 147
ドクターヘリ搬送患者数 …… 148
平均在院日数（一般病床） …… 148
入院延べ患者数 …… 149
入院患者数 …… 150
手術件数（入院・外来） …… 151
手術件数（入院のみ・時間帯別） …… 152
病床利用率 …… 152
主な指導料・管理料 …… 153
地域がん登録部位別件数 …… 154
院内・院外　研修・講演会一覧 …… 155

筑波記念グループ　相関図



医療法人社団 筑波記念会　概要

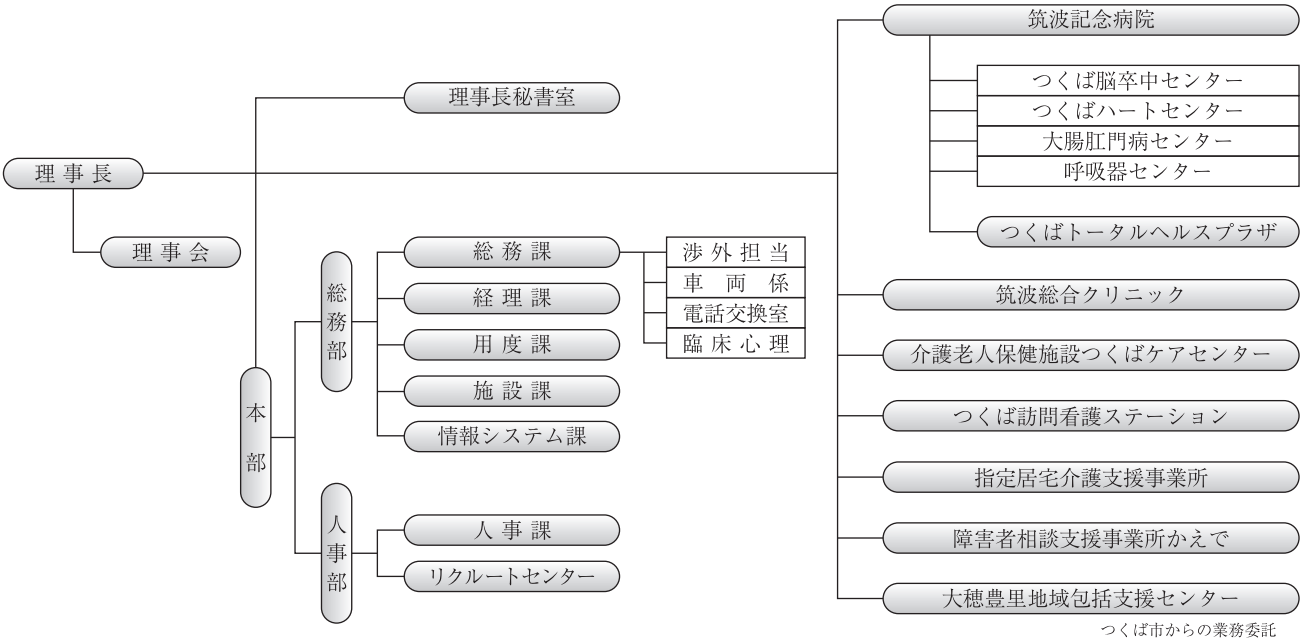
基　本　理　念

誠意を以って最善をつくす

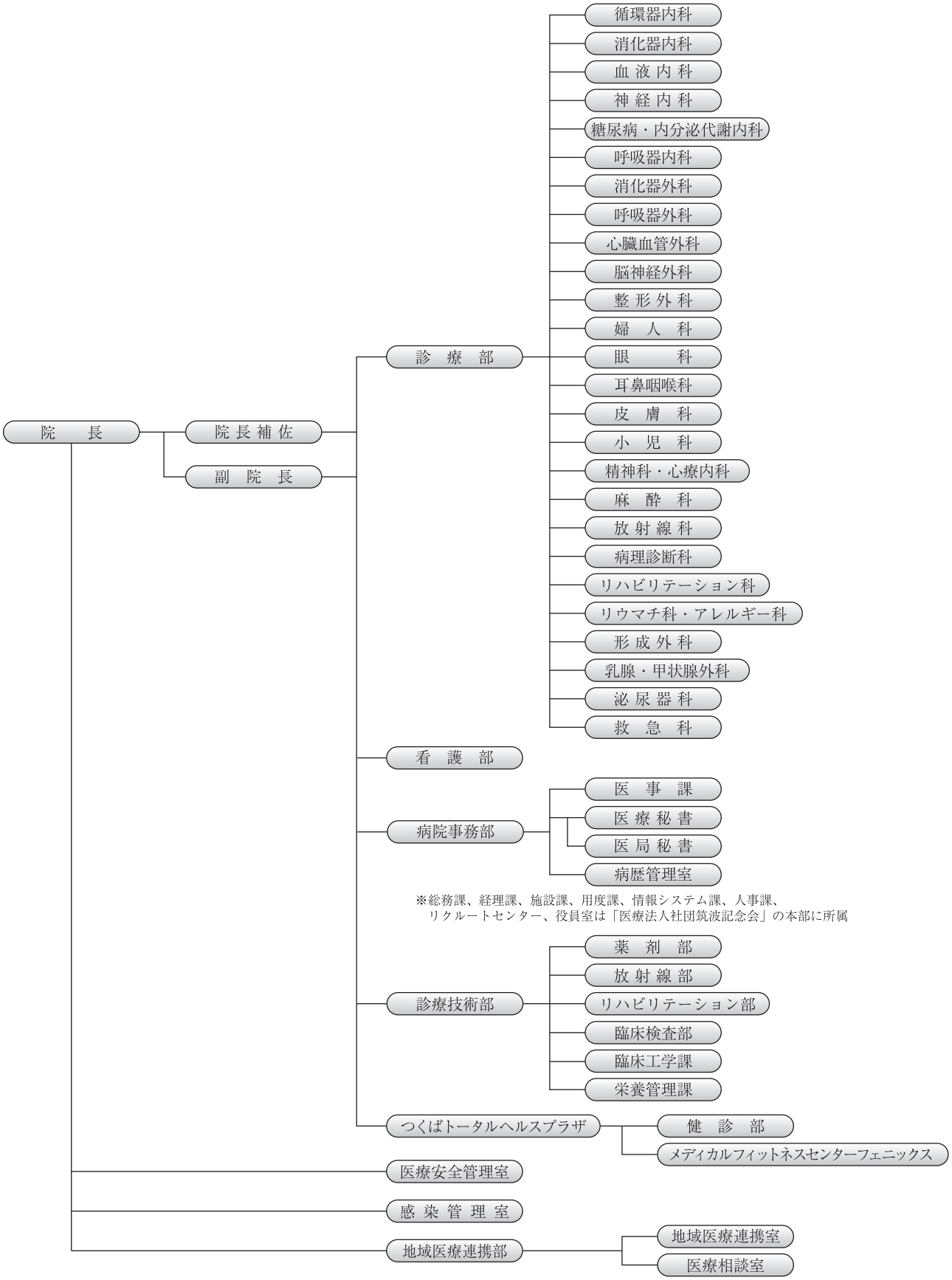
基　本　方　針

1．患者と社会に奉仕する
2．最新、最高の総合医療を提供する
3．患者の権利と意向を尊重する
4．地域の医療・保健・福祉に貢献する
5．地域社会での良好な職場環境を提供する

筑波記念会　組織図



筑波記念病院　組織図


院　長
院長補佐
副院長
診療部
循環器内科
消化器内科
血液内科
神経内科
糖尿病・内分泌代謝内科
呼吸器内科
消化器外科
呼吸器外科
心臓血管外科
脳神経外科
整形外科
婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
皮膚科
小児科
精神科・心療内科
麻酔科
放射線科
病理診断科
リハビリテーション科
リウマチ科・アレルギー科
形成外科
乳腺・甲状腺外科
泌尿器科
救急科
看護部
病院事務部
医事課
医療秘書
医局秘書
病歴管理室
※総務課、経理課、施設課、用度課、情報システム課、人事課、
リクルートセンター、役員室は「医療法人社団筑波記念会」の本部に所属
診療技術部
薬剤部
放射線部
リハビリテーション部
臨床検査部
臨床工学課
栄養管理課
つくばトータルヘルスプラザ
健診部
メディカルフィットネスセンターフェニックス
医療安全管理室
感染管理室
地域医療連携部
地域医療連携室
医療相談室

沿　　革

1982	2	筑波記念病院開設
		保険医療機関指定
	4	生活保護法医療機関指定
	5	第二次救急医療機関指定
	6	労災保険医療機関指定
1983	2	筑波健康推進センター開設
		人間ドック及び健康診断実施
		日本体力医科学研究所開設
1984	8	結核指定医療機関指定
1985	10	託児所「アイビー保育園」開設
1986	1	医療法人社団筑波記念会認可
1987	12	筑波記念病院附属第一病院開設
1989	8	附属第一病院廃止、筑波記念病院に吸収合併
1992	2	中央管理棟完成
	3	在宅介護支援センター開設
	10	つくば訪問看護ステーション開設
1994	11	「つくばトータルヘルスプラザ」、メディカルフィットネスセンター「フェニックス」開設
1996	6	老人デイケア施設「ピンクハウス」開設
1997	7	ホームページ開設
1998	4	老人保健施設「つくばケアセンター（現２号棟）」開所
1999	4	指定居宅介護支援事業所開設
		クリティカルパス導入
	12	難病医療協力病院指定
2000	12	つくば市より事業委託 病後児保育「ピーターパン」開設
2001	3	病児家族宿泊施設「ファミリーハウス」開設
	8	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（一般病院Ｂ（200 床以上））認定取得
	9	茨城県地域リハ・ステーション指定
2002	4	臨床研修病院指定
	7	「つくばクリニック（眼科）」開設
	10	茨城県訪問リハビリテーション・ステーション指定
2003	6	地域医療連携室設置
	7	介護老人保健施設「つくばケアセンター」リニューアルオープン
	8	療養病棟「けやき」開設
	11	開放型病院指定
2004	6	セカンドオピニオン外来開始
	7	DPC（診断群分類・包括評価）開始
	9	回復期リハビリテーション病棟「ひのき」開設
2005	5	外来専門クリニック「筑波総合クリニック」開設
	9	「つくばケアセンター」内に訪問リハビリテーション事業所開設
2006	1	県南スポーツ医科学センター認定
		茨城県地域リハビリテーション研修推進支援センター指定
	9	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.5）
2008	4	特定健康診査・特定保健指導機関登録
	5	高機能医療センター開設
2010	7	ドクターヘリ受入開始
2011	10	回復期リハビリテーション病棟リニューアル
	11	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.6）
2012	3	「つくばトータルヘルスプラザ」リニューアル
	9	地域医療支援病院　承認
	10	メディカルフィットネスセンター「フェニックス」指定運動療法施設認定
		「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション下妻出張所開設
2013	2	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション桜川出張所開設
	10	障害者相談支援事業所「かえで」開設
2014	4	筑波記念病院附属「アイビー保育園」新築移転
	5	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション土浦出張所開設
2015	9	筑波記念病院「Ｓ棟」竣工

2016	4	「つちうらハートクリニック」開設
	8	日本医療機能評価機構認定基準（機能種別版評価項目 3rdG：Ver.1.1）認定更新
		（主たる機能：一般病院 2、副機能：リハビリテーション病院）
2017	1	DMAT 指定医療機関指定
	11	筑波記念グループが誕生し、新たに医療法人恵仁会加わる
2018	3	「つちうらハートクリニック」閉院
	10	社会福祉法人　筑波記念会が誕生し、新たに筑波記念グループに加わる
	11	茨城県女性が輝く優良企業認定制度に認定
2019	4	「大穂豊里包括支援センター」開設（つくば市委託）
	9	在宅療養後方支援病院　承認
	9	災害拠点病院　指定

施　設　概　要

筑波記念病院

管理者：長澤　俊郎

〒300-2622　茨城県つくば市要 1187-299　　TEL 029-864-1212　FAX 029-864-8135

病床数　487 床　　一般病床:387 床（ICU 8 床　急性期（7 対 1）327 床　回復期リハビリテーション病棟 52 床）
療養病床（医療保険適用）：100 床（療養病棟 51 床　地域包括ケア病棟 49 床）

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、神経内科、糖尿病･内分泌代謝内科、心療内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、 整形外科、形成外科、小児科、婦人科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

基準情報

地域医療支援病院	生活保護法第 49 条規定医療機関
DPC 対象病院	難病医療協力病院
日本医療機能評価機構　3rd6:Ver1.1 （主たる機能：一般病院 2，副機能：リハビリテーション病院）認定	原子爆弾被爆者指定医療機関
第二次救急指定病院	自立支援医療機関（精神通院）
臨床研修病院指定（基幹型）	医療機関検診実施指定病院
茨城県指定地域リハ・ステーション	DMAT 指定医療機関・AMAT 病院
労災保険二次健診等給付医療機関	茨城県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
特定疾患（一般・小児）治療研究機関	在宅療養後方支援病院

施設基準等（基本診療料）

一般病棟入院基本料　急性期一般（7 対 1）	栄養サポートチーム加算
療養病棟入院基本料 2	医療安全対策加算 1
地域医療支援病院入院診療加算	感染防止対策加算 1
臨床研修病院入院診療加算 1（基幹型）	地域連携加算　抗菌薬適正使用支援加算
救急医療管理加算 1　2	患者サポート体制充実加算
超急性期脳卒中加算	総合評価加算
診療録管理体制加算 2	後発医薬品使用体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 2 チ（100 対 1）	病棟薬剤業務実施加算 1
急性期看護補助体制加算 3（50 対 1）	データ提出加算 2 イ
看護職員夜間配置加算 1 ロ（12 対 1 加算 2）	入退院支援加算 1 イロ
療養環境加算	特定集中治療室管理料 3
療養病棟療養環境加算 1	回復期リハビリテーション病棟入院料 1
無菌治療室管理加算 1	地域包括ケア病棟入院料 2（療養病棟）
重症皮膚潰瘍管理加算	

施設基準等（特掲診療料）

がん性疼痛緩和指導管理料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
救急搬送看護体制加算	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
開放型病院共同指導料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
がん治療連携指導料	大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
薬剤管理指導料	補助人工心臓
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
持続血糖測定器加算	頭蓋内腫瘤摘出術等
検体検査管理加算（Ⅰ），（Ⅱ）	肺悪性腫瘍手術等
ヘッドアップティルト試験	経皮的カテーテル心筋焼灼術
画像診断管理加算 1，2	靭帯断裂形成手術等
CT 撮影（64 列以上のマルチスライス CT）	水頭症手術等
MRI 撮影（3 テスラ以上）	肝切除術等
心臓 MRI 撮影加算	食道切除再建術等
冠動脈 CT 撮影加算	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術
外来化学療法加算 2	人工関節置換術
無菌製剤処理料	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む。）及び体外循環を要する手術
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設術
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	輸血管理料 2　貯血式自己血輸血管理体制加算
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
がん患者リハビリテーション料	麻酔管理料（Ⅰ），（Ⅱ）
集団コミュニケーション療法料	病理診断管理加算 1
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	

諸指定

日本リハビリテーション医学会研修施設	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本麻酔科学会認定麻酔科認定	日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設
日本脳神経外科学会専門医研修（連携）施設【筑大の連携施設。研究プログラムの１施設】	日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設
日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本消化管学会胃腸科暫定指導施設
日本眼科学会認定専門医制度研修施設	一般財団法人日本作業療法士協会　作業療法士臨床実習指導施設
日本内分泌学会認定教育教育施設	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設
日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関	日本医療薬学会認定日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設	日本医療薬学会認定日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本神経学会専門医准教育施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設
日本消化器病学会認定専門医制度認定施設	呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	植込型補助人工心臓実施施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本呼吸器学会認定施設	茨城県肝疾患専門医療機関
日本血液学会認定血液研修施設	茨城県指定地域リハ・ステーション
IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設	茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター
公益社団法人　日本理学療法士協会　生涯学習制度（新人研修プログラム）臨床指導施設	茨城県指定小児リハ・ステーション
日本脈管学会認定研修指定施設	茨城県指定訪問リハビリテーション・ステーション
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設	マンモグラフィ検診施設画像認定施設
日本脳卒中学会専門認定制度研修教育病院	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター	日本認知症学会教育施設認定
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	

筑波総合クリニック

管理者：飯田　要

〒300-2622　茨城県つくば市要65　　TEL 029-877-1221　FAX 029-877-1191

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神科、放射線科

つくばトータルヘルスプラザ

施設長：中原　朗

〒300-2622　茨城県つくば市要1187-299　　TEL 029-864-3588　FAX 029-864-8585

諸指定

厚生労働大臣認定健康増進施設	日本脳ドック学会認定脳ドック施設
全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施機関	厚生労働省指定運動療法施設
日本総合健診医学会認定優良総合健診施設	日本総合検診医学会及び日本人間ドック学会認定人間ドック健診専門医研修施設
健康評価施設査定機構認定人間ドック・総合健診・特定健診・特定保健指導施設	

介護老人保健施設 つくばケアセンター

管理者：小關　　迪

〒300-2622　茨城県つくば市要 76　　TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション

〒300-2622　茨城県つくば市要 76（介護老人保健施設 つくばケアセンター内）

TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　下妻出張所

〒304-0051　茨城県下妻市小島 695　ブリランテ下妻 105

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　桜川出張所

〒300-4414　茨城県桜川市真壁町椎尾 1632-1

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　土浦出張所

〒300-0812　茨城県土浦市下高津 1-19-33

サービスの種類

介護保健施設サービス（入所）
介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護（ショートステイ）
介護予防通所リハビリテーション・通所リハビリテーション（デイケア）
介護予防訪問リハビリテーション・訪問リハビリテーション

定員等

入所定員	100 名（介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護も含む） 療養室　　個室　12 室、4 床室　22 室
通所定員	40 名（介護予防通所リハビリテーションも含む）

基準情報

生活保護法等指定介護機関
茨城県指定訪問リハ・老健ステーション
全国老人保健施設協会実地研修指定施設

施設基準等

入所

介護保健施設サービス費（Ⅰ）	ターミナルケア加算
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	再入所時栄養連携加算
夜勤職員配置加算	かかりつけ医連携薬剤調整加算
短期集中リハビリテーション実施加算	所定疾患施設療養費
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
栄養マネジメント加算	認知症情報提供加算
低栄養リスク改善加算	入所前後訪問指導加算
療養食加算	地域連携診療計画情報提供加算
経口維持加算	褥瘡マネジメント加算
初期加算	排泄支援加算
口腔衛生管理体制加算	施行的退所時指導加算

口腔衛生管理加算	退所時情報提供加算
外泊時費用	退所前連携加算
緊急時治療管理	訪問看護指示加算
在宅復帰・在宅療養支援機能加算	介護職員処遇改善加算（Ⅲ）
介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）	

短期入所療養介護

介護老人保健施設短期入所療養介護費（Ⅰ）	送迎加算
介護老人保健施設介護予防短期入所療養介護費（Ⅰ）	重度療養管理加算
個別リハビリテーション実施加算	在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）
療養食加算緊急	短期入所受入加算
サービス提供体制強化加算	緊急時治療管理
夜勤職員配置加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）

通所リハビリテーション

通常規模型リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算（Ⅰ）
6時間以上8時間未満の前後延長サービス	介護予防通所リハビリテーション費
リハビリテーション提供体制加算	理学療法士等体制強化加算
入浴介助加算	重度療養管理加算
リハビリテーションマネジメント加算（Ⅰ～Ⅲ）	中重度者ケア体制加算
短期集中個別リハビリテーション実施加算	社会参加支援加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	運動器機能向上加算
生活行為向上リハビリテーション実施加算	選択的サービス複数実施加算
栄養改善加算	事業所評価加算
口腔機能向上加算	介護職員処遇改善加算（Ⅲ）
介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）	

訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算
介護予防訪問リハビリテーション費	社会参加支援加算
短期集中リハビリテーション実施加算	リハビリテーションマネジメント加算(Ⅰ)～(Ⅳ)
事業所評価加算	

協力医療機関

筑波記念病院
筑波総合クリニック
大久保歯科医院

診　療　部　門

循環器内科

【総括】

1．2019 年度実績報告

2019 年度は筑波大学から派遣の小川孝二郎が異動し、補充なく１名減員でスタートした。つくばハートセンター、筑波総合クリニックには、在籍医師の増減はなかった。手術件数は虚血、不整脈ともに大きく減少する１年となった。供給が需要を生むと言われるように、スタッフ減員も手術件数の減少につながったと考えている。本年度は新規手術方法の導入はなかった。学会主導で利益誘導が行われる傾向にあり、新たな手術法の新規導入には大きな参入障壁ができている。一方、心臓血管外科との連携は良好である。一人一人の患者に最良の医療を提供する努力を重ねている。病診連携は一定の効果を示しており、手術件数の確保に役立った。高齢心不全患者は増加の一途を辿っており、治療法も毎年進歩がある。利尿剤の使用法は急速に変化してきており、在院日数の短縮に直結している。リハビリの積極的早期介入も継続している。リハビリテーション部の協力に感謝したい。生理検査部門は本年度も頑張っていただいた。経食道エコー検査の重要性が高まり、機動性良く対応できた。学会発表は虚血部門に限定された。症例数が少なく、手術件数の関連する研究や発表には乏しかった。身近な疑問を掘り下げていく努力を惜しまないことが必要と考える。平均在院日数はわずかに増加に転じたが、予定手術件数の減少が影響したと考えている。研修医教育に関しては、従来通り患者を受け持ち、入院中のマネージメントを学んだ。受け持ち患者数や疾患のばらつきが大きく、今後解決すべき問題である。

2．2020 年度の課題・目標

COVID-19 流行が起こり、循環器内科診療にも大きなうねりが到来した。感染予防の観点から医療機関受診が敬遠されている。協力医療機機関からの紹介患者も激減した。一方で、感染予防に神経質になるために診察が疎かになり、診断が遅れるケースも散見される。COVID-19 に限らず、病人は必ず一定数存在している。見逃しなくすくい上げて治療の道筋に乗せる努力が一段と必要である。

この数年の問題としては、スタッフの高齢化がある。循環器内科を専攻する医師が右肩上がりで増加する時期はすでに終焉を迎えた。新たな人材の発掘、齢を重ねても持続可能な医療体制の構築、個々の医師の研鑽の継続は益々重要である。

従来の物差しを捨て、ニュー・ノーマルを構築する。

しかし、相手が人間であることには全く変わりはない。

「誠意を以って最善をつくす」

初心に帰り、患者満足度を目指した医療に立ち返る１年としたい。

［文責：井川昌幸］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
榎本　強志	院長補佐（総合診療統括）	常（HP）
井川　昌幸	循環器内科診療部長	常（HP）
我妻　賢司	つくばハートセンター長	常（HP）
新居　秀郎	循環器内科診療科長・集中治療部科長	常（HP）
内田　靖人	循環器内科診療医長	常（HP）
井藤　葉子		常（HP）
沼田るり子		常（HP）
竹井　義純		常（HP）
青沼　和隆		非（HP）
五十嵐　都		非（HP）
林　　孝典		非（HP）

【手術実績】

分　　類	件　数
経皮的冠動脈ステント留置術	180
経皮的カテーテル心筋焼灼術	70
経皮的冠動脈形成術	13
ペースメーカー移植術・交換術	38
除細動器移植術・交換術	8
リンパ節摘出術	2
経皮的血管形成術（下肢）	11
総計	322

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	278	6.1
050130	心不全	152	23.2
050070	頻脈性不整脈	109	7.0
040080	肺炎等	48	21.5
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	43	16.6

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,677	2,646	2,463	2,632	2,426	2,377	2,614	2,303	2,607	2,615	2,187	2,511	30,058

消 化 器 内 科

【総括】

1．2019 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2019年度の当科入院のべ患者数は17,393、新入院患者数966、外来受診者数25,102であり、前年の2018年度と比較して入院のべ患者数はやや減少し、その他の数値はほぼ横ばいであった。

②内視鏡診療では、胃内視鏡施行数3,583件および大腸内視鏡施行数2,091件であり、どちらも前年度比で増加した。2019年度からつくば市からの「胃がん内視鏡検診事業」の受託を開始したことなどが、その要因であると分析している。

③学会発表に関しては、例年同様に安定した実績が保たれた。

④論文執筆では、池澤が英文誌に筆頭著者で1論文（Journal of Infection Prevention）、共同著者で2論文（Digestion、Int J Clin Oncol.）を発表した。さらに日本ヘリコバクター学会誌に、耐性菌サーベイランス委員会として参加した事業の委員会報告を作成し、報告した（共同著者）。

⑤学会関係では、大塚公一朗医師が日本消化器病学会専門医を取得し、越智大介医師が日本消化器病学会関東支部評議員に選出された。

2．2020 年度の課題・目標

①2020年度は、胃内視鏡4,000件および大腸内視鏡2,500件を目指す。2018年度の目標であった消化管悪性腫瘍に対するESD100件（2019年度91件）、ERCP年間300件（2019年度214件）が早急に達成されるよう努力する。さらに、超音波内視鏡検査手技が安定して施行できることも目標とする。

②病-診連携・病-病連携を強化する。具体的には、月平均100例以上・年間総数1,200例以上（2019年度：944例）の紹介患者さんを受け入れられるような体制を構築する。

［文責：池澤和人］

【人事】

氏　名	役　　職	勤　務
池澤　和人	副院長（医療安全管理統括・内科診療統括）・医局長・消化器内科診療部長	常(HP)
添田　敦子	消化器内科診療科長・化学療法部長	常(HP)
越智　大介	消化器内科診療医長・内視鏡センター長	常(HP)
小林真理子		常(HP)
大塚公一朗		常(HP)
岩井健太郎		常(HP)
白石　貴久		非(HP)
山本　祥之		非(HP)
杉山　弘明		非(HP)
永渕　美帆		非(HP)
鈴木　宏清		非(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
060020	胃の悪性腫瘍	108	13.9
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	96	11.9
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	77	15.2
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	49	16.5
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	49	18.4
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	41	9.5
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	33	14.5
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む）	32	20.4
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	31	11.9
060335	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	30	25.1

【手術件数】 ※ ESD は除く

名　　称	件　数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	799
内視鏡的胆道ステント留置術	104
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ切除術	72
内視鏡的消化管止血術	57
下部消化管ステント留置術	26
内視鏡的胆道結石除去術	20
食道・胃静脈瘤結紮術・硬化療法	18
内視鏡的食道・胃内異物摘出術	18
大腸 ESD	17
結腸内視鏡的止血術	15
胃瘻造設術	4
その他の手術	28
総計	1,234

【内視鏡検査数】

上部消化管内視鏡	総数	3,588
検査のみ	（経口）	3,144
	（経鼻）	244
治療内視鏡	食道 ESD	4
	胃 ESD	70
	胃 EMR	2
	EVL	18
	止血術	57
	胃瘻造設・交換	22
	異物摘出術	18
	胃･十二指腸ステント留置術	7
	食道ステント留置術	2
	食道ステント留置術	4

下部消化管内視鏡	総数	2,091
検査のみ		1,234
治療内視鏡	ESD	17
	EMR	799
	ステント留置術	26
	止血術	15

ERCP	総数	214
治療内視鏡（重複あり）	EST	58
	EPBD	24
	胆道ステント留置	104
	膵管ステント留置	8
	砕石除去術	20

全内視鏡総数	5,893

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,117	2,017	2,044	2,296	2,201	2,166	2,209	2,016	2,113	2,021	1,954	1,948	25,102

血　液　内　科

【総括】

2019年度は前年から医師数が1名減となった影響と思われるが入院・外来患者数とも前年度よりは減となり、病棟ベッド稼働率も低下した。平均在院日数は依然として20日を超えた状態が持続した。学術業績については研修医の学会発表として日本内科学会関東地方学で3件、茨城県内科学会で1件の発表があった。スタッフから日本血液学会総会での発表が1件あり、これは次年度に論文掲載されることが決定している。

2020年度は4月から半年限定であるが常勤医が1名増となり業務拡大を目指すところであるが、2020年1月からのCOVID-19感染拡大と3月末の院内感染者発生が年度業績に影響を及ぼすことが懸念される。科の方針として他院からの御紹介を原則としてすべてお受けする方針は堅持し、患者数を維持したいと考える。平均在院日数については依然として長期入院患者数のコントロールが困難であるため、引き続きベッド回転を上げる方向で対処したい。学術業績についてはCOVID-19感染拡大のため予定されていた学会の多くが中止され、研修医を含めて発表の場が著しく制限された。学会活動が再開された折には引き続き積極的に発表を行う予定である。論文については先に触れた学術論文が掲載決定している。造血幹細胞移植については2017年度をもって当院は臍帯血移植認定施設の資格を返上したため、同種移植症例は事実上筑波大学にほとんどすべての症例を依頼することとなった。骨髄腫・悪性リンパ腫に対する自家移植は今後も継続する。

［文責：佐藤祐二］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
長澤　俊郎	管理者	常(HP)
佐藤　祐二	副院長（感染・輸血管理統括）・血液内科診療部長	常(HP)
福田　匡芳	血液内科診療医長	常(HP)
鈴木　幸恵		常(HP)
一色　雄裕		常(HP)
小松　恒彦	血液腫瘍センター長・血栓止血センター長	非(HP)
田岡　謙一		非(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
130030	非ホジキンリンパ腫	233	18.8
130010	急性白血病	69	36.9
130060	骨髄異形成症候群	69	20.4
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	55	24.5
040080	肺炎等	34	18.9
040081	誤嚥性肺炎	20	19.6
110310	腎臓または尿路の感染症	19	14.6
130050	慢性白血病、骨髄増殖性疾患	17	32.9
130110	出血性疾患（その他）	11	29.2
130080	再生不良性貧血	10	47.7

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
816	778	829	821	864	798	810	814	851	794	750	716	9,641

神　経　内　科

【総括】

1．病棟診療

前年度と同様に常勤医１人体制であり、長期療養病棟への他院からの転院及び急性期病棟から転棟する一部と回復期リハビリテーション病棟を主に担当した。

てんかん、内科疾患に伴う神経系障害等の急性期病棟の入院は他科に担当していただき、神経内科で併診する形式を継続させていただいた。

2019 年度の入院診療数と疾患内容は次のようになった。

神経内科入院患者数は 24 名、コンサルテーション 119 件であった。入院患者疾患はパーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、ギラン・バレー症候群、無菌性髄膜炎であった。

コンサルテーション依頼内容は意識消失及び意識障害症例の脳波判定依頼（34％）、てんかん（12％）、不随意運動（10％）と全体の半数を占めた。

高度な専門的治療が必要な急性期神経内科疾患は、適切な診療体制の医療機関へ紹介した。

他院からの転入院依頼は、看護部、地域医療連携室、リハビリテーション部と随時相談し対応した。

前年度に比べて主担当症例は数は減少したが、併診症例は、神経内科専門治療が必要な症例数は変化がなかった。コンサルテーション登録件数は、減少しているが、担当科からの電話での相談に診療対応した場合が多く、実数に著変はなかった。

2．外来診療

神経内科専門外来（年間 4,322 人、月平均 360 人）、神経変性疾患（パーキンソン病、多系統萎縮症、運動ニューロン疾患、認知症）、末梢神経障害　てんかんを始めとする神経内科疾患全般を診療した。

前年度に比べ外来患者総数が増加した。

3．学術、教育活動

第 60 回日本神経学会学術大会において発表した。また、日本神経学会準教育施設として、コンサルテーションを通じて初期研修医の診療指導を随時行なった。

4．次年度へ向けて

総合病院の神経内科であり、神経疾患だけでなく他科疾患に伴う神経障害を含む全般的診療が必要とされる。2020 年度から常勤医２名となる。引き続き可能な限り高い専門性を維持するように努力する。

［文責：星野幸子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
星野　幸子	神経内科診療医長	常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
010069	脳卒中の続発症	5	29.0
010160	パーキンソン病	5	52.2
010170	基底核等の変性疾患	3	14.3
01021x	認知症	3	35.3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
344	323	398	371	403	348	359	340	368	355	364	349	4,322

糖尿病・内分泌代謝内科

【総括】

1．2019 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

病棟診療は、常勤医が 1 名減員となり、入院患者数減少の可能性があったが、一般内科の入院があり総数はむしろ増加した。糖尿病教育、血糖コントロール、高血糖性緊急症、シックディ等の糖尿病関連および内分泌疾患の入院に対応した。病棟で他科からコンサルテーションによる併診で血糖コントロールを行う患者は年間 200 ～ 300 人を数え、入院中の他科患者の糖尿病管理に寄与し、退院後の逆紹介を行った。

外来診療は、外来枠減少のため患者数減少が予想されたが、実際はほぼ変わらなかった。また自宅で 24 時間持続血糖検査を行う CGM 外来を定期的に実施し、さらに 1 型糖尿病を中心に間欠的走査型持続血糖測定（i-CGM いわゆる FGM）や、低血糖時に自動でインスリン注入を停止するインスリンポンプ（SAP）も導入し、より厳密で安全な血糖コントロールに努めた。

教育・研究は、初期臨床研修医を定期的に受け入れ、糖尿病・内分泌疾患の診断や治療のための基礎知識、検査および実際の治療の指導を行った。また専攻医（3 年次）も 1 名受け入れた。学会発表 2 件、研究会発表 3 件行った。

2．2020 年度の課題・目標

2020 年 4 月より当科名称を代謝内科から、糖尿病・内分泌代謝内科へ変更する。これは当院が糖尿病教育認定施設であり、受診患者および専門医をめざす研修医に、糖尿病診療・教育の専門性を明確に表すためである。

2020 年 3 月より COVID-19 の流行のため、糖尿病教育入院および外来の糖尿病教室の全面中止により、入院患者数および外来患者数の減少が予想される。今後は集団教育ではなく、個人のニーズに合った糖尿病教育、例えば DVD 視聴を利用した個人教育や個別の栄養指導などを検討する。

今後は特に専攻医の指導を行い、臨床研修の一環に尽力する。また臨床研究および研究業績の発表に努める。

［文責：藤田利枝］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
藤田　利枝	糖尿病・内分泌代謝内科診療部長	常(HP)
藤原　　淳	糖尿病・内分泌代謝内科診療医長	常(HP)
片山　暁子		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
100070	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	51	16.1
100071	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全あり。）	13	32.0
110310	腎臓または尿路の感染症	13	33.2
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	12	14.1
040080	肺炎等	8	30.4
040081	誤嚥性肺炎	7	37.1
100180	副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍	6	2.8
100210	低血糖症	6	8.2
100380	体液量減少症	6	8.5
050130	心不全	4	29.0
100140	甲状腺機能亢進症	4	5.8
060380	ウイルス性腸炎	3	5.7
080010	膿皮症	3	21.0
100060	１型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	3	14.7
100250	下垂体機能低下症	3	9.0
100391	低カリウム血症	3	10.0
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	3	10.7
010061	一過性脳虚血発作	2	3.0
01021x	認知症	2	109.0
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	2	20.5
050140	高血圧性疾患	2	6.5
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	2	23.5
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	2	40.5
060570	その他の消化管の障害	2	5.0
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	2	66.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,096	1,077	1,125	1,128	1,079	1,121	1,063	1,072	1,152	1,176	1,075	1,137	13,301

呼　吸　器　内　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

呼吸器内科は、開設 5 年目となり、乾年秀医師が新た常勤として勤務し、石川宏明医師、渡辺裕子医師、大塚盛男の 4 名体制で病院・クリニックの診療を行った。また、松野洋輔医師が非常勤としてクリニック診療に従事した。クリニックの専門外来診療を週 4 から 5 日とした。肺炎、肺癌、間質性肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患の診療を主に行ったが、新入院患者数は年間 389 名で、昨年度より 75 名増加し、過去 5 年間で最多となった。一般病床と療養病床を合わせた入院延べ患者数は年間 8,531 名、病院・クリニックの外来受診者数は年間 5,918 名であり、各々昨年度より 2,100 名、607 名増加した。気管支内視鏡検査は 41 件、局所麻酔下胸腔鏡検査は 5 件で、各々昨年度より 19 件、5 件増加し、ともに過去 5 年間で最多であった。

教育活動としては、専攻医 1 名及び初期臨床研修医 9 名を担当し、呼吸器疾患の診断や治療に必要な基礎知識や診療技術の指導を行った。

2．2020 年度の課題・目標

2019 度と比較し肺癌の患者数が増加したが、肺癌の診療、特に化学療法は最近著明な進歩を続けており、高度な専門的医療を要するため、担当医師の負担は大きい。当院における肺癌や間質性肺炎等の患者は年々増加しており、これらの疾患に対する医療の質の向上のためにさらなる努力が必要である。

なお、2019 年度末に COVID-19 がパンデミックとなり、当院でも本感染症患者の診療が必要となった。当科でも入院患者を 2 人担当するとともに、専門の診療業務に加え帰国者・接触者外来や発熱外来の業務にも協力従事している。流行が今年度中に収束する可能性は低いと考えられるが、当科としては専門的医療が必要な患者への対応を優先しながら本感染症にも対応協力する方針としたいと考えている。何れにせよ、担当医師のさらなる負担の増加が危惧される。

［文責：大塚盛男］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
大塚　盛男	呼吸器センター長	常(HP)
乾　　年秀		常(HP)
石川　宏明		常(HP)
渡邉　裕子		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
040040	肺の悪性腫瘍	70	15
040080	肺炎等	69	16
040081	誤嚥性肺炎	40	26
040110	間質性肺炎	39	18
040100	喘息	21	9
040120	慢性閉塞性肺疾患	19	21
110310	腎臓または尿路の感染症	12	22
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	11	27
040190	胸水、胸膜の疾患（その他）	7	21
040200	気胸	6	10

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
489	502	454	506	468	427	531	448	503	615	500	475	5,918

【入院患者数（転科した患者を含む）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
28	27	35	26	30	25	32	31	28	45	51	31	389

消　化　器　外　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

岩崎は大腸・肛門疾患の専門医で腹腔鏡手術にも習熟しており、大腸疾患に対しては基本的に腹腔鏡でのアプローチを行った。

黒田は消化器外科志望の専攻医 2 年目の女医である。週 3-5 件の待機手術に加え緊急手術も参加し、特に急性虫垂炎に対し積極的に腹腔鏡手術を行い、鼠経ヘルニアに対しても腹腔鏡手術（TAPP）の導入に寄与した。また専攻医 3 年目で 2020 年 2 月から産休に入ったが、在任中の手術経験（術者）は 225 件／ 10 ヵ月と同年代の他消化器外科医に比べて突出した経験数であった。

総手術件数 425 件、うち腹腔鏡は 159 件と過去最多であった。

2019 年度は過去（前任医師）には行われなかった下記手術（＊高難度）が施行された。

＃ 1　腹腔鏡補助下横行結腸切除（＊）
＃ 2　腹腔鏡補助下マイルズ手術（＊）
＃ 3　骨盤内臓全摘術（＊）
＃ 4　腹腔鏡下虫垂切除術
＃ 5　腹腔鏡下ヘルニア術
＃ 6　尾状葉・下大静脈合併肝切除（＊）
＃ 7　肝門部胆管癌手術（＊）
＃ 8　左開胸・開腹、食道切除術（＊）

初期臨床研修医に対する教育･指導も近年になく充実した。術者として 14 件執刀し､全例合併症なく退院した。また院内での初期臨床研修医を対象とした臨床発表研究会では急性虫垂炎の治療方針をまとめ、最優秀賞を授与された。

2．2020 年度の目標

緊急手術件数や肝胆膵悪性疾患の手術件数の増加を目指す。

また、今までは積極的でなかった学会活動も活発に行いたい。当科の蓄積したデータを基に新たな知見を探索する予定である。

［文責：上田和光］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
上田　和光	消化器外科診療部長・肝胆膵センター　センター長	常(HP)
岩﨑　喜実	消化器外科診療科長・大腸肛門病センター　センター長	常(HP)
黒田　　純		常(HP)
齋藤　　節	大腸外科センター長	非(HP)
小田　竜也		非(HP)
阿部　英行		非(HP)
岡﨑　雅也		非(HP)
木谷　嘉孝		非(HP)
松本　正弘		非(HP)
金子　宜樹		非(HP)
小川　光一		非(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	88	11.5
060150	虫垂炎	65	10.6
060160	鼠径ヘルニア	63	6.8
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	62	18.5
060040	直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	61	14.1
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	57	12.5
060020	胃の悪性腫瘍	38	16.6
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	19	11.5
060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	19	16.7
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	12	14.5
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。）	12	26.1

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
740	805	833	862	864	739	879	821	799	747	742	827	9,658

【手術件数】

臓　　器	診　　断	術　　式	手術件数（腹腔鏡）
食道	食道癌	左開胸・開腹、下部食道切除、後縦隔胃管再建	1
	食道裂孔ヘルニア	Nissen 法	2
			3（0）
胃	胃癌	胃全摘	8（0）
		幽門側胃切除	26（13）
		噴門側胃切除	7（1）
	GIST	局所切除／噴門側胃切除	2（1）
	潰瘍穿孔	単純閉鎖	2（0）
			45（15）
十二指腸	GIST	亜全胃温存膵頭十二指腸切除術	1
			1（0）
小腸	Lopoma/Lymphoma/NET/adenoma	小腸部分切除	4（2）
	イレウス	癒着剥離、小腸部分切除	10
	Meckel 憩室	小腸部分切除	1
			15（2）
結腸	結腸癌	結腸切除、結腸半側切除	54（41）
	憩室炎、穿孔	結腸切除	7（0）
	軸捻転（S,A）	結腸切除	2（1）
			63（42）
直腸	直腸癌	高位 / 低位 / マイルズ切除	13（9）
	悪性リンパ腫	骨盤内臓全摘術	1
	直腸脱	三輪・Gantz/Well/Delorme	4（1）
			18（10）
肛門	内・外痔核	痔核切除、ALTA	17
	痔瘻	Seton	3
	ポリープ	経肛門的切除	4
	慢性裂肛	Sliding skin graft	1
			25（0）
虫垂	急性虫垂炎	虫垂切除	51（40）
	虫垂癌	虫垂切除（二期的に結腸切除）	1
			52（40）
肝臓	原発性肝悪性腫瘍	部分切除切除 / 肝左葉切除 + 尾状葉	2
	肝良性腫瘍	肝左葉切除	1
	転移性肝腫瘍	部分切除 / 尾状葉（IVG 合切）	4 ／ 1
			8（0）
胆嚢・胆管	胆石症、ポリープ、腺筋症	胆嚢摘除	57（42）
	総胆管結石症	総胆管切開・切石術	14（0）
	胆管狭窄、拡張症	胆道再建術	2（0）
	膵胆管合流異常	分流手術	1
	胆嚢癌	拡大胆摘 /S4a+S5/ 肝外胆管切除	4
	胆嚢管断端神経鞘腫	肝外胆管切除	1
	肝門部胆管癌	肝門部・肝外胆管切除	1
	遠位端肝癌	亜全胃温存膵頭十二指腸切除術	1
			81（42）

ヘルニア	鼠径、大腿、閉鎖孔、齊、腹壁瘢痕	ヘルニア門閉鎖、補強	93（9）
後腹膜	後腹膜膿瘍（Castleman’s tumor）	腫瘍切除	1（0）
その他			20（0）
消化器外科　計			425（160）

呼　吸　器　外　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

①2019年度の筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせた外来患者総数は4,629人で、前年度の4,716人と比較して87人減少した。

②新入院患者数は198人で、前年度の227人より29人減少した。平均在院日数は15.0日で前年度より0.8日延長した。

③入院手術件数は73件で、前年度82件より減少した。肺癌手術は25件で前年度17件より増加した。

④学術活動としては木村正樹医師の全国総会での学会発表1例と、日本肺癌学会雑誌での論文発表1例があった。

⑤2019年10月吉田 進が呼吸器外科診療部長として着任した。

2．2020 年度の課題・目標

2019 年は年度途中で人事異動があり、呼吸器外科は 10 月から新体制となった。この影響もあり入院患者及び手術件数はやや減少した。ただこの状況下でも肺癌手術症例は増加していることを考えると、当科への地域の期待は小さくないと考える。その期待に応えるために今後も最新の技術を取り入れつつ、安全性・根治性・低侵襲性の３要素のバランスが取れた手術を推進していく。また呼吸器内科グループとはカンファレンスや気管支鏡検査等の診療を従来以上に協力して行うことで当科への手術依頼の敷居をより低いものにしていきたい。同様な意図で連携医療機関からの紹介では、より積極的に手術適応を考慮していく必要がある。専門性の高い呼吸器外科領域の診療を当院で着実に行っていることを今後さらに広く認知していただき、結果として手術症例を増加させることで地域医療に一層の貢献をしていきたい。

［文責：吉田　進］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
神山　幸一	副院長（～ 2019/11/15）・院長補佐（2019/11/16 ～）	常(HP)
吉田　　進	呼吸器外科診療部長（2019/10/1 ～）	常(HP)
木村　正樹	呼吸器外科診療部長（～ 2019/9/30)･総合外科診療部長（2019/10/1 ～）	常(HP)
北澤　伸祐		非(HP前期)
佐伯　祐典		非(HP後期)

【手術件数】

分　　類	件　数
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	20
胸腔鏡下肺切除術	14
リンパ節摘出術	12
肺悪性腫瘍手術	5
四肢血管のその他の手術	4
乳腺悪性腫瘍手術	4
乳腺腫瘍摘出術	2
その他	12
総計	73

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
040040	肺の悪性腫瘍	97	19.2
040200	気胸	26	12.9
040080	肺炎等	14	13.7
160400	胸郭・横隔膜損傷	7	9.9
030400	前庭機能障害	6	7.2
090010	乳房の悪性腫瘍	6	13.8
040130	呼吸不全（その他）	5	17.4
040081	誤嚥性肺炎	3	32.0
040110	間質性肺炎	3	12.7
040190	胸水、胸膜の疾患（その他）	3	18.3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック)】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
341	378	449	444	403	406	403	407	377	382	314	325	4,629

心　臓　血　管　外　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2019年度の手術患者数は昨年と同様、茨城県内トップクラスを維持している。

②手術の低侵襲化に関して積極的に取り組んでおり、患者の年齢、状態に応じた、ベストな治療を選択するようにしている。

③左心耳マネジメントを中心としたブレインハートチームによる、心原性脳梗塞に対するチーム医療を行っている。

④学会活動としては全国学会をはじめ多くの学会にて報告、発表を行っている。

⑤論文執筆では８編の論文が掲載された。学術活動を含めた、修練医および学生の指導を積極的に行っている。

2．2020 年度の課題・目標

循環器内科とともに北関東の心臓血管外科治療の拠点として地域の患者様に貢献していけるように診療を継続していく。右小開胸僧帽弁手術をはじめとした低侵襲手術にも積極的に取り組んでいく。

［文責：吉本明浩］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
末松　義弘	副院長（ICU 管理統括･外科診療統括）	常(HP)
吉本　明浩	心臓血管外科診療医長	常(HP)
森住　誠	心臓血管外科診療部長・集中治療部科長（～ 2019/9/30）	常(HP)
清水　隆玄		常(HP)
西　智史		常(HP)
有馬　大輔		常(HP)
倉橋　果南		常(HP)
寺川　勝也		非(HP)
大塚　俊哉		非(HP)
北村　律		非(HP)
松本　春信		非(HP)
近藤　俊一		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
下肢静脈瘤手術	90
ステントグラフト内挿術	63
大動脈瘤切除術	51
胸腔鏡下左心耳切除術	38
下肢静脈瘤血管内焼灼術	25
弁置換・形成術	27
冠動脈、大動脈バイパス移植術	21
四肢血管のその他の手術	20
血管移植、バイパス移植術	9
動脈塞栓・血栓摘出術	5
開胸手術その他	4
血管塞栓術	4
その他の手術	15
総計	347

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
030250	睡眠時無呼吸	96	2.0
050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	60	11.4
050070	頻脈性不整脈	55	77
050161	解離性大動脈瘤	55	20.0
050080	弁膜症（連合弁膜症を含む。）	44	18.0
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	41	11.2
050180	静脈・リンパ管疾患	40	3.9
050130	心不全	21	14.8
050170	閉塞性動脈疾患	21	10.7
050162	破裂性大動脈瘤	17	31.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
475	502	479	570	510	564	575	411	560	482	428	404	5,960

脳　神　経　外　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2019年度の手術件数は130件、新規入院患者数は498人であった。脳神経外科学会専門医3名と脳神経外科専攻医1名の4人体制で常時50-70人程度の入院患者の診療と手術を継続した。

脳卒中を中心に急性期病棟、回復期病棟、療養病棟、地域包括ケア病棟を利用して自己完結型の治療を行えている。筑波大学脳卒中科のサポートもあり、脳血管障害の手術や脳血管内治療はかなり高いレベルの治療が可能であり、脳卒中については治療のための転送はなかった。

9月に当院もの忘れ診療センター長の吉井與志彦先生を会長に第3回日本脳神経外科認知症学会を主催した。学会運営に御協力いただいた病院職員の皆様に心から感謝を申し上げたい。

2．2020 年度の課題・目標

特に脳卒中は、当院を受診した症例について 24 時間対応できるコンサルテーション体制を整えており、今後も継続していきたい。

当院では若手脳神経外科医の教育に力を入れており、脳卒中の外科学会認定指導医 2 名の下で、脳血管障害の救急対応から手術、全身管理やリハビリテーションまで網羅的に研修できる体制を整えている。脳神経外科専門医取得に必須である学会発表や論文作成の指導も行い、コンスタントに学会発表や論文投稿を行っている。当院は専攻医や若手の脳神経外科専門医にとって重要な研修病院となっており、現状を維持していきたい。

［文責：中村和弘］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
谷中　清之	脳卒中センター長	常(HP)
中村　和弘	脳神経外科診療部長	常(HP)
小沼　邦之		常(HP)
山野　晃生		常(HP)
秋本　　雄		常(HP)
鯨岡　裕司		非(HP)
伊藤　嘉朗		非(HP)
松丸　祐司		非(HP)
佐藤　允之		非(HP)
室井　　愛		非(HP)
早川　幹人		非(HP)
山本　哲哉		非(HP)
日野　天佑		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	41
脳動脈瘤頸部クリッピング（1 箇所）	19
頭蓋内腫瘍摘出術（その他のもの）	10
経皮的脳血栓回収術	6
穿頭脳室ドレナージ術	5
経皮的頸動脈ステント留置術	5
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（その他のもの）	5
頭蓋内微小血管減圧術	3
脳血管内手術（1 箇所）	3
脊髄ドレナージ術	3
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術　椎弓形成	2
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術　椎弓切除	2
水頭症手術　シャント手術	2
脳動脈瘤頸部クリッピング（2 箇所以上）	2
動脈形成術、吻合術（頭蓋内動脈）	2
経尿道的尿管ステント留置術	2
総計	130

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
010060	脳梗塞	198	28.3
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	52	14.3
010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	48	21.9
010030	未破裂脳動脈瘤	26	10.6
010010	脳腫瘍	20	30.0
010230	てんかん	20	16.1
010050	非外傷性硬膜下血腫	15	13.6
030400	前庭機能障害	15	6.3
010020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	14	37.1
010200	水頭症	10	39.9

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,533	1,355	1,467	1,523	1,486	1,288	1,537	1,353	1,391	1,399	1,283	1,346	16,961

整　形　外　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

筑波総合クリニックの外来患者数は、2018年度と比較してほとんど変化がなかった。

2015年度以降は予約制としたが、平均患者数は120人／日と高水準で推移している。

医師1人あたり8人／日の新患枠を設け、夜間・休日に救急外来を受診された患者、他院からの紹介患者、他科からのコンサルテーション患者に加えて、かかりつけで急性発症の患者は予約外でも受診できるように対応していることが奏功している。

筑波総合クリニックからの待機手術、外傷等の緊急手術は毎月安定して行えている。

これまで同様に筑波大学整形外科の三島准教授（股関節）・金森講師（膝関節）が週に2-3日非常勤医師として外来及び手術に来てくださり、関節を専門とする常勤医が勤務していたこともあり、人工股関節全置換術（人工骨頭置換術を含む）が184件／年（昨年度187件）・人工膝関節全置換術が121件／年（昨年度131件）・膝関節の鏡視下手術が105件／年（昨年度95件）と、引き続き県内トップレベルの件数を達成した。脊椎手術も、県内の他施設では行われていない脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、手術件数が178件／年（昨年度142件）と増加した。残念なことは、上肢を専門とする医師が異動したことで上肢の手術が減少し、他院に紹介する症例が増えたことである。

2．2020 年度の課題・目標

外傷全般は減少しているものの、基本的に保存的治療を選択し、入院が長期化する高齢者の脊椎椎体骨折・化膿性脊椎炎の患者数は相変わらず多く、肺炎・尿路感染・心不全等の合併症に悩まされることが多々ある。当科の医師・病棟スタッフが疲弊して病棟運営が悪化しないよう、当科で対応しきれない状態の患者を内科が主科となって診てくださる状態を期待したい。

COVID-19の影響で予測は難しいが、関節の手術は今年度同様に県内トップレベルの件数を維持したい。脊椎に関しても、脊椎矯正固定術等の長時間手術を継続した上で、同水準の手術件数を維持したいと考える。

筑波総合クリニックの外来において、当院から2km圏内で、転居されてきた若年・中年層が多い研究学園地区の住人の受診率が増えてこない。当院の未来を考慮すると、同地区の住人が当院のかかりつけになってくださるように対応を考えていきたい。

［文責：相野谷武士］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
相野谷武士	副院長（業務改善管理統括）・整形外科診療部長	常(HP)
箱岩　篤生	整形外科診療科長	常(HP)
淺川　俊輔		常(HP)
菅谷　　久		常(HP)
渡邊竜之介		常(HP)
落合　　史		常(HP)
清水　知明		常(HP)
戸塚　　翔		常(HP)
菊池　直哉		常(HP)
角南　貴大		常(HP)
小川　　健		非(HP)
新井　規仁		非(HP)
柳澤　洋平		非(HP)
大西　信三		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
人工股関節置換術（人工骨頭挿入術）	184
頚椎（頸椎、胸椎、腰椎）手術	178
四肢骨折接合術	132
人工膝関節置換術（人工骨頭挿入術）	121
抜釘術等	91
四肢骨のその他の手術	80
関節鏡下半月板切除術	49
靭帯断裂形成手術	45
脱臼非観血的整復術	19
筋・健の手術	13
関節滑膜切除術	11
その他の手術	41
総計	964

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	143	23.6
070230	膝関節症（変形性を含む。）	136	24.9
160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等含む。）	102	9.0
160800	股関節・大体近位の骨折	87	26.0
070343	脊柱管狭窄症（脊椎症を含む。）腰部骨盤、安定椎	69	25.7
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	67	24.9
070341	脊柱管狭窄症（脊椎症を含む。）頸部	28	21.2
070350	椎間板変性、ヘルニア	24	16.9
160700	鎖骨・肩甲骨の骨折	21	7.9
160760	前腕の骨折	19	9.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,728	2,647	2,640	2,668	2,664	2,561	2,444	2,189	2,638	2,483	2,316	2,401	30,406

形　成　外　科

【総括】

2020 年度の課題・目標

2018 年度から常勤医 1 名の体制を置く体制となり、本年度で 2 年目を迎え外来･入院患者共に増加することとなった。今年度もさらに近隣医療機関との連携を深め、紹介患者数ならびに逆紹介数の増加を図る。

また院内他科との関係性をさらに強め、院内での難治性潰瘍・褥瘡や術後の創トラブルを始め、創傷治癒分野に積極的に介入し病院への貢献を目指す。

［文責：渡邊浩志］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
伊藤　謹民		常(HP)
内田　彰子		常(HP)
畑　寿太郎		非(HP)
井田夕紀子		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術	27
筋・腱の手術	26
植皮術	11
リンパ節摘出術	5
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術	5
皮弁作成術	4
眼瞼結膜腫瘍手術	2
断端形成術	2
その他の手術	3
総計	88

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
070010	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	30	4.2
020230	眼瞼下垂	11	3.3
080010	膿皮症	8	15.9
180060	その他の新生物	7	3.6
160200	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	6	2.5
080007	皮膚の良性新生物	5	5.0
161000	熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	5	38.4
070590	血管腫、リンパ管腫	4	6.3
070071	骨髄炎（上皮以外）	3	21.3
080250	褥瘡潰瘍	3	91.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
356	343	422	414	426	368	374	322	328	349	287	346	4,335

婦　人　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

外来受診者数は 9,696 人（前年度 9,747 人）、手術件数は 87 件（前年度 108 件）という年度実績となった。

外来診療は人員･外来枠に変更なく、受診者数は前年度比 99%、2 月まではほぼ前年度と同じかやや上回るペースであったが、3 月に年度末 1 週間を残したタイミングで COVID-19 が院内で発生した影響もあり、3 月だけで前年度より 105 人減となり、それがそのまま総数の差になったようだ。

手術件数については、前年度比 80% となったが、昨年度が例年よりかなり多めだったため、ここ数年の大体年間 90 件前後というペースと同程度であった。開腹手術に関しては、ほぼ前年度並みを維持できた。COVID-19 院内発生後の予定手術は全例中止となったが、影響を受けた手術日が実質 1 日だけだったこともあり、総数への大きな影響はなかったものと思う。

2．2020 年度の課題・目標

次年度に関しては、COVID-19 流行によって、4、5 月に受けた影響が非常に大きく、また現在も感染は拡大中で今後も予断を許さない状況であるため、これまでのように前年度との比較で何かを語ったり、見通しや目標を立てるということは全くできないと思われる。

外来にしても手術にしても、縮小ありきの守りに入り過ぎることなく、感染が落ち着いている期間に、出来ることを出来る限り､粛々と行うということに尽きると考えている。とにかく無事に乗り切ることを目標としたい。

［文責：佐藤有希］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
佐藤　有希	婦人科診療部長	常(HP)
小關　剛	理事長	常(HP)
藤枝　薫		非(HP)
秋山　梓		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
子宮全摘術	32
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）開腹によるもの	31
子宮頸部（腟部）切除術	13
子宮筋腫摘出（核出）術	5
腟閉鎖術	2
子宮脱手術　腟壁形成手術及び子宮全摘術（腟式、腹式）	1
子宮内膜掻爬術	1
その他の手術	2
総計	87

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
120060	子宮の良性腫瘍	28	8.0
12002x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	17	3.8
120070	卵巣の良性腫瘍	13	8.0
130090	貧血（その他）	6	5.3
120100	子宮内膜症	4	8.5
120090	生殖器脱出症	3	9.3
120110	子宮・子宮附属器の炎症性疾患	2	11.0
120190	女性生殖系の炎症性疾患（その他）	2	5.5
120250	生殖・月経周期に関連する病態	2	24.5

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
845	812	856	800	850	776	867	788	834	756	744	768	9,696

眼　　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

①クリニック外来に関して

外来患者数は昨年と同程度であった。5月に今まで常勤として勤務していた森田医師が筑波大学へ異動となり、当院へは非常勤勤務となった。外来担当時間数は減ってはいるものの引き続き小児眼科領域を中心に手術、専門外来を行っている。入れ替わりで筑波大学から萩原医師が常勤として勤務しており、眼科としては医師が一人増員された体制となっている。余力ができたので硝子体注射も開始した。今後も地域の先生方に従来通り患者のご紹介をいただきたいと考えている。

②手術に関して

総手術件数は減少した。斜視手術件数が減少したのに加え、COVID-19の影響が考えられる。

白内障手術を二人態勢で行っているので例年より件数は伸びている。今後も手術件数を増やし、手術の待機期間を減らせるよう努力していく。

2．2020 年度の課題・目標

臨床では、COVID-19 の感染予防対策を行いつつ、必要な診療が行えるようにする。換気に努める。

密集、密接を避けるために業務効率が落ちる面があるが、機器の活用により効率化を図る。

［文責：長井恭子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
長井　恭子	眼科診療科長	常(HP)
萩原　希望		常(HP)
森田　由香		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
水晶体再建術	277
斜視手術	120
眼瞼下垂症手術	36
眼瞼内反症手術	8
翼状片手術	7
その他の手術	15
総計	463

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
020150	斜視（外傷性・癒着性を除く。）	85	2.0
020110	白内障、水晶体の疾患	53	4.5
020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	6	4.3
020230	眼瞼下垂	2	3.0
020280	角膜の障害	2	7.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,249	1,095	1,158	1,306	1,020	1,101	1,168	1,128	1,097	1,065	838	1,086	13,311

耳　鼻　咽　喉　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

①病棟診療

2019年度の入院患者数（転科加療を含む）は233例、入院手術症例は96例であった。2018年度はそれぞれ273例、75例であったので入院患者数は14.7％減少、入院手術症例は28％増加である。入院手術件数は目標としていた年間100例にわずかに到達できなかった。

これらの平均在院日数は5.8日であり、前年度の6.5日と比して短縮を認めた。

平均在院日数は2014年度の5.2日以後6日台が続いていたが、5年ぶりに5日台に短縮することが出来た。

②外来診療

筑波総合クリニック・筑波記念病院合わせての外来患者数は13,128例と前年度の13,465例と比して約2.5％の減少であった。総合病院耳鼻咽喉科としての役割を保つために、経過の落ち着いた症例を積極的に地域開業医へ逆紹介しており、その影響と考える。

外来手術症例数は85例（前年度114例）であり25％の減少であった。

2019年度の紹介患者数は484例であり昨年の490例とほぼ同等であった。COVID-19の影響により地域の耳鼻咽喉科開業クリニックなどの患者数減少がみられ、その結果として2019年度末から当院当科への紹介数も減少している。

2．2020 年度の課題・目標

COVID-19 の影響で 2019 年度末から 2020 年度のはじめにかけて、外来患者数･入院患者数とも急減している。その影響から、例年と比較した次年度目標をたてることが難しい。耳鼻咽喉科は診察時の患者さんとの距離も近く、エアロゾルを発生する処置も多いため今まで通りの診察にすぐに戻すことは困難であるが、安全で適切な医療を提供することによって、また少しずつ症例を増やしていきたい。

［文責：及川慶子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
及川　慶子	耳鼻咽喉科診療科長	常(HP)
中森　暁子		常(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
口蓋扁桃手術	36
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	11
鼻腔粘膜焼灼術	9
扁桃周囲膿瘍切開術	9
リンパ節摘出術	8
喉頭・声帯ポリープ切除術	7
その他の手術	14
総計	94

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	入院件数	平均在院日数
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	56	6.1
030400	前庭機能障害	46	4.8
030390	顔面神経障害	24	8.3
030270	上気道炎	16	5.3
030425	聴覚の障害（その他）	13	6.3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,182	1,164	1,109	1,214	971	1,089	1,204	1,040	1,060	1,045	998	1,052	13,128

皮　膚　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

- 筑波総合クリニックにおいて、常勤医1名、非常勤医2名の体制で一般皮膚科診療、皮膚生検、手術、腋窩多汗症に対するボトックス注射など5,337件の外来診療をおこなった。
- 筑波記念病院内の美容皮膚科外来において、IPL光治療や表情じわに対するボトックス注射など、施術を自由診療でおこなった。
- 褥瘡対策チームのメンバーとともに、病院全棟の入院患者の褥瘡リスク評価、予防および治療をおこなった。
- 入院患者および他科外来患者の皮膚トラブルについて、他科から約500件のコンサルテーションを受けた。

2．2020 年度の課題・目標

- 丁寧な診療で受診者の満足度の向上に努めると同時に、予約患者のみならず当日受付患者の外来診療待ち時間の短縮にも努める。
- 美容皮膚科外来に関する情報発信を再開して診療件数増加を図る。
- 褥瘡対策チームの活動を通して入院患者の褥瘡発症予防につとめ、最近数年間で改善した褥瘡発生率と有病率をさらに改善することを目指す。
- 皮膚科コンサルテーションに速やかに対応できる体制を維持する。

［文責：照沼　篤］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
照沼　篤	皮膚科診療部長	常(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術	1
皮膚悪性腫瘍切除術	4
総計	5

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
429	451	430	474	585	456	444	440	449	413	391	375	5,337

小　児　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

2019 年度における小児科外来患者数は年度合計 10,720 件（前年比プラス 42)、月平均 893 件であり、少子高齢化、出生数の著しい減少による小児人口の減少、生活状況等の改善による感染症に罹患する子どもたちの減少など小児期の疾病構造が大きく変化をしている時代にあっては、なんとか持ちこたえている実績と評価したい。大きな要素となっているのは、「小児発達外来」（宮本信也医師担当）を中心に、発達に問題を抱える子どもたちの受診の増加、小児外来リハビリ体制の充実が大きな要素となっている。茨城県南、県西地区に数少ない、小児期の発達の問題に対応できる体制の充実があるため、筑波大学附属病院をはじめ、地域の主要な医療施設からの患者紹介を数多く受けている。発達診療の他に、一般小児科医療としての小児感染症、アレルギー疾患（気管支喘息等)、小児神経疾患（てんかん等)、予防接種専門外来などにも注力をしている。

2．2020 年度の課題・目標

上記のような状況を踏まえ、新しい年度においても、小児医療全般の内容の充実、および当院における発達関連の診療実績を基に、対外的に当院の診療体制の広報を行い、受け入れ患者の増加をはかっていく。

［文責：右田琢生］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
右田　琢生	副院長（地域医療連携管理統括）・小児科診療部長	常(HP)
岩松　雅子	小児科診療医長	常(HP)

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック)】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
848	829	842	950	993	889	940	991	907	915	863	753	10,720

精　神　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

精神科は、本年度は大きな変化があった。2019 年 11 月より常勤医である沼倉医師の診療場所がそれまでの病院外来棟から、筑波総合クリニックの外科系のブースに移動となり、治療環境が大きく変化した。但し、他院から紹介状持参の新患は従来の病院外来棟での週 1 回の診療は継続となった。非常勤医である山里医師の診察場所は、従来通り病院外来棟であり、毎週木曜日の診療を継続している。

こうした治療環境の変化のためか、昨年度に比べ、病院･クリニック合計の再来患者数は大幅に減少しており、昨年度の 4,277 人から、今年度は 3,775 人となっている。

現在の診療体制は、常勤医の沼倉医師が、総合クリニックの外科系ブースで、月曜～水曜、金曜・隔週土曜の午前を再来患者担当、火曜･隔週水曜、金曜午後に紹介状を持たない新患をやはり総合クリニックの外科系ブースで診療している、毎週月曜日午後は、病院外来棟で他院からの紹介状持参の新患を診療している。非常勤医の山里医師は、上記のように病院外来棟にて毎週木曜日午前午後に再来・新患を診療している。また、非常勤医の佐藤医師が、月 1 ～ 2 日土曜日午前のみ再来のみの診療を行っている。

業務実績としては、病院の新患は 38 名、総合クリニックの新患は 69 名で、病院・クリニックの新患患者数の合計は、107 名と昨年度の合計数 158 名より大幅に減少している、再来患者数は、病院外来分は 2,648 名、総合クリニック分は、1,127 名、合計 3,775 名と、昨年度より大幅に減少した。

他科からの依頼による精神科コンサルテーションの数は、沼倉医師の担当分だけだが、46 件と昨年度の 60 件に比べ大幅に減少している。非常勤医師の分は詳細不明のため加えていない。

教育・研究では、本年度も臨床研修医の精神科研修を希望する者はいなかった。6 年前から継続している、精神科診断マニュアルである DSM-5 の輪読会は、沼倉医師が中心となり、他科医師 3 名で毎週 1 ～ 2 回開催し継続している、但し、令和 2 年 3 月からは新型コロナウイルス対策で一旦中断となっている、新年度には落ち着いたら再開する予定である。学会発表・講演会はなし。

2．2020 年度の課題・目標

2019 年度の目標として、筑波総合クリニック精神科での紹介状を持たない初診患者数の増加、病院外来再診患者数の増加を上げたが、常勤医の再来部門の病院から総合クリニック外科系ブースへの移転による治療環境の変化があり、患者数はむしろ減少した。また移転に伴い精神科としての一体化が更に希薄になった。また、以前から当科の目標であるチーム医療の構築は依然として困難であり、専従の精神保健福祉士や精神科看護師は不在、臨床心理士も総合クリニックの物忘れ診療外来の知能検査の仕事が主となっていて精神科外来との協力は希薄である。他の公的医療機関の精神科初診患者の予約受付からの診察までの待ち日数が、2 ～ 3 ヶ月待ちと聞いているが、当科は、予約から長くて 1 ～ 2 週で受診可能である。2020 年度の目標としては、次年度より初期臨床研修医の精神科研修が再び必修となるとの事で喜んでいる。教育の場が当科の臨床活動への大きな励みになることを期待し、初診患者･再来患者の増加、スタッフの充実、他の部門との協力関係の底上げを図りたい。

［文責：沼倉泰二］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
沼倉　泰二		常(HP)
佐藤　晋爾		非(HP)
山里　道彦		非(HP)

【外来患者数（筑波記念病院）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	0	5	8	5	4	3	4	0	2	4	1	2	38
再診	310	306	309	316	344	317	333	81	81	78	84	90	2,648
紹介	2	6	9	9	5	9	6	1	2	4	1	3	57

【外来患者数（筑波総合クリニック）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	8	7	6	3	8	7	7	11	6	2	3	2	70
再診	0	4	3	4	3	5	7	216	247	196	210	232	1,127
紹介	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	1	1	7

【精神科コンサルテーション（他科依頼）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	1	5	3	8	7	2	1	3	3	3	6	46

麻　酔　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

①2019年度から常勤医が1人増員され4名となり、非常勤医1名と、筑波大学および他病院からの非常勤の協力も得ながら手術麻酔を行ってきた。24時間365日、緊急手術に対応できるよう毎日オンコール体制をとっている。

②入院診療

1）麻酔管理：麻酔科として心臓血管外科手術をはじめとしたすべての全身麻酔管理と、一部の局所麻酔管理を行っている。前年度より全手術件数は 35件増加したが、全身麻酔件数では98件減少した。全身麻酔件数の減少は外科系診療科の医師交代の過渡期であったことも影響していると思われる。

2）手術部運営：手術部全体の運営に関与し、すべての手術が効率的かつ安全に行われるよう努力している。

3）集中治療：集中治療室の運営に貢献してきた。

4）緩和ケアチーム：週1回の回診に、1名参加してきた。

5）術後鎮痛：硬膜外麻酔、末梢神経ブロック、自己調節鎮痛法などを用い、積極的に術後鎮痛を行ってきた。全身麻酔の危険性が高い患者では、末梢神経ブロックや脊髄くも膜下麻酔のみによる麻酔管理を行うこともある。

③外来診療

1）麻酔科術前外来：手術安全の向上を目的に、予定手術患者を対象に行っており、全身麻酔症例の26.9%であった（症例数は別項参照）。また高リスク患者のコンサルトも兼ねて行っている。

2）ペインクリニック外来：クリニックからの紹介患者および、入院中の患者と退院後の患者に対する、外来を病院総合外来に開設した。

④自己評価

手術部全体の運営に科全体として、個人として、貢献してきた。

麻酔科術前外来を行うことにより、安全で質の高い麻酔を提供することに貢献してきた。

集中治療室の運営に貢献した。

緩和ケアチームの回診に参加し、診療の質の向上をめざした。

限定的ではあるがペインクリニック外来を病院で開設することができた。

2．2020 年度の課題・目標

①病院が電子カルテ化されたことにより、手術部全体の業務を見直すきっかけとなった。これを機に業務全般の安全性を向上させるように、人的および電子的にシステムを整備していく。

②常勤医が4名となり非常勤医と協力し、常に手術室全室の全身麻酔が可能である。更に安全な麻酔を心がけるとともに、引き続き24時間365日、緊急手術に対応できるよう体制を維持していく。

③合併症を持つ患者や高齢患者の増加により重症例が増加しているので、麻酔中だけでなく麻酔前後も含めた周術期の安全性を考慮し、さらに確実な麻酔管理を心がける。

④よりよい術後鎮痛を提供できるよう様々な方法をさらに追求していく。

⑤緩和ケアチーム内での麻酔科としての有効な参加方法を探る。

⑥外来診療では、麻酔科術前外来の周知を再度行い利用率の向上を図るとともに、各科の協力を得ながらさらに安全で効率の良い手術室運営を目指す。

⑦ペインクリニック外来を、週1回定期的に開設したことの周知を図り、慢性疼痛に苦しむ患者の症状軽減に努める。

［文責：田島啓一］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
田島　啓一	副院長（手術部門管理統括）・麻酔科診療部長	常(HP)
髙瀬　肇	麻酔科診療科長	常(HP)
富田　絵美	麻酔科医長	常(HP)
折居　美波		常(HP)
田地慶太郎		非(HP)
村田　雄哉		非(HP)
箱岩　沙織		非(HP)
大曽根順平		非(HP)
平本　芳行		非(HP)
渡邊　和宏		非(HP)
我那覇　卓		非(HP)
横山　良太		非(HP)
廣瀬　優樹		非(HP)
清水　雄		非(HP)
上田志寿佳		非(HP)
濱口　祐人		非(HP)
泉　直樹		非(HP)
中山　慎		非(HP)

【麻酔科外来件数 2019】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
34	37	40	43	29	27	37	38	47	42	36	55	465

【麻酔管理料件数 2019】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
146	112	91	84	97	62	80	78	113	83	73	58	1,077

【麻酔手技内訳（ＯＲ分）】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身麻酔	2018年度	147	150	159	145	171	130	171	150	164	147	155	136	1,825
	2019年度	156	138	139	159	158	13	140	127	175	153	125	126	1,727
腰椎麻酔	2018年度	2	1	2	4	3	1	0	1	1	2	3	2	22
	2019年度	4	2	1	1	1	2	2	1	1	0	1	1	17
その他	2018年度	38	45	40	40	32	26	39	39	30	34	39	30	422
	2019年度	37	71	64	43	44	58	46	42	35	43	29	48	560
計	2018年度	177	196	201	189	206	157	210	190	195	183	197	168	2,269
	2019年度	197	211	204	203	203	191	188	170	211	196	155	175	2,304

放　射　線　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

2019 年度は常勤の放射線診断専門医 3 名、非常勤診断専門医 1 名、非常勤専攻医 1 名の体制で CT、MR、核医学、単純写真の読影診断業務と超音波および IVR（画像下治療）を行った。年間の CT、MRI および核医学検査の検査総数は 14,741 件であった。血管内・外の IVR は 28 件（うち時間外 3 件、ガイド下生検は 8 件）が行われた。専門医による年間の読影率は 95.6 %, 翌日までの読影レポート完成率は 93.9% と目標値を保つことができた。地域連携関連病院･医院の先生方からのご依頼による CT、MRI、超音波、核医学の検査数は、2018 年度 505 件、今年度は 491 件とやや減少した。

初期臨床研修医 6 名がそれぞれ 1-2 か月間の研修を行った。画像診断の基本である単純写真の読影、救急診療で頻度の高い疾患の CT, MRI の読影を中心に、各研修医の進路の希望に基づいて、超音波検査や造影検査の研修などを加えたプログラムで行った。

2．2020 年度の課題・目標

読影率、翌日までのレポート完成率は現状の 90% を越える率を保てるようにする。

電子カルテ導入にあたり、読影レポートの既読管理システムの更新を行った。今後は医療安全管理委員会のもと、主治医へのフィードバック等に関する体制を整えていく予定である。4 月より医療安全管理委員会内に医療放射線管理チームを立ち上げた。撮影プロトコールの見直しや、被ばく管理を行っていく。教育、研修に関しては、初期臨床研修医および院内全職員を対象としての被ばく等に関する勉強会を企画する。部署内での技師の教育（マンモグラフィ認定技師、超音波検査士の育成等）を引き続き行う。

［文責：鯨岡結賀］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
鯨岡　結賀	副院長（病院機能改善管理統括・画像管理統括）・放射線科診療部長	常 (HP)
髙橋　信幸	放射線科診療科長	常 (HP)
岩田　　賢	放射線科診療医長	常 (HP)
楊川　哲代		非 (HP)
原田　　舟		非 (HP)
根本英比古		非 (HP)

【読影数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
CT	888	825	907	964	937	842	902	892	938	880	793	720	10,488
MRI	327	334	332	352	343	316	348	349	320	314	291	308	3,934
RI	32	29	33	29	18	18	22	27	33	23	29	26	319
IVR													28
合計	1,247	1,188	1,272	1,345	1,298	1,176	1,272	1,268	1,291	1,217	1,113	1,054	14,741

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
専門医による読影率	94.9%	94.7%	95.1%	94.1%	96.6%	96.2%	97.0%	95.6%	95.8%	96.3%	96.4%	95.0%	95.6%
翌日までのレポート完成率	90.3%	93.5%	92.7%	93.9%	93.9%	93.5%	95.4%	93.9%	94.2%	94.7%	95.4%	94.8%	93.9%

【紹介検査数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2018 年度	25	40	53	41	45	46	53	41	48	45	26	42	505
2019 年度	35	47	58	48	41	35	39	44	47	34	32	31	491

病　理　診　断　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

2019 年度は筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせて病理組織診 3,891 件、細胞診 11,802 件、術中迅速組織診 9 件、病理解剖 2 件を行った。

臨床病理検討会では前年度までの剖検例を含めて、以下の 2 例について検討を行った。

①S状結腸捻転後に腹膜炎を発症した症例

上行-横行結腸の拡張と菲薄化、高度の虚血性変化が見られ、腹腔にはコーヒー残渣様の腹腔液および出血が見られた。結腸軸捻転に伴い、汎発性腹膜炎を発症し死に至ったと考えられた。

②肝原発血管内大細胞型B細胞性リンパ腫により、門脈血栓、小腸壊死で死亡した症例

肝原発血管内大細胞型B細胞性リンパ腫のリンパ腫細胞が肝類洞内および肝内門脈に見られ、門脈および脾静脈、上腸間膜静脈には血栓が認められた。回腸には80cm長、空腸には75cm長の壊死が見られた。血管内リンパ腫により門脈系に血栓ができ、小腸壊死をきたし死亡したと考えられた。

2．2020 年度の課題・目標

病理組織診、細胞診、術中迅速組織診、および病理解剖の各々について診断件数･精度の維持と効率化を行う。診療情報の厳重な管理の元、重要診断結果について別リストの作成・報告等を継続し、被験者に不利益が及ぶことのないよう最大限の対策を講じる。また今後さらなる項目増加が必至の分子生物学的検索に対応するため、組織固定や検体保存法に細心かつ最深の注意を払い、将来的な需要に備える。

［文責：大和万里子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
臺　　勇一	病理科診療部長	常(HP)

【筑波記念病院】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	268	217	275	291	280	280	297	285	294	279	262	279	3,307	275.6
迅速病理	1	0	1	1	1	0	3	0	0	1	0	1	9	0.8
剖検	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0.2
細胞診	304	433	571	684	609	683	678	613	602	556	543	515	6,791	565.9

【筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	50	35	65	57	52	46	55	48	43	37	31	65	584	48.7
細胞診	400	369	392	349	356	323	394	332	366	352	316	342	4,291	357.6

【筑波記念病院・筑波総合クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
病理	318	252	340	348	332	326	352	333	337	316	293	344	3,891	324.3
迅速病理	1	0	1	1	1	0	3	0	0	1	0	1	9	0.8
剖検	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0.2
細胞診	704	802	963	1,033	965	1,006	1,072	945	968	908	859	857	11,082	923.5

リハビリテーション科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

①人事においては、常勤医（指導医）2 名は変わりなく、帝京大学リハ科からのローテート後期研修医が渡邉規子医師から徳永貴久医師に交代し、地域包括ケア病棟の入院受け持ちが可能となった。そのほか、非常勤医師が新たに 1 名加わり、その結果常勤医 3 名、非常勤医師は全 4 名となった。

②入院においては、リハ科医が赴任開始した 2016 年度から徐々に増え、2019 年度もその勢いは続いた。新入院患者数、入院のべ患者数とも増加し、回復期リハ病棟は常時満床が続き、年度平均でも 100.1％となった。

③外来では、週 3 日の通常のリハ科診療のほか、専門外来として、それぞれ週 1 回の義肢装具・車いす外来とボツリヌス治療外来は変わらず継続した。

④教育面では、学生実習として、帝京大学医学部の M5 学生臨床実習（リハ医学）と筑波大学の M4 学生臨床実習（社会医学）を継続して請け負い、さらに筑波大学 M5（～ M6）の地域実習で、1 人 2 週間の実習を 4 名受け入れた。医師研修として、初期臨床研修医 2 年目医師の選択科目として、4 名各 1 ヶ月の研修も行った。専門職教育として、リハ部の新卒専門職 27 名の臨床指導も行った。

⑤講座・研修会では、茨城県指定研修推進支援センター主催の研修会「シーティング」（全 2 回）を運営した。

⑥社会活動として、第 7 回全国介護･終末期リハ･ケア研究会　研究大会つくば 2019 を主催し（2019 年 9 月 15 日）、リハ科･リハ部で運営した。その他地域貢献として、障害児の作品の 3 回目の展覧会「大城組の巨匠たち展」（12 ～ 1 月）を開催した。

⑦研究面では、論文（共著）2 編、書籍（分担）1 件、学会発表 6 回、講演 2 回行った。

2．2020 年度の課題・目標

①回復期リハ病棟の稼働率100％のベッドコントロールを継続する。

②回復期リハ病棟での成果指標を継続する。

③地域包括ケア病棟の稼働率を70％以上に維持する。

④訪問リハ、通所リハの質を維持する。

⑤専門外来の件数を維持する。

⑥全国レベル、県レベルの地域リハ支援体制の中核に参画し、情報の早期獲得等、当グループのリハ活性化の推進に役立てる。具体的には茨城県地域リハビリテーション普及促進協議会の委員、茨城県高次脳機能障害支援センター嘱託医、日本リハビリテーション病院・施設協会理事、茨城県リハビリテーション病院・施設協会理事、その他茨城県からの委託事業委員として活動する。

［文責：伊佐地　隆］

【入院件数（筑波記念病院）】

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
新入院患者数	2018	0	1	2	2	2	3	4	3	4	4	1	2	28
	2019	1	5	4	5	1	4	2	4	3	3	4	2	38
入院延べ患者数	2018	553	668	634	611	667	751	814	698	885	873	721	836	8,711
	2019	878	898	788	700	746	781	882	755	735	636	613	662	9,074

【病床利用率（回復期リハ病棟 52 床）】

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
回復期リハ	2018	96.9%	101.1%	101.5%	101.1%	99.6%	97.7%	97.4%	100.8%	99.4%	99.3%	100.3%	99.8%	99.6%
	2019	99.8%	101.2%	100.7%	100.7%	99.5%	100.1%	99.9%	99.5%	100.4%	99.5%	100.1%	99.4%	100.1%

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
伊佐地　隆	リハビリテーション統括部長	常(HP)
安岡　利一	地域リハビリテーション部長	常(HP)
徳永　貴久		常(HP)
渡邉　規子		常(HP)
大黒　春夏		非(HP)
海老原一彰		非(HP)
渡慶次香代		非(HP)
和田　絢子		非(HP)

回復期リハ病棟実績

（1 病棟 52 床：2019 年 4 月～ 2020 年 3 月）

		2018	2019
入院患者数	人	308	307
1ヶ月あたり	人／月	25.7	26.5
退院患者数	人	324	285
1ヶ月あたり	人／月	27.0	23.8
病床稼働率	%	97.7	97.8
平均年齢	歳	73.3	74.6
疾患別患者数（割合）人（%）	脳血管	132(40.9)	107（35.9）
	運動器	189(56.5)	188（63.1）
	廃　用	3(2.6)	3（1.0）
平均在院日数 日	全体	60.3	63.5
	脳血管	85.5	99.6
	高次脳機能障害あり	92.2	107.0
	なし	68.1	84.3
	運動器	42.8	42.8
	廃　用	51.7	73.7
リハ起算日から転入までの平均日数	日	25.4	29.6
看護必要度Ａ項目が１点以上の割合	%	15.5	13.0
重症患者割合	%	43.0	40.7
重症患者Ｂ項目４点以上の改善者割合	%	67.9	73.9
個別リハ提供単位数	単位／人／日	7.9	7.2
在宅復帰率	%	95.4	91.6
実績指数		56.8	50.9

【外来患者数（筑波記念病院）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	83	88	96	104	105	86	87	92	69	92	100	92	1,094
2019	96	87	76	96	83	75	95	86	117	96	93	63	1,063

【専門外来患者数（筑波記念病院）】

義肢装具・車いす外来

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	27	25	22	41	27	16	25	14	10	15	18	14	254
2019	26	27	23	31	20	33	18	27	24	17	14	13	273

ボツリヌス治療外来

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	8	6	5	3	4	4	1	3	3	3	1	4	45
2019	5	2	2	6	1	3	3	4	3	6	6	4	45

救　急　科

【総括】

1．2019 年度の実績報告

2019 年度の救急車の受入は 2,688 台であった。約半数（1,343 人）が入院した。

2．2020 年度の課題・目標

課題

つくば市の救急車搬送台数は人口の増加とともに徐々に増加している。院内の急性期医療のシステムに限界がある。

目標

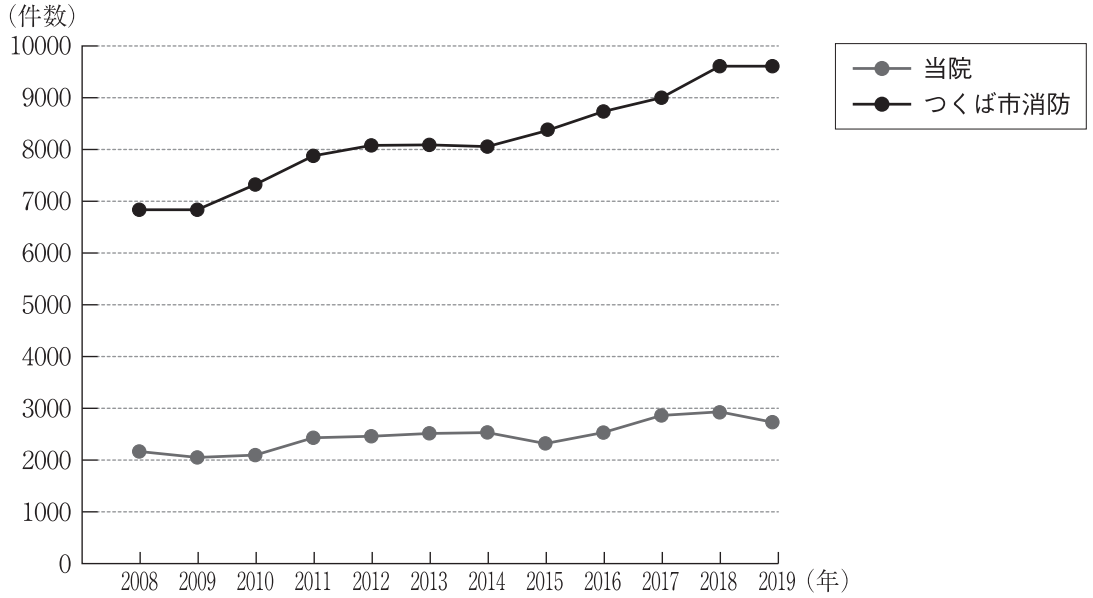
臨床：つくば市の救急搬送増加の一助となれるよう受け入れ増加に努める。重症患者の受け入れ数、入院患者数を増やし、院内の急性期医療の充実をさせる。

教育：初期臨床研修医、専攻医の受け入れを増やし、医の原点である救急医療の発展と人材育成に努める。

研究：学術論文を多数発表し、国内外の救急医学への発展へつなげる。

［文責：阿部智一］

当院及びつくば市消防の救急搬送件数の推移（過去10年）



【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
立川　法正	救急科診療部長	常（HP）
稲葉　健介		非（HP）
楢橋　和真		非（HP）

【ドクターヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	0	0	0	1	1	2	0	1	0	2	0	0	7
2019年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

【ドクターヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	0	2	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	6
2019年度	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	1	5

【防災ヘリ現場救急】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2019年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【防災ヘリ転院搬送】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
2019年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【救急車搬送患者数】

	患者数（搬送台数）	症度別		診療科別			交通事故
		入院	外来	内科系	外科系	救急科	
2018年度合計	2,944名	1,471名	1,473名	1,454名	937名	553名	238名
	2,913台	50%	50%	49%	32%	19%	8%
2019年度合計	2,709名	1,343名	1,366名	1,320名	845名	540名	194名
	2,688台	50%	50%	49%	31%	20%	7%

リウマチ・アレルギー科

【人事】

氏　名	役　　職	勤　務
柏木平八郎	筑波記念会　顧問	非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
372	348	356	367	350	352	360	351	324	357	331	283	4,151

腎　臓　内　科

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
109	98	122	112	134	132	117	121	125	117	109	111	1,407

乳腺・甲状腺外科

【人事】

氏　名	役　　職	勤　務
市岡恵美香		非（HP）
岩淵　　裕		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
465	425	482	497	503	481	501	519	486	423	418	402	5,602

泌　尿　器　科

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
396	370	385	404	408	376	387	387	424	394	370	331	4,632

もの忘れ診療科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
吉井與志彦	もの忘れ診療センター長	常（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
279	262	242	302	237	242	244	240	276	259	238	268	3,089

内　　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
長岡　広香		非（HP）

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
541	529	488	557	624	445	613	591	587	628	503	510	6,616

筑波記念病院　臨床研修医

初期臨床研修医

年次	氏　名	管理病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	末益　貴仁	筑波記念病院	救急（日医）	救急（日医）	地域医療（つくば）	消外	消外	リハビリ	総合診療（筑大）	産婦（東医茨城）	放射線	整形	形成	消外
2	末益　将仁	筑波記念病院	救急（水戸済生会）	地域医療（つくば）	精神（筑大）	総合診療（筑大）	放射線	放射線	代内	腫瘍内科（筑大）	腫瘍内科（筑大）	産婦（東医茨城）	リハビリ	CL
2	渋谷　泰弘	筑波記念病院	リハビリ	産婦（JAとりで）	放射線	放射線	地域保健（保健所等）	地域医療（つくば）	総合診療（筑大）	精神（筑大）	脳外	脳外	救急	救急
2	矢野　輝久	筑波記念病院	地域医療（つくば）	精神（筑大）	耳鼻（筑大）	耳鼻（筑大）	泌尿器（筑大）	耳鼻（東医茨城）	放射線	放射線	整形	産婦（JAとりで）	産婦（JAとりで）	リハビリ
2	河野　慈恵	筑波記念病院	整形	整形	消外	産婦（JAとりで）	地域医療（つくば）	脳外	産婦（筑大）	産婦（筑大）	小児（筑大）	小児（筑大）	放射線	放射線
2	山田　健人	筑波記念病院	放射線	放射線	脳外	地域医療（つくば）	産婦（JAとりで）	産婦（JAとりで）	皮膚（筑大）	形成	形成	救急	救急	代内
2	米倉みなみ	筑波大学附属病院	整形	代内										
2	野本　　怜	筑波大学附属病院	呼内	呼内	消内	消内	代内	循内						
2	佐々木絵美	筑波大学附属病院							血内	血内	呼内	代内		
2	木戸　悠貴	筑波大学附属病院										血内	耳鼻	消内
2	小出　知輝	筑波大学附属病院			整形	整形								
2	西山小百合	筑波大学附属病院					整形	整形						
2	大﨑　祐寿	筑波大学附属病院							整形	整形				
2	中原　僚汰	筑波大学附属病院											整形	整形
2	安藤　高志	筑波学園病院										脳外	血内	
2	大髙　永字	日本医科大学病院							CL					
1	坂本　勇志	筑波記念病院	循内	循内	血内	救急	救急	救急（水戸済生会）	消内	消内	麻酔	麻酔	呼内	脳外
1	佐浦　　勲	筑波記念病院	消内	消内	代内	呼内	循内	循内	麻酔	麻酔	消外	救急	救急	救急
1	根本佳那江	筑波記念病院	消内	消内	循内	循内	麻酔	麻酔	呼内	脳外	救急	救急	救急（水戸済生会）	血内
1	山﨑　幸紀	筑波記念病院	代内	血内	消内	消内	救急	救急	救急（水戸済生会）	心外	循内	循内	麻酔	麻酔
1	堀井　裕司	筑波記念病院	血内	麻酔	麻酔	代内	消内	消内	救急	救急	救急（水戸済生会）	消外	循内	循内
1	若林　宏樹	筑波記念病院	救急			麻酔		消外	循内		血内	呼内	消内	
1	荒井　　貴	東京大学附属病院	血内	整形	救急			呼内	消外		消内		循内	
1	宝田亜矢子	筑波大学附属病院	循内		呼内	血内		代内						
1	梅山　翔平	筑波大学附属病院							循内		代内	血内		呼内

専攻医

年次	氏　名	管理病院	所　　属	期　　間
4	黒田　　純	筑波記念病院	消化器外科	2019 年 4 月 1 日～在籍
4	折居　美波	筑波大学附属病院	麻酔科	2019 年 4 月 1 日～在籍
4	山野　晃生	筑波大学附属病院	脳神経外科	2018 年 10 月 1 日～ 2019 年 9 月 30 日
4	落合　　史	筑波大学附属病院	整形外科	2019 年 10 月 1 日～在籍
3	秋本　　雄	筑波大学附属病院	脳神経外科	2019 年 10 月 1 日～在籍
3	加藤　佑介	筑波記念病院	内科	2019 年 4 月 1 日～在籍

後期研修医

年次	氏　名	管理病院	所　　属	期　　間
6	徳永　貴久	帝京大学病院	リハビリテーション科	2019 年 7 月 1 日～在籍
5	倉橋　果南	筑波記念病院	心臓血管外科	2019 年 4 月 1 日～在籍
5	渡邉　規子	帝京大学病院	リハビリテーション科	2018 年 7 月 1 日～ 2019 年 6 月 30 日
5	清水　知明	筑波大学附属病院	整形外科	2019 年 7 月 1 日～在籍
5	角南　貴大	筑波大学附属病院	整形外科	2018 年 10 月 1 日～ 2019 年 9 月 30 日

業　績　集

【論　文】

循環器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
沼田るり子、内田靖人、新居秀郎、榎本強志、我妻賢司、小関　迪	右冠動脈を責任病変とする急性心筋梗塞に心室中隔穿孔を合併した１例	心臓	51巻5号	527-533	2019.5

消化器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Ueno T, Suzuki H, Ikezawa K. et al.	Influence of Living Environment during Childhood on Helicobacter pylori Infection in Japanese Young Adults	Digestion	doi: 10.1159/ 000502574.	Sep 24;1-6	2019.5
Moriwaki T, Sakai Y, Ikezawa K. et al.	Phase II study of S-1 on alternate days plus bevacizumab in patients aged ≥ 75 years with metastatic colorectal cancer (J-SAVER)	Int J Clin Oncol.	24（10）	1214 - 1222	2019.5
Kazuto Ikezawa, Takeshige Kanamori, Atsuko Soeda, et al.	Helicobacter pylori infection in rehabilitation staff younger than 35 years: Infection surveillance for three years	Journal of Infection Prevention	Volume: 20 issue: 5	240-245	2019.6
沖本忠義、安藤貴志、池澤和人、他	わが国における薬剤耐性 Helicobacter pylori の現状― 2015 ～ 2016 年度耐性菌サーベイランスの集計報告―	日本ヘリコバクター学会誌	21巻1号	142-145	2020.1

呼吸器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Watanabe Hiroko, Okauchi Shinichiro, Miyazaki Kunihiko, Satoh Hiroaki, Hizawa Nobuyuki	Factors Associated With Distant Metastasis in EGFR-mutated Non-small Cell Lung Cancer Patients: Logistic Analysis.	In Vivo	33（4）	1369-1372	2019.8
Watanabe Hiroko, Okauchi Shinichiro, Miyazaki Kunihiko, Satoh Hiroaki, Hizawa Nobuyuki.	Factors associated with recurrent leptomeningeal metastases in patients with EGFR-mutated non-small-cell lung cancer.	Pol Arch Intern Med.	129（11）	836-838	2019.11
Watanabe Hiroko, Okauchi Shinichiro, Yamada Hideyasu, Sato Shinya, Miyazaki Kinuhiko, Kodama Takahide, Satoh Hiroaki, Hizawa Nobuyuki.	Application of Cluster Analysis to Distant Metastases from Lung Cancer.	Anticancer Res.	40（1）	413-419	2020.1
Okauchi Shinichiro, Watanabe Hiroko, Yamada Hideyasu, Sato Shinya, Miyazaki Kunihiko, Kodama Takahide, Satoh Hiroaki, Hizawa Nobuyuki.	The Prognosis of Lung Cancer With Different Metastatic Patterns.	Anticancer Res.	40（1）	421-426	2020.1

消化器外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Hiroyuki Hakoda, Kazumitsu Ueda, Hideo Ichimura etc	Hepatectomy for rapidly growing solitary liver metastasis from non-small cell lung cancer: a case report	Surgcal case Reports			2019.5
Tsunehiko Maruyama, Kazumitsu Ueda, Shuji Suzuki	A case of esophageal cancer complicated with methotrexate-related lymphoproliferative disorder	Clinical Journal of Gastroenterology			2020.2

呼吸器外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
木村正樹、神山幸一、臺勇一	頭蓋内異型性髄膜腫の肺転移の１例	日本肺癌学会雑誌	60 巻１号	38-42	2020.2

心臓血管外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Yasushi Watanabe, Go Kimura, Shinsuke Taguchi, Yoshiki Uehara, Yoshihiro Suematsu	Single Men Have a Higher Morbidity Risk of Acute Coronary Syndrome at a Younger Age than Married Men	Journal of Coronary Artery Disease	25 巻 4 号	98-101	2019.12
Daisuke Arima, Yoshihiro Suematsu, Kanan Kurahashi, Takaharu Shimizu, Satoshi Nishi, Akihiro Yoshimoto	Simultaneous left atrial appendage occlusion via mini-thoracotomy and thoracic endovascular aortic repair in a patient with chronic atrial fibrillation and thoracic aortic aneurysm	茨城循環器研究会雑誌	in press		
Daisuke Arima, Yoshihiro Suematsu, Satoshi Nishi, Kanan Kurahashi, Takaharu Shimizu, Akihiro Yoshimoto.	Recurrence of Aortoenteric Fistula after Endovascular Aortic Repair	Annals of Vascular Diseases	13	90-92	2019
Daisuke Arima, Yoshihiro Suematsu, Satoshi Nishi, Kanan Kurahashi, Takaharu Shimizu,Akihiro Yoshimoto.	Zone 0 thoracic endovascular aortic repair using reverse extra-anatomical aortic arch debranching technique for an anastomotic pseudoaneurysm and acute aortic dissection that developed after Bentall’s surgery combined with Sjögren’s syndrome	Annals of Vascular Diseases	13	103-106	2019
Satoshi Nishi, Daisuke Arima, Akihiro Yoshimoto, Yoshihiro Suematsu.	A case of thoracic endovascular aortic repair for acute retrograde type A aortic dissection with paraplegia	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	in press		
Satoshi Nishi, Kanan Kurahashi, Takaharu Shimizu, Daisuke Arima, Akihiro Yoshimoto,Yoshihiro Suematsu.	A 103-year-old man with a ruptured abdominal aortic aneurysm	The European Journal of Vascular and Endovascular Surgery	in press		
清水隆玄、西智史、吉本明浩、森住誠、末松義弘、大塚俊哉	心原性脳梗塞を繰り返す WATCHMAN 不適応症例に胸腔鏡下左心耳切除術を施行した１例	茨城循環器研究会雑誌	in press		
Yoshimoto Akihiro, Yoshihiro Suematsu, Kanan Kurahashi, Takaharu Shimizu,Daisuke Arima, Satoshi Nishi.	Early results of left atrial appendage exclusion with a novel epicardial clip device	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	in press		

脳神経外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Akinari Yamano, Kazuhiro Nakamura, Kiyoyuki Yanaka	Anterior Cranial Fossa Dural arteriovenous Fistula with Pial Artery Supply	Asian Journal of Neurosurgery	15（1）	176-179	2020.2

リハビリテーション科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
澤俊二・磯博康・山川百合子・千田直人・伊佐地隆・大仲功一・安岡利一・園田茂・鈴木めぐみ・山田将之・酒野直樹・鈴木孝治・萱岐英正・片山惰・才藤栄一・金田嘉清・土屋隆・大田仁史	慢性脳卒中者における HealthLocusofControl と退院後の保健行動との関連性	金城大学紀要	第 19号	7-13	2019.6

【書　籍】

心臓血管外科

著　　者	書　籍　名	出版社	発行年月
末松義弘	その睡眠が寿命を縮める	幻冬舎	2019.1

【学会・講演・セミナー等】

循環器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
Ruriko Numata, Kenji Wagatsuma, Youko Ito, Yasuto Uchida, Hideo Nii, Masayuki Igawa, Tsuyoshi Enomoto, Susumu Koseki	A Severely Calcified Chronic Total Occlusion That Was Successfully Revascularized Using Retrograde Wiring and Anchor-Balloon Technique from the Retrograde Side	24th Cardiovascular Summit TCTAP 2019	Seoul, Korea	2019.4
Kenji Wagatsuma(Panelist)	Left Main, Bifurcation & MVD PCI	24th Cardiovascular Summit TCTAP 2019	Seoul, Korea	2019.4
Kenji Wagatsuma(Panelist)	Complex PCI	24th Cardiovascular Summit TCTAP 2019	Seoul, Korea	2019.4
内田靖人，我妻賢司，沼田るり子，井藤葉子，新居秀郎，井川昌幸，榎本強志，小關迪	高度石灰化病変へのステント不十分拡張部位での ISR に対し , RotationalAtherectomy 後に再度ステント留置し OCT で観察し得た症例	第 54 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会	東京	2019.5
我妻賢司	Radial PCI for Complex and Higher Risk Indicated Patients (CHIP)	循環器 Forum	つくば	2019.5
新居秀郎	SGLT2 阻害薬登場による新時代 ～循環器内科の立場から～	Diabetes茨城 proffessional summit	牛久	2019.6
Kenji Wagatsuma (Lecturer)	Double mini-crush technique: How to treat true trifurcation and double bifurcations by 6Fr TRI	17th Gwangju International Interventional Cardiology Symposium (GICS2019)	Gwangju, Korea	2019.6
内田靖人	高度石灰化病変へのステント不十分拡張部位での ISR に対し , RotationalAtherectomy 後に再度ステント留置し OCT で観察し得た症例	OCT Seminar in Tsukuba	つくば	2019.8

Hideo Nii, Kenji Wagatsuma, Ruriko Numata, Yoshizumi Takei, Youko Ito, Yasuto Uchida, Masayuki Igawa, Tsuyoshi Enomoto, Susumu Koseki	The significance of measuring serum H. pylori antibodies in patients who underwent electivesecond-generation drug-eluting stent implantation,（ポスター）	第 28 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2019	名古屋	2019.9
我妻賢司	重症虚血性心疾患に対する心臓カテーテル治療の最前線	第 217 回茨城県内科学会	水戸	2019.10
内田靖人	急性心筋梗塞および残存狭窄への PCI 後，再血行再建を繰り返した糖尿病患者の経験	第 2 回循環器疾患と糖尿病治療を考える～病診連携懇話会～	つくば	2019.10
Kenji Wagatsuma (Panelist)	Live Case Demonstration 2	4th Complex PCI	Seoul, Korea	2019.11
宝田亜矢子，新居秀郎，小關迪，榎本強志，井川昌幸，内田靖人，井藤葉子，竹井義純，沼田るり子，我妻賢司	細菌性心外膜炎に続発した感染性大動脈瘤破裂の一例	日本循環器学会 第 254 回 関東甲信越地方会	東京	2019.12

消化器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
松倉しほり、添田敦子、大塚公一朗、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、池澤和人	出血を契機に診断した胃石合併進行胃癌の一例	第 354 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2019.4
米倉みなみ、添田敦子、岩井健太郎、小林真理子、越智大介、大塚公一朗、池澤和人	乳び胸水を合併し横隔膜交通症への外科的治療が奏功した肝硬変の一例	第 354 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2019.4
萩原悠也、圷大輔、杉山雄太郎、永渕美帆、水井恒夫、丹下善隆、山浦正道、小松義希、小林真理子、池澤和人、奈良坂俊明、溝上祐士	休薬により改善したメトトレキサート関連大腸リンパ増殖性疾患の 2 例	第 105 回日本消化器病学会総会	石川	2019.5
根本佳那江、小林真理子、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人	ビタミン B12 欠乏貧血の経過観察中に診断に至った多発胃神経内分泌腫瘍の一例	第 355 回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2019.7
小林真理子、池澤和人、末益将仁、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子	切除不能であった 75 歳以上進行膵癌 27 例の臨床的検討	第 17 回日本臨床腫瘍学会総会	京都	2019.7
山崎幸紀、小林真理子、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、一色雄裕、池澤和人	溶血性貧血を合併した重症アルコール性肝不全の 1 例	第 653 回日本内科学会関東地方会	東京	2019.9
加藤佑介、小林真理子、岩井健太郎、越智大介、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人	持続する発熱を主訴に来院し急性巣状細菌性腎炎と診断した 1 例	第 217 回茨城内科学会	茨城	2019.10
堀井裕司、越智大介、小林真理子、萩原悠也、岩井健太郎、大塚公一朗、添田敦子、池澤和人	内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）で根治度 A が得られた胃リンパ球浸潤癌の 1 例	第 106 回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2019.12

血液内科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
坂本勇士	化学療法後に発生した薬剤性無顆粒球症の経過中に PET/CT で骨髄の集積亢進を認めた悪性リンパ腫例	第 651 回日本内科学会関東地方会	東京	2019.6
宝田亜矢子	性リンパ腫治療におけるアントラサイクリン系抗がん剤による心機能障害の発生状況　当科における後方視的検討	第 651 回日本内科学会関東地方会	東京	2019.6

荒井　貴	慢性リンパ性白血病に対する化学療法後に10年以上低γグロブリン血症が遷延した1例	第651回日本内科学会関東地方会	東京	2019.6
一色雄裕	Acute promyelocytic leukemia recurrence with granulocytic sarcoma of the ear cannal	第81回日本血液学会学術集会	東京	2019.10
堀井裕司	分類不能型免疫不全症が疑われた一症例	第217回茨城県内科学会	茨城	2019.10

糖尿病・内分泌代謝内科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
藤田利枝、藤原淳、片山暁子、松田えりか、木内亮子、川嶌あゆみ	CGM/FGM外来におけるiPro2からFreeStyleリブレProへ変更後の比較検討	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	仙台	2019.5
藤原　淳	糖尿病における認知症	生活習慣病と認知症対策	茨城	2019.7
佐浦勲、片山暁子、藤原淳、藤田利枝、沼倉泰二、若林宏樹、立川法正、小關剛	遷延性低血糖で搬送され原因特定に難渋した高容量インスリン自己注射による自殺企図の一例	第217回茨城県内科学会	茨城	2019.10
藤原　淳	糖尿病薬物治療の現状	第173回つくば臨床研究会	茨城	2019.10
藤原　淳	メトホルミンの安全性update	Metoformin update Seminar in Tsukuba	茨城	2019.12

呼吸器外科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
木村正樹・神山幸一・臺勇一	肺癌と乳癌の同時性進行重複癌に対する治療経験	第60回日本肺癌学会学術集会	大阪	2019.12

消化器外科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
上田和光	絞扼性胆嚢炎の1例	茨城外科学会	つくば	2019.5
上田和光	大網出血の1例	日本消化器病学会、関東地方会	東京	2019.7
黒田　純	急性虫垂炎	茨城大腸肛門病	つくば	2019.5

心臓血管外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
吉本明浩、倉橋果南、清水隆玄、有馬大輔、西智史、末松義弘	当院における左心耳閉鎖デバイスを使用した外科的左心耳マネージメント	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019.4
末松義弘、吉本明浩、西智史、有馬大輔、清水隆玄、倉橋果南	急性大動脈解離と閉塞性睡眠時無呼吸症の関連性に対する検討	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019.4
森住誠、倉橋果南、清水隆玄、有馬大輔、西智史、吉本明浩、末松義弘	外傷性大動脈損傷に緊急胸部大動脈ステントグラフト内挿術が奏功した1例	第47回日本血管外科学会学術集会	愛知	2019.5
有馬大輔、倉橋果南、清水隆玄、西智史、吉本明浩、森住誠、末松義弘	EVAR後のｔｙｐｅⅡエンドリークが原因と思われる腹部大動脈瘤十二指腸瘻の1救命例	第47回日本血管外科学会学術集会	愛知	2019.5
西智史、清水隆玄、有馬大輔、吉本明浩、森住誠、末松義弘	右胸腔へ蛇行した広範囲解離性大動脈瘤の1例	第47回日本血管外科学会学術集会	愛知	2019.5
清水隆玄、西智史、有馬大輔、吉本明浩、森住誠、末松義弘	拡大傾向の慢性解離性胸腹部大動脈瘤に対し4回の血管内治療で偽腔完全血栓化が得られた1例	第47回日本血管外科学会学術集会	愛知	2019.5
吉本明浩、倉橋果南、清水隆玄、有馬大輔、西智史、末松義弘	僧帽弁輪に付着した左房腫瘍の1例	第180回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2019.6

森住誠、倉橋果南、清水隆玄、有馬大輔、西智史、吉本明浩、末松義弘	外傷性大動脈損傷に緊急 TEVAR をした 1 例	第 180 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2019.6
有馬大輔、倉橋果南、清水隆玄、西智史、吉本明浩、森住誠、末松義弘	小開胸左心耳閉鎖と TEVAR を同時に施行した症例	第 180 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2019.6
西智史、清水隆玄、有馬大輔、吉本明浩、森住誠、末松義弘	Zone 1 TEVAR 後の type la エンドリークによる胸部大動脈瘤に対し Zenith Alpha 46mm が有効であった 1 例	第 180 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2019.6
有馬大輔、倉橋果南、清水隆玄、西智史、吉本明浩、森住誠、末松義弘	小開胸左心耳閉鎖と TEVAR を同時に施行した症例	第 6 回東京心臓外科クリニカルカンファレンス	東京	2019.6
西智史、倉橋果南、清水隆玄、吉本明浩、森住誠、末松義弘	Zone 2 TEVAR 後の Type la エンドリークに対し surgeon-modified 開窓型ステントグラフトが有効であった 1 例	第 4 回北関東ステントグラフトクラブ	東京	2019.6
清水隆玄、西智史、倉橋果南、有馬大輔、吉本明浩、森住誠、末松義弘	Zone 0 TEVAR により救命しえた上行大動脈感染瘤破裂の 1 例	第 39 回東京胸部外科懇話会	東京	2019.7
吉本明浩、倉橋果南、清水隆玄、有馬大輔、西智史、末松義弘	Less invasive surgical strategy for ventricular septal perforation	第 24 回日本冠動脈外科学会学術大会	石川	2019.7
Satoshi Nishi, Kanan Kurahashi, Takaharu Shimizu, Daisuke Arima, Akihiro Yoshimoto, Sei Morizumi, Yoshihiro Suematsu	Single-stage total endovascular therapy for an aberrant right subclavian artery aneurysm	European Society for Vascular Surgery 33rd Annual Meeting	Hamburg, Germany	2019.9
西智史、倉橋果南、清水隆玄、有馬大輔、吉本明浩、森住誠、末松義弘	EVAR 後に正中弓状靭帯圧迫症候群による虚血性腸炎をきたした 1 例	第 60 回日本脈管学会総会	東京	2019.10
清水隆玄、末松義弘、倉橋果南、有馬大輔、西智史、吉本明浩	心房細動に対する外科的左心耳マネジメントにおける睡眠時無呼吸症候群との関連性	第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会	京都	2019.10・11
有馬大輔、末松義弘、倉橋果南、清水隆玄、西智史、吉本明浩、森住誠他	Stanford A 型急性大動脈解離における凝固線溶系マーカーでの予後予測	第 72 回日本胸部外科学会学術総会	京都	2019.10・11
Takaharu Shimizu, Satoshi Nishi, Kanan Kurahashi, Daisuke Arima, Akihiro Yoshimoto,, Akihiro Yoshimoto, Yoshihiro Suematsu	A Case of Staged Total Endovascular Reentry Closure for Chronic Dissecting Thoracoabdominal Aortic Aneurysm	20th Congress of Asian Society for Vascular Surgery	Bali island, Indonesia	2019.10
末松義弘	Sleep apnea syndrome and cardiovascular disease	第 2 回日本左心耳クラブ研究会	東京	2019.11
末松義弘	外科的左心耳マネジメントにおける現状と今後の課題	第 10 回日本心臓弁膜症学会	東京	2019.11
有馬大輔、倉橋果南、清水隆玄、西智史、吉本明浩、末松義弘	小開胸左心耳閉鎖術と胸部ステンドグラフト内挿術を同時に施行した症例	第 27 回茨城循環器研究会	茨城	2019.11
Satoshi Nishi	Endovascular surgery for cardiovascular diseases-TEVAR EVAR and TAVI	第 1 回 APAC Hybrid OR & Robotics Expert Seminar	茨城	2019.11
清水隆玄、西智史、倉橋果南、有馬大輔、吉本明浩、森住誠、末松義弘	深部静脈血栓症・肺塞栓に対し下大静脈フィルターを留置した重複下大静脈の 1 例	第 181 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2019.11
倉橋果南、末松義弘、清水隆玄、有馬大輔、西智史、吉本明浩	CPAP 認容性からみる急性大動脈解離術後経過の違い	第 181 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2019.11

Daisuke Arima,Yoshihiro Suematsu,Kanan Kurahashi,Takaharu Shimizu,Satoshi Nishi,Akihiro Yoshimoto,Sei Morizumi	Prognostic Predicion with Coagulative and Fibrinolytic markers in Stanford Type A Acute Aortic Dissection	American Heart Association Scientific Sessions 2019	Philadelphia, America	2019.11
Takaharu Shimizu,Yoshihiro Suematsu,Kanan Kurahashi,Daisuke Arima,Satoshi Nishi,Akihiro Yoshimoto	Relationship between Atrial Fibrillation and Sleep Apnea Syndrome in Patients Undergoing Surgical Management of the Left Atrial Appendage	American Heart Association Scientific Sessions 2019	Philadelphia, America	2019.11
田草川明子、寺田綾、末松義弘	心臓血管外科領域における睡眠事務呼吸障害（SDB）への新しい治療体型の構築	第5回　日本NP学会学術集会	東京	2019.11

脳神経外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
山野晃生	Pial arterial supply を持つ anterior cranial fossa dural arteriovenous fistula の1例	第16回日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会	東京	2019.6
中村和弘	心原性脳塞栓症に対する左心耳切除術の適応と有効性	第20回脳神経血管内琉球セミナー	沖縄	2019.6
中村和弘	Stanford A型慢性大動脈解離に合併する頚動脈解離に対しCASを施行した2例	脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2019（BSNET2019）	神戸	2019.7
山野晃生	高齢者の脳卒中回復期リハビリテーションにおける認知機能についての検討	第3回日本脳神経外科認知症学会学術総会	つくば	2019.9
山野晃生	高齢者の脳卒中回復期リハビリテーションにおける認知機能についての検討	日本脳神経外科学会第78回学術総会	大阪	2019.10
小沼邦之	脳脊髄液減少症に対する硬膜外生理食塩水持続注入の有効性	日本脳神経外科学会第78回学術総会	大阪	2019.10
中村和弘	Stanford A型慢性大動脈解離に合併する頚動脈解離病変の治療方針	日本脳神経外科学会第78回学術総会	大阪	2019.10
小沼邦之	動眼神経麻痺を呈した後交通動脈漏斗状拡大の1例	第103回茨城県脳神経外科集談会	水戸	2019.10
山野晃生	深部脳静脈血栓症に対して機械的血栓回収療法と局所血栓溶解療法を併用し治療し得た1例	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（JSNET2019）	博多	2019.11
中村和弘	Stanford A型慢性大動脈解離に対しCASを施行した2例	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（JSNET2019）	博多	2019.11
秋本　雄	経過観察中に自然焼失した未破裂脳動脈瘤の2例	第38回筑波脳神経外科研究会学術集会	つくば	2020.2
中村和弘	脳血管バイパスハンズオンセミナー主催	第5回脳神経外科血管吻合ハンズオンセミナー	つくば	2020.6
中村和弘、吉井與志彦	日本脳神経外科学会認定学会主催	第3回日本脳神経外科認知症学会学術総会	つくば	2019.9

整形外科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
藤田　開	腰椎 short fusion 後の装具に硬性コルセットは必要か？	第 48 回日本脊椎脊髄病学会	横浜	2019.4
戸塚　翔	Radiographic Results of the Effects of Surface Treatment of Acetabular Cartridge Compornent-Laminated Modeling United with Porous 3D Structure versus Hydroxyapatite Coating	EFFORT Lisbon 2019	Lisbon, Portugal	2019.6
菊池直哉	骨切り開大部の補充材料として配向連通 β - リン酸 Ca を用いた OWHTO の画像成績	第 11 回日本関節鏡・スポーツ整形外科学会	札幌	2019.6
角南貴大	日本人における TITS screw の適応	第 45 回日本骨折治療学会	福岡	2019.6
角南貴大	Nonunion of Open Pilon Fracture Salvaged by Ring External Fixator After the Meportasquelet technique and a Free Flap Transfer; A case	4th Combind Congress of the ASAMI-BR&ILLRS societies	Liverpool, UK	2019.8
落合　史	Dual mobility Cup を用いた人工股関節全置換術の小経験	第46回日本股関節学術集会	宮崎	2019.10
渡邊竜之介	SC システムを使用したセメント人工骨頭置換術の術後成績	第46回日本股関節学術集会	宮崎	2019.10
落合　史	人工股関節全置換術後に生じた腓骨不顕性骨折の一例	第50回日本人工関節学会	福岡	2020.2
清水知明	GS カップの術後短期 X 線成績	第 50 回日本人工関節学会	福岡	2020.2
戸塚　翔	POLAR STEM を用いた THA に対する短期成績と接触様式の検討	第 50 回日本人工関節学会	福岡	2020.2
菅谷　久	濃縮自家骨髄血移植 - 再生医療等安全性確保法への適応と現状	第19回日本再生医療学会総会	横浜	2020.3

眼科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
森田由香，平岡孝宏，大鹿哲郎	強度近視眼における外斜視手術で術後内斜視を呈した症例の検討	第 74 回日本弱視斜視学会	浜松	2019.6
森田由香	弱視の種類と治療	第 5 回視機能を考えるセミナー	つくば	2019.7
森田由香	３歳児における眼科検診の重要性について	茨城県医師会保育所嘱託医・幼稚園園医研修会	水戸	2020.2
森田由香	３歳児健診における視力検査について　眼科における幼児健診の重要性	茨城県少子化対策	水戸	2020.2

麻酔科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
富田絵美、田島啓一	左小開胸低侵襲左心耳閉鎖術とエコー所見	日本心臓血管麻酔学会 第 24 回学術大会	京都	2019.9

リハビリテーション科

発　表　者	演　題　名	学会名	開催地	開催年月
Takashi Isaji,Chiho Sasaki,Naoshi Ogata	Cardiovascular Physiological Changes in Scuba Diving	第13回 国際リハビリテーション医学会世界会議	兵庫	2019.6
伊佐地隆、大好崇史、宮崎仁、秋山大、手塚泰輔、斎賀智子、安岡利一、渡邉規子	終末期にいつまでどんなリハをすべきか～看取り患者の実態調査からの検討～	第56回　日本リハビリテーション医学会	兵庫	2019.6
手塚泰輔，宮崎仁，秋山大，大好崇史，齋賀智子，金森毅繁，伊佐地隆，小關剛，長澤俊郎，小關迪	当院急性期病棟における終末期がん患者に対するリハビテーション介入の実態調査	第24回　日本緩和医療学会学術大会	神奈川	2019.6
澤俊二、園田茂、伊佐地隆、大仲功一、安岡利一、山川百合子、金田嘉清、才藤栄一、土屋隆、大田仁史	慢性脳血管障害者の総合的追跡調査（第14報）発病5年　Health Locus of Control と保健行動との関連	第55回日本リハビリテーション医学会学術総会	兵庫	2019.6
伊佐地隆	何をしたか最期のリハ・ケア	全国介護・終末期リハ・ケア研究会. 研究大会 つくば2019	茨城	2019.9
本田祐士、山本昌義、伊佐地隆、立盛貴美子、中原康雄、緒方直史	腎がん術後に対麻痺と大腿切断になった患者が，リハビリテーション医療を行う事で復職に至った1例	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	兵庫	2019.6
海老原一彰、田中直樹、伊佐地隆、山崎正志	回復期脳卒中片麻痺患者に対する歩行感覚提示装置を用いた歩行訓練の有用性の検討	第56回日本リハビリテーション医学会学術集会	兵庫	2019.6
宮崎　仁、秋山　大、大好崇史、斎賀智子、手塚泰輔、伊佐地隆	在宅での看取り患者に対する終末期訪問リハビリテーションの実態調査	第14回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in にいがた	新潟	2019.6
宮崎仁、秋山大、手塚泰輔、斎賀智子、金森毅繁、伊佐地隆、小關剛、長澤俊郎、小關迪	終末期でのリハ専門職による治療プログラムの実態調査～当院療養病棟の現状～	第6回　慢性期リハビリテーション学会	埼玉	2019.2
内田貴一、宮崎仁、大好崇史、手塚泰輔、星智子、金森毅繁、伊佐地隆、長澤俊郎、小關迪	当院急性期病棟で亡くなった患者のリハビリテーション介入の実態について - がん患者と非がん患者との比較	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢 2019	石川	2019.11
星　智子、宮崎仁、秋山大、大好崇史、内田貴一、手塚泰輔、伊佐地隆	終末期におけるリハビリテーション介入の実態調査～当介護老人保健施設の現状～	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢　2019	石川	2019.11

診療支援部門

看　護　部

【総括】

2019 年度は 4 月に新たな看護師 42 名が加わり、看護師の総勢 435 名で始動した。この病院に来て良かったと喜ばれる看護が提供できるように、看護の質向上のために教育と業務改善に努めた。

教育としては当院独自のラダー研修の見直しと、評価方法に焦点をあて改善を試みた。教育の中心は現場であり、実際の看護場面から学びを得る。そのための研修プログラムの再設定を実施した。さらに、研修後の熟達度を評価するために、教育に携わる現場スタッフからの評価を強化した。この評価方法をもとに、今後は能力に応じた報酬制度を導入し能力開発につなげていくことを目標とした。

業務改善としては 2020 年 4 月 1 日の電子カルテ導入に向け、業務効率をあげられるようにクリティカルパスやテンプレートの作成に焦点をあてた。実際に超過勤務の大半は看護記録に費やされている。この問題を電子カルテ導入により解決できればベッドサイドケアの充実につながり、患者に安全・安楽な看護を提供することができる。

次年度も教育と業務改善の二本柱に力を入れて、今以上に良い看護を提供し、患者さんやご家族の方から喜ばれ選ばれる病院になるよう看護スタッフ一同精進します。

【業務実績】

1．2019 年度の実績報告

【教育】

①ラダー評価方法を確立。

②ラダー研修受講生193名中183名合格（合格率95%）

内訳

●ラダーⅠは40名中40名合格（合格率100%）

●ラダーⅡは46名中46名合格（合格率100%）

●ラダーⅢは46名中41名合格（合格率89.1%）

●ラダーⅣは35名中31名合格（合格率88.6%）

●ラダーⅤは26名中25名合格（合格率96.1%）

〉上記合格率はラダー集合研修の合格率であり、ラダー進級審査の合格率ではない。

③ラダー進級審査方法を再検討中。

【業務】

①クリティカルパス作成（患者用）40%作成完了。

②看護業務のタスクシフティング検討中。

●救命士の導入

●看護補助者の業務拡大

2．2020 年度の課題・目標

【教育】

①全ラダー研修合格率100%。

②ラダー進級審査方法を確立する。

③ラダーに伴う職能給が2022年4月から開始できるようにする。

【業務】

①クリティカルパス作成（患者用）100%作成完了する。

②ラダー評価に伴うスタッフの再編成。

③リリーフ体制の再構築。

④救命士を活用したタスクシフティングの検討。

⑤申し送り時間短縮もしくは廃止を実施。

［文責：星　豪人］

【学術業績】

【講師等】

氏　　名	内　　容	依　頼　元	開催年月
星　豪人	実習指導者講習会「push コース　開き方コース」	茨城県看護協会	2019.9.12
安達さゆり	2019 年度　継続教員研修係員「感染看護（実践編）」1 日目・2 日目	茨城県看護協会	2019.5.10 ～ 6.7
	2019 年度　継続教育研修係員「感染看護（基礎編）」1 日目	茨城県看護協会	2019.8.5
	令和元年度　第 1 回教育委員会	茨城県看護協会	2019.8.22
	令和元年度　茨城県看護協会　ブラッシュアップ研修「入退院支援」係員	茨城県看護協会	2019.11.15
田口京子	筑波大学 ICLS	筑波大学附属病院	2019.11.9
吉葉瑛子	日本救急看護学会　災害初期対応セミナー	日本救急看護学会	2019.5.10・11
櫻井江利子	第 18 回　きぬ外傷セミナープロバイダーコース / 第 12 回 13 回更新コース	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会	2019.6.22
	第 1 回　つくば・常総 ICLS　指導者養成コース	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会	2019.7.7
	JMECC（日本内科学会認定内科救急・ICLS 講習会）	総合病院水戸協同病院	2019.7.13
	第 38 回　茨城県母性衛生学会学術集会	茨城県母性衛生学会	2019.9.28
岡野麻由	JMECC（日本内科学会認定内科救急・ICLS 講習会）	総合病院水戸協同病院	2019.7.13
	第 38 回　茨城県母性衛生学会学術集会	茨城県母性衛生学会	2019.9.28
	筑波大学 ICLS	筑波大学附属病院	2019.11.9
	つくば常総 ICLS	つくば・常総地区メディカルコントロール協議会	2019.12.22

【資格等】

氏　名	名　　称	開催場所	開催年月
森　純子	茨城県ファーストレベル	茨城県看護協会研修センター	2019.9.18 ～ 12.3
久松　瞳	茨城県ファーストレベル	茨城県看護協会研修センター	2019.9.18 ～ 12.3
上田悟美	実習指導者講習会（臨床指導者講習会）	茨城県看護研修センター	2019.6.18 ～ 9.12
吉村真衣	実習指導者講習会（臨床指導者講習会）	茨城県看護研修センター	2019.6.18 ～ 9.12
宮澤久美子	学会認定　臨床輸血看護師	難波御堂筋ホール（大阪）	2019.11.2・3
青木周平	茨城県専任教員養成講習会	茨城県立医療大学	2019.4.4 ～ 2020.3.2

【学会・発表等】

発　表　者	演　　題	学　会　名	開　催　地	開催年月
下村真一	ドレーン、点滴ライン管理に関する看護師とセラピストの相互理解の重要性	第21回日本医療マネジメント学会学術総会	名古屋	2019.7.19・20
木内亮子	急性発症１型糖尿病患者との３年間の関わりを通して	第6回日本糖尿病医療学学会	京都府	2019.10.12・13
木内亮子	急性発症１型糖尿病患者との４年間の関わりを通して	日本糖尿病医療学学会　第3回関東地方会	神奈川県	2020.2.9

【座長・インストラクター等】

発　表　者	演　　題	学　会　名	開　催　地	開催年月
鶴見幸子	第 20 回医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	医療の質③（口演）４演題	土浦協同病院付属看護専門学校	2019.9.21

薬　剤　部

【総括】

1．2019 年度の実績報告

1）病院専従薬剤師 28 名体制の構築

リクルートセンターと協力して新卒薬剤師４名、既卒薬剤師１名を確保し、病院専従薬剤師を 27 名とすることができた。2020 年度は年度内の退職予定者１名を考慮して２名程度の新卒薬剤師確保を目指す。

2）新人薬剤師教育プログラムの実践と２年目以降の薬剤師教育

前年度から実施した新人教育プログラムを見直し、２年目以降も継続して段階的に知識、技術を習得できるようにすることとしたが、具体的な実行には至らなかった。

3）残業時間の減少と有給休暇の取得促進

残業時間を 15％減少させる。60 時間 / 月の人数はゼロにする。有給休暇５日の取得をさせることを目指したが、いずれも目標達成はできなかった。

2．2020 年度の課題・目標

1）薬剤管理指導件数の増加

薬剤師のマンパワー低下で薬剤管理指導件数が 2018 年度の 8651 件から 2019 年度は 7574 件と 1000 件以上低下してしまったが、2020 年度はこれを回復させる。

2）病院の増収につながる病棟薬剤業務の展開

外来化学療法室に薬剤師を配置し、抗がん剤無菌調製にとどまらず、外来化学療法を受ける患者に対する薬剤師外来開設の基盤を作る。一般名処方加算の取得、後発医薬品使用体制加算１の維持、退院時薬剤情報管理指導料の取得、現在の入院時面談を入院時支援加算１につなげる等、病院の収入増につながる積極的な業務展開を目指す。

3）残業時間の減少と有給休暇の取得促進

残業時間を 15％減少させる。60 時間 / 月の人数はゼロにする。有給休暇を５日以上取得させる。

［文責：垣内祥宏］

【業務実績】

	入院処方箋枚数	抗癌剤無菌調製件数（入院）	抗癌剤無菌調製件数（外来）	薬剤管理指導（Ⅰ）料件数（380 点）	薬剤管理指導（Ⅱ）料件数（325 点）	退院時薬剤管理指導件数（90 点）	無菌製剤処理料算定件数（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）
2018年度	69,579	2,025	1,233	1,984	6,667	2,119	3,923	9,883
2019年度	70,084	1,690	1,830	1,855	5,719	2,029	3,677	8,318

	薬剤管理指導料Ⅱ（380 点）	薬剤管理指導料Ⅰ（325 点）	退院時薬剤管理指導料（90 点）	無菌製剤処理料（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）	合計
2018年度	¥7,539,200	¥21,667,750	¥1,907,100	¥2,300,000	¥9,883,000	¥43,297,050
2019年度	¥7,049,000	¥18,586,750	¥1,826,100	¥2,092,350	¥8,318,000	¥37,872,200

【学術業績】

学会発表

発　表　者	演　　題	学　会　名	開　催　地	開催年月
緑川拓也、垣内祥宏、小林朋子、安達さゆり、池澤和人	調製から投与終了までを網羅した抗がん剤暴露対策導入の取り組み	第20回日本医療マネジメント学会 茨城県支部学術集会	土浦	2019.9

放　射　線　部

【総括】

1．2019 年度の実績報告

診療放射線技師 27 名、臨床検査技師２名（非常勤１名）、受付事務２名（非常勤１名）体制で、筑波記念病院、筑波総合クリニック、THP（つくばトータルヘルスプラザ）においてCT、MRI、超音波、透視、消化管造影、単純 X 線、核医学の画像診断検査を行った。また、心臓カテーテル、血管造影（頭部、腹部）、ステントグラフト内挿術の治療に携わった。

業務実績件数では筑波総合クリニックの CT 検査、単純 X 線撮影、透視検査においては増加が続いている。透視検査については昨年度に導入したデジタル X 線透視装置のトモシンセシス（断層撮影）検査が整形外科領域の検査数の増加に寄与していると考える。

５月には 12 年間使用した病院の CT 装置が更新され新たにスペクトラル CT 装置が導入された。ゴールデンウィーク期間を利用して臨床への影響を最小限に抑えながら計画的に実施することができた。

教育活動として昨年度に引き続き部署内での若手主体の勉強会、MRI 勉強会、腹部超音波勉強会、乳房検査（マンモグラフィー・超音波）勉強会を定期的に開催し全体のレベルアップに努めた。また、各種検査マニュアルの見直しを行い再整備を行った。認定資格の新規取得者については総合健診指導士１名、X 線 CT 専門認定技師１名であった。

2．2020 年度の課題・目標

新型コロナウイルスを含めた感染予防対策、医療安全対策の強化を他部署と連携しながら行う。医療法施行規則の一部改正により医療被ばくの線量記録と管理が義務づけられ、これに伴い必要となる体制の整備と設備の導入を図る。４月から運用が開始されている電子カルテについては、放射線部が関わるオーダリングシステム等に必要となる情報を整理し円滑な運用を行う。検査機器の保守、整備においては、年間計画を立て実施することにより安全、安心な医療を確保する。各種検査マニュアルの更新および認定資格の取得･更新にも力を入れ、学会発表や勉強会等を活発に行うことにより、豊富な専門知識と豊かな人間性を育み確かな技術の提供に努める。また、診療放射線技師の臨床実習指定病院として、将来を担う技師の育成にも努めたい。

［文責：神宮仁一］

【業務実績】

筑波記念病院（2019.4 ～ 2020.3）

	CT	MRI	超音波	血管造影	心臓カテーテル／アブレーション	単純 X 線撮影	マンモグラフィー	核医学
2018 年度	11,510	4,616	3,989	90	556/91	47,098	5,209	379
2019 年度	10,604	4,480	3,779	67	526/72	45,585	5,265	319

筑波総合クリニック（2019.4 ～ 2020.3）

	CT	MRI	単純 X 線撮影	骨密度	透視検査
2018 年度	6,901	3,845	20,800	884	496
2019 年度	7,293	3,757	20,940	893	527

つくばトータルヘルスプラザ（2019.4 ～ 2020.3）

	施設内での健診		巡回検診	
	胸部	胃部	胸部	胃部
2018 年度	23,373	13,802	12,071	2,567
2019 年度	23,025	13,710	12,626	2,283

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
根本　幸一	T2スター・SWIをキレイに撮像しよう	第14回フィリップスユーザミーティングGyro ibaraki	水戸済生会総合病院	2020.2.15

リハビリテーション部

【総括】

リハビリテーション（以下、リハ）部では新卒職員27名（理学療法士16名、作業療法士10名、言語聴覚士1名）を迎え、常勤リハ専門職240名（理学療法士152名、作業療法士67名、言語聴覚士21名）、非常勤リハ専門職3名（理学療法士1名、作業療法士2名）の計243名で、部長1名、課長4名、係長5名、主任17名、副主任10名の体制でスタートした（筑波中央病院への出向含む）。常勤リハ専門職161名（理学療法士103名、作業療法43名、言語聴覚士15名）を病院の入院部門および外来部門に配置した。2019年5月に言語聴覚士の副主任1名が主任に昇進した。2019年度の退職者は常勤32名（理学療法士18名、作業療法士11名、言語聴覚士3名）であった。2020年度は4月から新卒職員38名（理学療法士20名、作業療法士11名、言語聴覚士7名）が入職見込みである。

リハ実施患者の延べ件数は前年度より入院は2.7%増、外来は1.7%減であった。リハ新規指示患者件数は前年度より入院は0.9%増、外来は1.6%増であった。リハ実施単位数は入院、外来及び訪問の合計において前年度より5.3%減であった。4月時点での常勤のリハ専門職の職員数は前年度より3名減少した。業務に従事したリハ専門職の延べ出勤日数は前年度より5.8%減であった。今年度も昨年度に引き続き医療の質を維持しつつ診療実績の向上に努め、セラピスト1人あたりの1日あたりの診療実施単位数は前年度より0.7%増となった。

2020年度の課題はコロナ禍に応じた部門運営のあり方の確立である。感染対策に主眼を置いた運営方法を検討し実践していく。その他の課題は、前年度に引き続き医療サービスの質及び業務効率の向上である。医療サービスの質の向上のため、各種研修（課題別研修、職種別研修、部門研修）を企画・実践することで人材を育成し、その効果を検証することに取り組んでいくとともに、優秀な人材を獲得するためリクルート活動に一層注力していく。また、新たに導入された電子カルテの機能を活用し、効果的な業務管理方法の確立、業務効率の向上、データベースの構築などに取り組んでいく。更に、部内における各種諸課題の改善のため、2019年度に組織したワーキンググループの活動を継続して推進し、働きやすい職場環境の醸成を図っていく。

より質の高い十分なリハ医療サービスを多くの患者へ提供するために、職員にとって魅力ある職場となることを念頭におきつつ、業務のシステムの見直し及び人材育成のための教育・研修体制の充実を図っていく。

［文責：金森毅繁］

【業務実績】　※（　）内の数値は2018年度の実績

リハビリテーション実施患者延べ件数（件）

入院	129,094（125,709）
外来	16,519（16,808）
訪問	193（283）

リハビリテーション新規指示患者件数（件）

入院	リハビリテーション	4,164（4,127）
	内、理学療法	3,824（3,731）
	内、作業療法	2,304（2,186）
	内、言語聴覚療法	1,226（1,114）
外来	リハビリテーション	500（492）
	内、理学療法	253（230）
	内、作業療法	198（223）
	内、言語聴覚療法	119（117）

リハビリテーション実施単位数（単位）

入院	一般病棟	229,247（313,242）
	回復期リハ病棟	135,430（144,909）
	医療療養・地域包括ケア病棟	71,723（78,330）
外来		49,839（50,170）
訪問		387（552）
計		556,626（587,203）

スタッフ年間延べ出勤日数（人）

入院	一般病棟	21,094（21,922）
	回復期リハ病棟	8,745（9,466）
	医療療養・地域包括ケア病棟	5,043（5,697）
外来		3,159（3,314）
計		38,041（40,398）

患者１人あたりのリハビリテーション実施単位数（単位 / 人）

入院	一般病棟	3.9（4.5）
	回復期リハ病棟	7.2（7.9）
	医療療養・地域包括ケア病棟	2.4（3.0）
外来		2.8（3.0）
訪問		2.0（2.0）
計		3.9（4.5）

その他の業務実績（件）

嚥下造影検査	28（53）
嚥下内視鏡検査	32（45）
リハビリテーション総合実施計画書 入院 外来	 5,389（4,796） 1,968（1,898）
退院前訪問指導	312（322）
退院時リハ指導	2,266（2,130）

支援

内　　容	支　援　先	場　所	実　績
セラピスト学校訪問事業	伊奈特別支援学校	伊奈	年3回
	つくば特別支援学校	つくば	年8回
心身障害児を対象とした機能訓練事業	土浦特別支援学校	常総	年24回

【論文】

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
藤原祐介	骨盤運動パターンの中間域での静止性収縮促通手技がジャンプ動作へ及ぼす即時的効果	ＰＮＦリサーチ	19(1)	13-17	2019.3

【学会発表等】

発　表　者	演　題　名	学　会　名	開　催　地	開催年月
手塚泰輔	当院急性期病棟における終末期がん患者に対するリハビリテーション介入の実態調査	第24回日本緩和医療学会学術大会	神奈川県横浜市	2019.6
冷岡朋美	人工呼吸器管理、自動吸引システム使用患者に対し吸引により吸気での発生を試みた症例	第20回日本言語聴覚士学会	大分県大分市	2019.6
宮﨑　仁	在宅での看取り患者に対する終末期訪問リハビリテーションの実態調査	第14回日本訪問リハビリテーション協会学術大会ｉｎにいがた	新潟県新潟市	2019.6
宮原　悟	デイケアにおける障害者スポーツの有用性の検討	全国デイ・ケア研究大会2019in宮崎	宮崎県宮崎市	2019.7
秋山千秋	当施設における社会参加の促進に向けた取り組み	全国デイ・ケア研究大会2019in宮崎	宮崎県宮崎市	2019.7
足立健太	当院リハビリテーション部におけるインシデント事例提示による医療安全研修の効果	第21回日本医療マネジメント学会学術総会	愛知県名古屋市	2019.7
金森毅繁	当院リハビリテーション部における医療安全研修の試み	第20回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	茨城県土浦市	2019.9
藤原祐介	当院リハビリテーション部におけるキャリア支援に対する取り組み（第１報）	第20回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会	茨城県土浦市	2019.9
佐藤隆博	ハンドリングによる能動的な動きを促進し、介助量が軽減した一症例	第17回日本神経理学療法学会学術大会	神奈川県横浜市	2019.9
篠田　翼	脊柱管狭窄症による痺れに対しアライメント修正を図ったことで症状が改善した１症例	第38回関東甲信越ブロック理学療法士学会	群馬県前橋市	2019.10
荒井ひな	言語機能訓練の受け入れに抵抗があった重度失語症患者を経験して	令和元年度茨城県言語聴覚士会つくば土浦・牛久龍ヶ崎・守谷地域合同症例検討会	茨城県つくば市	2019.10
内山友希	感覚性失語症を認めた脳出血患者に書字障害が残存した一例	令和元年度茨城県言語聴覚士会つくば土浦・牛久龍ヶ崎・守谷地域合同症例検討会	茨城県つくば市	2019.10
星　智子	当老健における終末期でのリハ専門職による関わりの実態について	リハビリテーション・ケア合同研究大会　金沢2019	石川県金沢市	2019.11
内田貴一	当院急性期病棟で亡くなった患者のリハビリテーション介入の実態について　－がん患者と非がん患者との比較	リハビリテーション・ケア合同研究大会　金沢2019	石川県金沢市	2019.11
高橋奈緒子	当院女性リハ専門職の仕事と子育てを両立する上での困難感について	リハビリテーション・ケア合同研究大会　金沢2019	石川県金沢市	2019.11
平澤亮介	新入職員に対するOSCEリフレクションによる自己フィードバックの有用性の検討	第8回理学療法教育学会学術大会　第2回理学療法管理部門研究会	愛知県名古屋市	2019.11
大野沙季	関係性を通して最期まで作業を遂行できるように支援した終末期食道癌の一症例	第５回北関東信越ブロック学会	新潟県長岡市	2019.11
千田美紗樹	医療系大学生の運動の促進要因・阻害要因ついて	第6回日本地域理学療法学会学術大会	京都府	2019.12
遠藤由香	アルコール性肝不全を背景に脳出血を発症した症例の排泄動作自立に向けた作業療法	第12回茨城県作業療法学会	茨城県阿見町	2020.2
笠井亮汰	入院前生活よりも自発性が高まり社会的交流に向上を認めた症例	第12回茨城県作業療法学会	茨城県阿見町	2020.2
金子茉有花	作業を用いた嗜癖的掻破行動の抑制の試み	第12回茨城県作業療法学会	茨城県阿見町	2020.2
高山彩菜	重度認知症の不穏行動に対しての小集団アプローチ	第12回茨城県作業療法学会	茨城県阿見町	2020.2
諸橋美月	大動脈弁置換術後、せん妄が遷延した症例を担当して	第12回茨城県作業療法学会	茨城県阿見町	2020.2
松井祐樹	課題指向型アプローチと行動契約の併用により日常で麻痺手の参加が拡大 した重度左片麻痺の一例	第12回茨城県作業療法学会	茨城県阿見町	2020.2
松永帆南美	離床に難渋した高齢心不全患者に対する作業療法の経験	第12回茨城県作業療法学会	茨城県阿見町	2020.2

【座長・パネリスト】

座長・パネリスト名	セッション名	学　会　名	開　催　地	開催年月
柵山真地子	成人Ｂ	茨城県言語聴覚士会つくば土浦・牛久竜ケ崎地域 合同症例検討会（成人分野）	茨城県つくば市	2019.11
椎名勇人		リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢2019	石川県金沢市	2019.11
宮﨑　仁	IADL・APDL	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢2019	石川県金沢市	2019.11
金森毅繁	業務改善	リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢2019	石川県金沢市	2019.11
山口　愛		令和元年度　研修会：生活期リハビリテーションの役割と連携	茨城県つくば市	2019.12
渡辺　崇		令和元年度茨城県生活期リハビリテーション症例報告会	茨城県水戸市	2020.1
円岡里美	中枢Ａ	第12回茨城県作業療法学会	茨城県阿見市	2020.2

【講演・セミナー等】

発　表　者	テーマ	講演・セミナー名	開　催　地	開催年月
金森毅繁	社会人（臨床実習生）としての心構え	つくば国際大学　臨床実習Ⅱ	土浦市	2019.11
古澤　弦	筑波記念病院の糖尿病運動療法に対する取り組み ～健康増進施設フェニックスとの連携～	地域連携公開講座	つくば市	2019.11
山倉敏之	新しい臨床実習への取り組みと臨床でのコツ	令和2年度茨城県立医療大学総合臨床実習指導者連絡会議セミナー講演	阿見町	2020.1
藤原祐介	中級Ｂコース	社会医学技術学院　日本PNF学会2019年度後期講習会	東京都	2020.2

臨 床 検 査 部

【総括】

1．2019 年度の実績報告

2019 年４月に部署名が臨床検査科から臨床検査部に変更された。

当院の臨床検査部は、生理検査部門（常勤 18 名＋非常勤１名）、健診部門（常勤５名＋非常勤４名）、輸血検査部門（常勤３名）、病理・細胞診検査部門（常勤３名）、検体検査部門（常勤 11 名＋非常勤事務１名）の５部門に分かれている。但し、検体検査部門は委託しているため、当院の人員には含まれない。

2．業務実績

生理検査部門は、昨年度と同様に心電図や下肢エコーなどの検査項目が前年度よりも増加した。

OCST や PSG などの睡眠時無呼吸検査も前年度から更に増加した。

また、外来の頚動脈エコー検査を 2019 年２月から検査部で開始した。検査に携わる検査技師を増員し、順調に行うことができた。

輸血検査部門は、輸血業務全般の見直しを図り、来年度からアルブミン製剤の管理を行えるように準備を進めた。

病理・細胞診部門では、婦人科細胞診における液状化検体細胞診を院内導入することに決定し、来年度の開始に向けて検証中である。また、骨髄穿刺時の標本作成、染色、結果の管理などにも関与している。

検体検査部門では、検査委託先を変更して８年が経過し、１名の転出、２名の転入があった。

院内実施項目の増減はなかった。

来年度にオーダリングシステムから電子カルテシステムに移行することが決定した。

各検査部門でも運用の見直しを行い、移行のタイミングで既存の部門システムの更新や新規システムの採用などが計画された。今年度の後半は、電子カルテシステムのワーキグングを活発に開催し準備にあたった。

3．教育実績

今年度は、新人採用がなかった。

月１回の部内ミーティングで勉強会を実施している。年度末の部内発表会は５回目を迎え、５グループの発表を計画していたが、諸般の事情により中止し回覧形式とした。

専門領域の認定資格は、超音波検査士（循環器領域）と（健診領域）各１名の新規取得であった。

スットキングコンダクターの資格も１名取得した。

4．2020 年度の目標

＊血管診療技師、超音波検査士、細胞検査士などの更なる増員を目指す。

輸血認定技師などの取得できていない新規の認定資格に挑戦する。

＊検体検査委託業者である臨床検査技師との合同研修会なども開催する。

＊電子カルテシステムに移行し、業務の見直しとともに院内に向けての検査関連マニュアルを整備する。

＊患者へ検査に関する説明などができる検査技師を目指し教育に取り組む。

［文責：大森美恵子］

【臨床実績】

生理検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
ECG	1,294	1,220	1,260	1,288	1,136	1,146	1,329	1,209	1,203	1,249	1,097	1,159	14,590	1,216
24ECG	132	110	113	90	116	100	116	129	108	136	95	103	1,348	112
TET	5	1	3	2	1	0	2	2	2	3	2	3	26	2
UCG	519	476	506	471	451	443	492	479	494	495	450	393	5,669	472
下肢エコー	82	93	88	96	84	96	122	76	84	82	75	59	1,037	86
頚動脈エコー	3	8	4	8	7	6	14	7	8	4	3	3	75	6
肺活量	202	220	216	212	208	197	216	192	226	200	185	181	2,455	205
脳波※	16	15	28	32	38	16	26	17	20	17	15	20	260	22
ABI	87	93	94	95	82	97	95	94	103	119	109	76	1,144	95
伝速	8	7	11	4	5	6	4	7	7	6	8	9	82	7
術中MEP･ABR	3	3	3	3	3	2	7	3	3	3	2	1	36	3
OCST	66	64	65	64	69	64	61	63	52	54	52	44	718	60
PSG	3	6	6	9	9	6	7	7	9	8	8	5	83	7
呼気 NO	31	47	39	48	39	37	55	50	56	43	48	28	521	43
UBT	46	61	51	58	44	48	49	43	67	55	46	47	615	51
CGM	4	7	8	4	5	7	4	13	7	10	5	5	79	7
純音聴力	297	309	324	339	262	293	351	283	272	275	235	266	3,506	292

※つくばトータルヘルスプラザのドック件数を含む

■は 2018 年度より増加した検査項目

病理・細胞診検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計	月平均
病理	318	252	340	348	332	326	352	333	337	316	293	344	3,891	324
細胞診※	704	802	963	1,033	965	1,006	1,072	945	968	908	859	857	11,082	924
骨髄穿刺	22	19	23	24	20	35	27	24	22	27	26	17	286	24

※つくばトータルヘルスプラザのドック・健診件数を含む

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
和田 英明	IVC フィルター留置の判断に超音波検査が有用だった DVT 症例	第39回 日本静脈学会総会	名古屋	2019.7
和田 英明	CVT を中心とした検査部としての静脈血栓症への取り組み	第60回 日本静脈学会総会	東京	2019.10

臨 床 工 学 課

【総括】

1．2019 年度の実績報告

昨年度は緊急対応件数の増加に伴い対応するスタッフの数が不足していたため、緊急業務に従事するためのスタッフの育成に重点を置いた。オンコール待機人数を 2 名体制とし緊急の心臓外科手術や心臓カテーテル治療に即応できる体制を整えた。

人工心肺部門におけるスタッフも技術認定資格を取得することができ、今後も心臓外科領域において専門的な技術提供ができるようになる。

技術提供でここに挙げてあるものは手術室・心カテ室などにおける手術・治療・検査である。開心術と人工心肺の件数は緊急症例の増加に伴い夜間の緊急対応件数が増えた。また、大動脈ステントの件数は増加した。心臓カテーテル治療の件数は昨年と比して変わりはなかったがアブレーション件数は減少した。整形外科領域で使用する自己血回収は昨年と比して変わりはなかった。

生命維持管理装置では人工呼吸器の管理日数は昨年と比して増加傾向であり、昨年同様に非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の使用が増えている。

血液浄化業務では、昨年と比して血液透析（HD）は減少したが、持続緩徐式血液濾過透析 (CHDF) は増加した。心臓外科手術件数や心臓カテーテル治療件数から勘案するに緊急手術などで重症患者が増加したためと思われる。

ペースメーカー・ICD などの植込みデバイスに関しては増加傾向が伺える。そのため、ペースメーカー外来検査件数も増加となっている。

医療機器定期点検の件数では昨年と比して変わりはない。これは病棟全体での使用頻度や運用が安定したため医療機器の増設を行わなかったためである。

2．2020 年度の課題・目標

S 棟病棟や各病棟の運用が安定してきたことに伴い、患者監視装置やその他の医療機器の使用頻度が安定してきたので、各病棟の使用頻度や重症度を考慮しそれぞれの病棟への医療機器貸出しを効率よく運用して管理していく。

各医療機器の老朽化が進んできているため、計画的に更新時期を検討して適切に更新を進めていく。

各病棟で使用される医療機器を中心とした勉強会を開催し、使用する医療機器の安全管理に努めることを目標にしていく。各々が全ての業務を遂行できることを目標とし、また、施設基準に必要な各種資格を取得できるように学会や講習などに積極的に参加し、必要な技術や知識の習得に取り組んでいく。

［文責：助川　節］

【業務実績】

技術提供

	2018 年	2019 年
開心術	81 件	92 件
人工心肺	80 件	92 件
大動脈ステント	56 件	62 件
自己血回収	336 件	338 件
心臓カテーテル検査	556 件	526 件
緊急心カテ※	79 件	74 件
ＰＣＩ※	204 件	193 件
緊急ＰＣＩ※	48 件	43 件
アブレーション	91 件	70 件
ペースメーカ植込み	28 件	36 件
ICD 植込み	6 件	6 件
CRT 植込み	3 件	3 件
末梢血幹細胞採取	2 件	18 件

※ PCI は心臓カテーテル検査に含む
※緊急は上位項目に含む

血液浄化施行実績

	2018 年	2019 年
血液透析	98 件	53 件
持続緩除式血液濾過透析	47 件	83 件
血液浄化	20 件	4 件

生命維持管理装置管理実績

	2018 年	2019 年
ＩＡＢＰ	14 件 /66 日	18 件 /78 日
ＰＣＰＳ	5 件 /18 日	7 件 /12 日
人工呼吸器	2,568 日	3,396 日
ペースメーカー	467 件	502 件
ＩＣＤ	112 件	99 件
ＣＲＴ	36 件	37 件

医療機器点検

	2018 年	2019 年
シリンジポンプ	202 件	215 件
輸液ポンプ	325 件	359 件
除細動装置	4,343 件	4,239 件
人工透析装置	582 件	588 件
患者監視装置	9,644 件	10,185 件

※件数は延べ台数

栄養管理課

【総括】

1．2019 年度の実績報告

（ア）体制

今年度より、部署名が栄養管理課に変更となった。

栄養管理課では、新卒の常勤管理栄養士３名を加えた常勤管理栄養士計 11 名（病院９名、クリニック１名、老健１名）と常勤栄養士１名の計 12 名、役職者として主任１名、副主任１名の体制でスタートした。

2019 年５月に常勤管理栄養士１名が育児休暇から復帰した。2019 年度の産前後・育児休暇取得者は２名であり（５月に１名、９月に１名）、退職者はいなかった。2020 年度は４月に常勤管理栄養士２名が入職見込み、同じく４月に常勤管理栄養士１名が育児休暇から復帰予定である。

日本栄養士会で 2013 年９月に策定された【病院管理栄養士ビジョン - 概念図】では、栄養部門のあるべき姿として、部門長１名、教育担当者１名、給食管理業務統括１名、地域栄養ケアステーション担当者１名、外来栄養指導担当者１～２名、そして 50 床（１病棟）に管理栄養士１名の常駐を掲げている。当課では今年度も部門体制の強化に努めてきた。昨年度に管理栄養士１名が専任として常駐した回復期リハビリテーション病棟に倣い、患者栄養サポートの需要が特に高いＳ棟３階東病棟およびＳ棟５階西病棟にも同様に管理栄養士を常駐させた。

（イ）業務

栄養食事指導の延べ件数は、前年度より入院時指導は15％減、外来時指導は11％減であった。栄養サポートチーム（Nutrition Support Team: 以下 NST）延べ件数は、前年度より総回診件数は 100％増、加算件数は 144％増であった。

今年度は、栄養食事指導の件数維持に対する取り組みに加え、NST 件数増加に対する取り組みに注力した。

2．2020 年度の目標

【病院管理栄養士ビジョン - 概念図】に沿った栄養部門のあるべき姿を求めていく。主に管理栄養士常駐病棟での NST 加算算定件数の増加が著しいことから、50 床（１病棟）に管理栄養士１名の常駐体制の構築を推し進めていく。そして、栄養食事指導件数の安定化および NST 件数増加を目指す。

人材育成のための教育・研修体制を整え、また職員にとって魅力ある職場環境も実現していく。

［文責：松浦史生］

【業務実績】

栄養食事指導 件数推移

		2017 年度	2018 年度	2019 年度
病　院（入院）	個人栄養指導	1,079	1,295	1,119
	集団栄養指導	39	66	40
クリニック（外来）	個人栄養指導	643	954	858
	集団栄養指導	75	70	51
合　　計		1,836	2,385	2,068

栄養サポートチーム加算 件数推移

	2017 年度	2018 年度	2019 年度
加算	368	525	1,281
非加算（回復期・療養・地域包括）	177	351	477
合　　計	545	876	1,758

資格取得状況

認定資格等	人数	前年度増減
日本糖尿病療養指導士	2	－ 1
栄養サポートチーム担当者	4	＋ 1
栄養サポートチーム専門療法士	1	
静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士	2	
栄養経営士	2	

（2020 年 3 月 31 日現在）

実習受け入れ実績

月	学校名	人数	実習領域
8	常磐大学	2	臨床栄養臨地実習

医 療 相 談 室

【総括】

2019年度は前年より社会福祉士２名減員となり、看護副部長１名、退院支援看護師５名、社会福祉士２名の体制で業務に取り組んだ。相談内容の内訳では、退院支援が９割を占めるが、この退院支援を行う過程に家族関係や経済的支援、制度利用等の相談も含まれている。業務実績では、医療相談室で介入した退院者数は、前年より300件増加した。地域包括ケア病棟への転院相談は前年度より50件増加しており、地域の医療機関や居宅介護支援事業所に病棟の案内を行った成果であると考えられる。

前年度の方針で掲げた医療介護連携における地域活動については、人員が減少したことで社会福祉士１人に係る業務量が増加し、地域ケア会議への参加や近隣の病院・施設見学など院外活動に参加するまで及ばなかった。連携医療機関や居宅サービス事業所との面会については、入院時の情報収集や退院前カンファレンスを積極的に行った。

退院支援看護師と社会福祉士との問題解決に向けた事例検討、業務改善を目的とした勉強会、医療相談室と居宅介護支援事業所の合同で行う勉強会を月１回継続し、個人のスキルアップを図り、より効率的な業務を遂行できるよう努めた。

【2020年度方針】

入院時から退院を視野に入れた支援を行う流れが構築され、実績数を維持･向上することができていると思われる。現在地域包括ケアシステムの推進のための取り組みの一つとして、入院時から支援が開始されることが注目されている。今後は関係機関と連携して入院前の状況を把握し、入院後の病棟職員との情報共有が行えるよう業務の拡充を図っていきたい。

［文責：佐藤直子］

【業務実績】

MSW･退院支援看護師介入による退院者数

総　数		1,310
内　訳	自　宅	785
	施　設	247
	転　院	92
	死　亡	191

入退院支援加算

総　数		1,117
内　訳	急性期	654
	回復期	183
	地域包括	241
	療　養	39

相談件数

総　数		13,354
内　訳	退院支援	12,381
	転院相談	664
	患者サポート	309

入院依頼数

		総　数	受　入	断　り	キャンセル
総　数		491	160	121	210
内　訳	急性期	10	8	1	1
	回復期	287	62	76	149
	地域包括	175	89	29	57
	療　養	21	3	15	3

臨　床　心　理

【総括】

1．2019 年度の実績報告

2019 年度は 2019 年３月末で常勤職員が１名退職し新たに４月から常勤職員が１名入職、同じく４月に常勤職員が１名育児休暇より復帰し、常勤臨床心理士３名での新年度開始となった。その後、新入職員が５月末に家庭の事情で退職したため、それ以降２名体制での運営となった。業務内容は昨年度同様、心理検査業務・カウンセリング業務・メンタルヘルス業務が中心であった。

心理検査では全実施件数が 2018 年度実施総数の 94％であった。全体としては減少傾向にあるものの、小児を対象とする知能検査（WISC- Ⅳ）の実施数が前年度比 1.7 倍とこれまでの小児科からの依頼が増加している流れは継続しており、加えて前年度実施数が 0 であった精神科依頼の成人知能検査や記憶の検査（WMS-R）、人格検査の実施が増加し、個別対応のニーズが高い１年であった。増加した検査はいずれも実施および結果処理に非常に時間を要するため、全体的な業務数が抑えられる結果となった。もの忘れ外来で依頼される ADAS の実施が最も影響を受けることとなり前年度比 30％減となった。認知機能検査の実施が前年度の半数程度に留まっているものの、様々な科から依頼される流れも前年度と変わらず維持されている。年度の後半には小児科より新しい種類の検査依頼が入るようになり、徐々に実施数が増えてきている。

カウンセリング業務は前年度の業績を維持することができた。今年度も東京カウンセリングセンターからの委託による相談が多い結果となった。病棟でのカウンセリングは依頼がなされたものの継続した関わりには至らなかった。

メンタルヘルス業務においては相談者数は横ばいで個別での対応は維持できたが、研修依頼が減少した。これまで続けてきた「こころの相談室だより」の発行を一時的に中断せざるを得ない状況となってしまい職員全体へ周知が不十分であった。

年度目標として掲げていた精神科からの依頼数の増加については成人対象の心理検査の実施数が増加したことにより目標がひとつ達成できたと思われる。科ごとで見ると実施数が増加しているところもあるが、全体的な実績数の増加には至らず、活動の周知も不十分となってしまった点は改めて今後の課題であると思われる。

2．2020 年度の課題・目標

2019 年度は結果的に２名体制という構造的に不十分な体制になってしまい、体制の強化という点がまず課題になると思われる。2020 年度は３名体制を維持できるようさまざま配慮していきたい。業務内容としてはこれまでと引き続き『各科の依頼に幅広く応える』ことに加え、各業務の精度を上げていくことで時間短縮を図り、業務数の拡大へと繋げていくことを目標とする。まずは今年度規模が縮小したもの忘れ外来の依頼やメンタルヘルス活動を回復させていくことを目標とし、その点を達成したうえでさらなる業務拡充の手立てを探っていきたい。

［文責：高橋晶子］

【業務実績】

心理検査

	検査内容		2018 年度	2019 年度
病院・クリニック	発達及び知能検査	WAIS- Ⅲ成人知能検査	0	13
		WISC- Ⅳ知能検査	46	78
		田中ビネー知能検査 Ⅴ	3	3
		新版 K 式発達検査	51	57
	人格検査	ロールシャッハテスト	3	4
		描画テスト（バウム、HTP）	2	4
		文章完成法（SCT）	1	4
		P-F スタディ	0	1
	認知機能検査 その他の心理検査	ADAS	347	244
		WMS-R	0	9
		K-ABC Ⅱ	0	1
		長谷川式知能評価スケール	31	16
		MMSE	29	16
		かなひろいテスト	23	16
		Moca-J	3	1
		POMS 2	0	1
		TMT	0	2
		読み書きスクリーニング検査	0	7
	小計		539	477
THP	神経心理検査	小計	510	521
		合計	1,049	998

カウンセリング

		2018 年度	2019 年度
THP	初回	12	13
	継続	56	55
	小計	68	68
病棟	初回	0	1
	継続	0	0
	小計	0	1
	合計	68	69

メンタルヘルス

		2018 年度	2019 年度
相談対応	初回	5	7
	継続	12	8
	小計	17	15
その他	研修会打ち合わせ等	4	3
	相談室だより発行	6	0
	小計	10	3
	合計	27	18

院内研修

講　　師	研修名（依頼元）	開催年月
高橋晶子	新入職員研修「ストレスマネジメント」（総務部）	2019.4
石澤美幸	「ストレスマネジメント研修ラダーⅠ」（看護部）	2019.9
高橋晶子	国試対策講義「心理検査について」（リクルートセンター）	2019.11

地域医療連携部

【総括】

2019 年度は、紹介件数を月 200 件をコンスタントに超えることを目標とした。

開業医からの垣根を低くし紹介数増加を目的として、「第１回真壁医師会・筑波記念病院医療懇話会」を開催し、真壁医師会の医師と顔の見える関係作りの貴重な機会を得ることができた。

真壁医師会から新たに３名の登録医を増加することができた。

来年度も引き続き病院全体で、紹介件数・逆紹介件数の増加の取り組みや、登録医の増員に取り組んでいきたい。

［文責：川嶋慎也］

【業務実績】

地域医療支援病院 紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
84.8	89.1	84.0	82.6	84.2	76.5	83.2	85.8	79.0	79.6	86.4	82.5	83.1

地域医療支援病院 逆紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
42.9	41.2	54.2	57.6	57.5	58.0	58.4	63.7	57.3	69.9	74.8	74.2	59.1

紹介患者数（筑波記念病院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
初診紹介数	131	140	143	142	138	132	128	138	150	126	141	111	1,620	135
（外　来）	72	88	89	91	69	72	86	72	81	64	68	69	921	77
（入　院）	59	52	54	51	69	60	42	66	69	62	73	42	699	58
再診紹介数	46	70	70	65	48	65	47	41	69	61	53	42	677	56
（外　来）	20	25	26	33	25	28	21	14	34	21	21	25	293	24
（入　院）	26	45	44	32	23	37	26	27	35	40	32	17	384	32
紹介状総数	177	210	213	207	186	197	175	179	219	187	194	153	2,297	191

逆紹介算定数（筑波記念病院）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
208	229	251	229	225	206	205	213	227	195	193	210	2,591	215.9

【当院登録医医療機関一覧】

つくば市医師会（順不同）

あおやぎ医院	清水こどもクリニック	緑クリニック医院
あつしクリニック	仁愛内科医院	みなのクリニック内科呼吸器科
天貝整形外科クリニック	杉谷メディカルクリニック	南大通りクリニック
ありま皮膚科クリニック	すぎやま内科皮フ科クリニック	宮川内科・胃腸科医院
飯岡医院	鈴木医院	宮本内科クリニック
飯田医院	高田眼科	みらい平クリニック
飯村医院	高田整形外科	山中医院
池野医院	竹園ファミリークリニック	ちかつクリニック
いしかわ耳鼻咽喉科クリニック	つくば在宅クリニック	青空ホームクリニック
うえの整形外科	つくばシティアすえひろ眼科	せせらぎ在宅クリニック
江原こどもクリニック	つくばシティア内科クリニック	さくら内科・呼吸器内科クリニック
太田医院	つくばシティアビル皮フ科	清宮眼科皮膚科
大野医院	つくばセンタークリニック	サンシャイン・クリニック
大穂皮膚科クリニック	つくばねむりとこころのクリニック	おいかわ腎泌尿器クリニック
大見クリニック	寺崎クリニック	小池医院
岡野整形外科・内科クリニック	東郷医院	こまつ内科クリニック
小倉医院	東光台内科胃腸科クリニック	紫峰の森クリニック
小田内科クリニック	中川医院	つくばシティアビル整形外科
樫村内科消化器科クリニック	長沢眼科	つくばすずらん皮膚科クリニック
かつらぎクリニック	なかざわクリニック	つくば辻クリニック
川井クリニック	成島クリニック	つくば白亜クリニック
菊池内科クリニック	二の宮越智クリニック	並木内科クリニック
木村クリニック	根本クリニック	沼尻整形外科・胃腸科
倉田内科クリニック	のぐち内科クリニック	谷田部診療所
研究学園いいむら耳鼻咽喉科	のむら耳鼻咽喉科クリニック	ユーカリ医院
研究学園クリニック	花クリニック　南大通り	ユークリニック
こだま在宅クリニック	林医院	渡辺医院
コミュニティクリニック・つくば	ひがし外科内科医院	きくち呼吸器内科クリニック
坂根Ｍクリニック	ヒルトップクリニック	竹園眼科
酒寄医院	広瀬医院	おがわ内科
さとうクリニック	広瀬クリニック	耳鼻咽喉科　大橋医院
柴原医院	北條医院	竹園皮膚科医院
耳鼻咽喉科　学園の森クリニック	ホームオン・クリニックつくば	渋谷クリニック
ほりかわクリニック		

真壁医師会（順不同）

明野中央医院	なかはら整形外科医院	下館胃腸科医院
阿部田医院	中山医院	直江医院
飯田医院	仁保内科医院	しもだて中央クリニック
大塚医院	根本医院	さいとう整形外科
落合医院	野中医院	おおもり幸町クリニック
介護老人保健施設マカベシルバートピア	秀村医院	のかおい整形外科
かくらいクリニック	古橋医院	加納内科胃腸科
菊山医院	古橋耳鼻咽喉科医院	すわクリニック
菊山胃腸科外科医院	松岡整形外科	池田整形外科
ごとうクリニック	三津山クリニック	新井内科医院
坂入医院	宮本医院	玉野医院
砂沼湖畔クリニック	山口医院	とみざわハートクリニック

下條整形外科	横瀬医院	佐々木整形外科
田崎内科医院	渡辺クリニック	遠藤産婦人科医院
つくし野クリニック	浅田医院	さとうクリニック
とやまクリニック	あけの元気館前クリニック	長倉内科・外科クリニック
ひろせ内科クリニック		

きぬ医師会（順不同）

荒川医院	中島医科歯科クリニック	海老原医院
いとう内科胃腸科医院	ふなやま内科クリニック	河村胃腸科外科医院
大塚クリニック	横瀬医院	存身堂医院
岡本医院	高橋医院	天王前クリニック
桜橋クリニック	寺田医院	松﨑医院
しば医院	安達医院	横田医院
耳鼻咽喉科染野クリニック	石塚医院	須澤内科糖尿病医院
常総メディカル	岩本医院	鈴木内科整形外科医院
植竹医院		

（2020 年 3 月 31 日現在）

【地域医療連携部（地域医療連携公開講座）】

内　　容	講　　師	場　　所	年月日	参加者数
liquid biopsy の現状と将来	東京大学医学研究所 湯地　晃一郎	筑波記念病院	2019.5.15	52
DOAC を用いた DVT 治療について	榎本　強志	筑波記念病院	2019.6.21	64
脳卒中のエビデンスを支える医療連携	脳血管研究所三原記念病院 神澤　孝夫			
高血圧循環器疾患と睡眠時無呼吸症候群（SAS）	自治医科大学 苅尾　七臣	筑波記念病院	2019.7.5	109
急性大動脈解離と SAS の関係	末松　義弘			
新規糖尿病治療薬の合併症予防 ～基礎・臨床研究からみえてきたもの～	獨協医科大学病院 城島　輝雄	筑波記念病院	2019.9.13	40
当院におけるトルバプタンの使用経験から	榎本　強志	筑波記念病院	2019.10.25	79
高齢者における心不全治療 ～心不全再入院と ADL 低下を防ぐために～	公立陶生病院 味岡　正純			
超高齢社会における救急医療	日本医科大学付属病院 横田　裕行	筑波記念病院	2019.11.8	86
筑波記念病院の糖尿病運動療法に対する取り組み	古澤　弦	筑波記念病院	2019.11.15	84
ゼロから始める！糖尿病運動療法	獨協医科大学埼玉医療センター 原　健二			
日常診療に潜む二次性心筋症の診療と新しい心臓再生法の開発	筑波大学 家田　真樹	筑波記念病院	2019.11.19	54
第 11 回つくば内視鏡ライブセミナー		筑波記念病院	2019.11.30	81
ライブデモンストレーション　ESD 治療のポイント	埼玉医科大学国際医療センター 野中　康一			
本日の症例を振り返って	池澤　和人			
地域包括支援センターの役割と活動内容	井ノ口　美樹子	筑波記念病院	2019.12.6	76
人生の最終段階の医療ケアについて	環境省　特殊疾病対策室 松岡　輝昌			
令和 2 年診療報酬改訂について（院内のみ）	株式会社メディセオ 田村　真治	筑波記念病院	2020.3.13	63

委　　員　　会

病院運営管理会議

Ⅰ．目的及び機能

病院事業の施策、計画及び運営に関することについて協議、検討を行う。また、医療安全・感染対策・医師研修等の確保と推進を図ることを目的とし、それらに係る委員会を統括する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	13	臨床工学課	1
看護部	1	医療安全管理室	1
薬剤部	1	感染管理室	1
リハビリテーション部	1	本部・事務部	5
臨床検査部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．他 活動内容

・医療安全管理委員会、医療安全対策チーム部会の報告
・感染対策管理委員会、感染症対策チーム部会の報告
・臨床研修管理委員会の報告
・病院機能改善管理委員会の報告
・診療情報等の検討

［文責：長澤俊郎］

医療安全管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院管理者の諮問に基づき設置され、医療安全管理に係わる問題点や緊急的検討事項などの政策を管理者に答申し、意思決定を行い、医療安全体制の確保および推進を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	薬剤部	1
医療安全管理室	1	臨床工学課	1
感染管理室	1	本部・事務部	1
看護部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回（3 月の開催は、COVID-19 による感染対策のため資料のみ配布とした）

Ⅳ．協議事項

2019.4.24	2018 年度インシデント・アクシデント評価報告 「筑波記念病院における医療に係る安全管理指針」「医療安全管理委員会規約」 「医療安全対策チーム規約」「転倒転落対策 WG 規約」継続について承認
2019.5.29	カリウム製剤の管理について「医療事故防止マニュアル」への項目追加を承認
2019.6.26	患者からの暴力時の対応について協議 関東甲信厚生局適宜調査の結果報告
2019.7.31	2019 年度保健所立ち入り調査結果報告 医療安全対策チームのメンバー構成について協議し、筑波総合クリニックの代表として、看護部だけでなく事務部門もメンバーとして参加となった。
2019.8.28	「院内医療事故調査会議」新規設置報告・承認 「医療事故対策委員会規約」「医療安全管理組織図」「重大事故報告手順」一部改訂について承認
2019.9.25	輸血の管理について協議
2019.10.30	患者確認の体制について協議
2019.11.27	2019 年度医療安全推進週間の企画について承認
2019.12.25	「看護師のワンショット禁止薬」の周知について協議 酸素ボンベの取り扱い基準について報告
2020.1.29	CV 挿入手技における当院の資格基準の必要性について協議 オカレンス報告基準について協議
2020.2.26	インシデント報告時のレベル分類変更について承認 オカレンス報告基準変更について承認
2020.3.25	下記を資料として配付した。 次年度の目標と年間計画 2019 年度第 12 回医療安全対策チーム会資料

［文責：池澤和人］

医療安全対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理委員会の総括のもと、各部署で発生した問題事象の報告および、現場に即したより実　　効性のある医療安全対策が実施できる体制の整備に努め、情報共有することで再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	臨床検査部	2
医療安全管理室	1	臨床工学課	1
感染管理室	1	栄養管理課	1
看護部	15	医療相談室	1
薬剤部	1	本部・事務部	2
放射線部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
リハビリテーション部	5	筑波総合クリニック	1

Ⅲ．会議　開催回数

11 回（3 月の開催は、COVID-19 による感染対策のため資料のみ配布とした）

Ⅳ．協議事項

2019.4.23	2019.3 月のインシデント・アクシデント報告 2018 年度インシデント・アクシデント評価報告 「医療安全対策チーム」「転倒転落対策 WG」規約継続について承認 医療安全対策ニュース 5 月号発行「安全確認の徹底」作成：手術室 安全ラウンド実施（場所：手術室、Ｓ３東病棟、筑波総合クリニック、救急センター、放射線部）
2019.5.28	2019.4 月のインシデント・アクシデント報告 医療安全対策ニュース 6 月号発行「安全・安心な経腸栄養療法」作成：栄養管理課 安全ラウンド実施（場所：臨床検査部、Ｓ５西病棟、Ｓ４西病棟）
2019.6.25	2019.5 月のインシデント・アクシデント報告 「医療事故防止マニュアル・第 11 章カリウム製剤の管理について」項目追加を承認 関東甲信厚生局適宜調査の結果報告 医療安全対策ニュース 7 月号発行「安全な移乗動作」作成：集中治療室 安全ラウンド実施（場所：リハビリテーション部、総合外来、1 号棟 2 階病棟
2019.7.23	2019.6月のインシデント・アクシデント報告 医療安全対策ニュース8月号発行「義歯の取り扱い」作成：S３西病棟 安全ラウンド実施（場所：薬剤部、集中治療室、S４東病棟）
2019.8.27	2019.7 月のインシデント・アクシデント報告 2019 年度保健所立ち入り調査結果報告 医療安全対策ニュース 9 月号発行「薬剤確認の６Ｒの徹底」 作成：S5 東病棟 安全ラウンド実施　心電図モニターの正しい管理を追加。（場所：2 号棟 3 階、S5 東病棟、S3 西病棟）
2019.9.24	2019.8 月のインシデント・アクシデント報告 「院内医療事故調査会議」新規設置と「医療事故対策委員会規約」「医療安全管理組織図」「重大事故報告手順」一部改訂について、医療安全管理委員会において承認を得たことを報告 医療安全対策ニュース 10 月号発行「口頭伝達について」作成：総合外来 安全ラウンド実施（場所：筑波総合クリニック、2 号棟 4 階、2 号棟 5 階）
2019.10.29	2019.9 月のインシデント・アクシデント報告 医療安全対策ニュース 11 月号発行「輸血用血液製剤の確認の基本」作成：臨床検査部（輸血室） 安全ラウンド実施（場所：手術室、臨床検査部、救急センター）

2019.11.26	2019.10 月のインシデント・アクシデント報告 医療安全対策ニュース 12 月号発行「患者確認動作の徹底」作成：筑波総合クリニック 安全ラウンド実施（場所：放射線部、S5 西病棟、1 号棟 2 階病棟）
2019.12.24	2019.11 月のインシデント・アクシデント報告 酸素ボンベの取り扱い基準について協議 医療安全対策ニュース 1 月号発行「せん妄ケアで事故防止」作成：2 号棟 4 階 安全ラウンド実施（場所：Ｓ３東病棟、総合外来、S4 西病棟）
2020.1.28	2019.12 月のインシデント・アクシデント報告 相互接続防止を目的とした製品導入に、当院のカラーシリンジ使用基準の変更について協議・承認。 医療安全対策ニュース 2 月号発行「安全な医療を提供するために」作成：1 号棟 2 階病棟 安全ラウンド実施（場所:リハビリテーション部、S3 西病棟、集中治療室、2 号棟 3 階病棟、Ｓ５東病棟、S4 東病棟）
2020.2.25	2020.1 月のインシデント・アクシデント報告 医療安全対策ニュース 3 月号発行「個人情報の取り扱い」作成：医療相談室 各部署より医用安全業務改善報告
2020.3.24	下記を資料として配付した。 次年度の目標と年間計画 2020.2 月のインシデント・アクシデント報告 医療安全対策ニュース 4 月号発行「離床センサーの正しい装着」作成：S3 西病棟

Ⅴ．他 活動内容

１．職員に対する研修

開　催　日	内　容	講　師	参加人数
2019.4.3	新入職者医療安全研修	医療安全管理室	98 人
2019.5.9, 5.30	急変時の対応について -DC の正しい使い方 -	医療機器安全管理 責任者 集中ケア認定看護師	123 人
2019.6 ライブ研修（3 回） DVD 視聴研修（7 回）	2019 年度前期医療安全管理研修 テーマ 「2018 年度の評価と 2019 年度の目標」 「ＡＩとは何か　- ＡＩと医療安全 -」	医療安全管理室	1174 人 (受講率 97.8%)
2019.9.17	生理検査・輸血に関する基礎知識	生理検査室　輸血室	48 人
2019.10.10	放射線の基礎知識	放射線部	42 人
2019.11.18	正しい検体採取と取り扱い	臨床検査部　BML	18 人
2019.12 ライブ研修（4 回） DVD 視聴研修（5 回）	2019 年度後期医療安全管理研修 テーマ 「エコーチェンバー現象を知っていますか」 「急性溶血性副作用について」	医療安全管理室 輸血委員会	1134 人 （受講率 98%）

２．広報活動

◯公益財団法人　日本医療機能評価機構　医療安全情報の配布および掲示　12 回

◯厚生労働省　医療事故再発に向けた提言の冊子配布およびポスター掲示　２回

７月「救急医療における画像診断に係る死亡事例の分析」（提言第８号）

「入院中に発生した転倒・転落による頭部外傷に係る死亡事例の分析」（提言第９号）

◯緊急医療安全対策ニュース発行　２回

５月「カリウム製剤投与に関する再啓発」

11 月「薬剤 6 倍投与による患者死亡の新聞報道」

◯医療安全推進週間活動

患者誤認防止への職員の意識向上を目的として、「患者誤認防止に関する川柳」を全職員対象に約１ヶ月間（11 月 26 日～ 12 月 24 日）募集し、111 選の投票があった。優秀作品の発表は次年度行う予定である。

３．学会発表

第 21 回日本医療マネジメント学会学術総会　　2019 年 7 月 19 日、20 日

会場：名古屋国際会議場

タイトル「ドレーン・点滴ライン管理に関する看護師とセラピストの相互理解の重要性」

◯下村真一　小林朋子　宮崎仁　飯村もと子　池澤和人　長澤俊郎　小關剛　小關迪

［文責：池澤和人］

転倒転落対策ＷＧ

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理員会の総括のもと、各部署で発生した転倒転落に関する報告から、現場に 即したより実効性のある安全対策が実行できる体制の整備に努める。さらに医療安全対策チームにおいて活動を報告し、情報共有することで再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：谷中　清之

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	リハビリテーション部	2
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
看護部	7	本部・事務部	1
薬剤部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回（3 月の開催は、COVID-19 による感染対策のため資料のみ配布とした）

Ⅳ．協議事項

2019.4.10	2019.3 月の転倒転落報告 2018 年度の転倒転落集計結果報告 2019 年度重点目標である「排泄行動」に関する事例分析のため、「排泄行動プロセス」の項目を報告書に導入
2019.5.8	2019.4 月の転倒転落報告 院内のトイレの構造の問題点抽出のためラウンド実施
2019.6.12	2019.5 月の転倒転落報告 昨年度作成した「転倒予防 DVD」の活用状況について協議
2019.7.10	2019.6 月の転倒転落報告 「転倒予防 DVD」の視聴率向上のため、予約入院患者を対象に視聴を開始した
2019.8.14	2019.7 月の転倒転落報告
2019.9.11	2019.8 月の転倒転落報告 2019 年度「転倒予防の日」の企画について協議
2019.10.9	2019.9 月の転倒転落報告 2019 年度「転倒予防の日」の企画として、転倒予防ラウンド実施に決定
2019.11.13	2019.10 月の転倒転落報告 転倒予防ラウンド結果報告

2019.12.11	2019.11 月の転倒転落報告 バスマットが要因の転倒インシデントについて協議
2020.1.8	2019.12 月の転倒転落報告
2020.2.12	2020.1 月の転倒転落報告 離床センサーの正しい使用方法について協議 2020 年度の目標および年間計画について協議
2020.3.11	下記を資料として配付した 2020.2 月の転倒転落報告

Ⅴ．他　活動内容

院内研修

開　催　日	内　　容	講　　師	参加人数
2019.7.26	離床センサーの正しい使い方	株）ニプロ、株）ホトロン 株）テクノスジャパン	41 人
2019.8.29	抑制帯の正しい使い方	株）アルケア 株）メデイカルプロジェクト	46 人

［文責：太田和子］

感染対策管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院管理者の諮問に基づき設置され、感染対策上の問題点、緊急的事項、疫学的集計結果などを検討する委員会である。病院として行うべき感染対策上の政策を管理者に答申する、感染対策に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	看護部	1
医療安全管理室	1	薬剤部	1
感染管理室	1	臨床検査部	1

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項　※感染対策チームの会議の報告および審議である

2019.4.24	感染対策チーム委員変更の承認（松井医師→石川医師） 麻疹、風疹情報 3 月インスリンペンニードルによる針刺し事例 1 件報告 施設基準にかかる適時調査報告：指摘事項なし

2019.5.29	感染管理対策委員会委員に田島副院長就任 看護師による血液培養採取の検討 感染症法届出：E 型肝炎、HIV 感染症 水戸市で麻疹発生あり、茨城県での報告数 15 名の情報提供
2019.6.26	特記なし
2019.7.31	抗菌薬の供給不足による代替薬の案内 カルバペネム系抗菌薬を見直し、使用機会の少ないカルベニンとオメガシンの採用中止が決議 麻疹、風疹、手足口病の情報提供 感染症届出：結核 2 件 保健所立ち入り調査報告：指摘事項なし
2019.8.28	抗菌薬入荷困難の影響によりカルバペネムの使用量増加
2019.9.25	ワクチン接種計画：インフルエンザ、MR、水痘、ムンプス、HB 感染防止対策加算にかかる相互評価の報告：霞ヶ浦医療センター
2019.10.30	インフルエンザ流行前からの対策：早期からのサージカルマスクの着用、面会時の注意喚起のパンフレット配布、湿度調査により加湿器の検討
2019.11.27	インスリン注射針による針刺し 2 事例の報告 インフルエンザ対策：病室での卓上加湿器は使用しないことで決議
2019.12.25	インフルエンザ流行期となり 12 月 20 日より面会制限、2 号棟入口を閉鎖、罹患者は 1 号棟 2 階に入院とする
2020.1.29	インフルエンザアウトブレイク報告：S 棟 3 階西 感染症法届出：結核性胸膜炎と結核（排菌なし） 新型コロナウイルスの当院の対応について検討：中国武漢市以外の地域からの渡航歴もスクリーニングする。病院内に入れない対策の診療マニュアルを作成しておく
2020.2.26	新型コロナウイルス感染症について 帰国者・接触者外来は RI 室を間借りして 3 月より行う
2020.3.25	新型コロナウイルス感染発生により中止

［文責：佐藤祐二］

感染対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

感染対策管理委員会に基づき設置され、病院運営上日常的な感染症に関わる業務を協議、担当する。所属部署職員への情報伝達、指導的立場となり、感染対策チームの活動は感染対策管理委員会に定期的に報告される。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	臨床工学課	1
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
感染管理室	1	本部・事務部	1
看護部	13	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
放射線部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	2	委託業者	3
臨床検査部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項　※毎月、感染症・抗菌薬・手指衛生サーベイランス、院内巡視の報告を行った

2019.4.9	感染対策チーム委員の変更（松井医師→石川医師） 麻疹・風疹情報 3月、インスリンのペンニードルによる針刺し報告
2019.5.14	サーベイランス：CDトキシンの増加、人工物挿入患者の感染や感染性心内膜炎に対して抗菌薬の長期使用となり使用量が増加 看護師による血液培養採取について検討 施設基準にかかる適時調査報告：指摘事項なし
2019.6.11	8月の検診にて麻疹等の抗体価検査実施の案内 麻疹・風疹は全国的にも報告あり、情報提供
2019.7.9	サーベイランス：MRSAの増加 抗菌薬提供不足による代替薬の案内 カルバペネム系抗菌薬を見直し、使用機会の少ないカルベニンとオメガシンの採用中止
2019.8.13	サーベイランス：MRSA減少、ESBLとマルトフィリアの増加、抗菌薬供給不足の影響によりカルバペネム系の増加
2019.9.10	サーベイランス：MDRP3例あり、抗菌薬使用量の減少 ワクチン接種の年間計画：インフルエンザ、MR、水痘、ムンプス、HB
2019.10.8	サーベイランス：抗菌薬使用量の激減 沖縄県でインフルエンザ流行あり、当院でも早期対策介入予定
2019.11.12	インフルエンザ対策：流行前からのサージカルマスクの着用、ほか面会制限や健康管理、リハビリ体制は通年通りとする ペン型インスリンのペンニードルでの針刺し事例2件の報告と対策
2019.12.10	サーベイランス：抗菌薬使用量の減少 ごみの分別への注意喚起：廃プラに鋭利物（未使用）の混入あり インフルエンザは流行期に入った、院内発生は職員数名のみ
2020.1.14	サーベイランス：抗菌薬長期使用者あり使用量増加 インフルエンザ注意報により12月20日より面会制限、2号棟入口の閉鎖を開始 インフルエンザアウトブレイク報告（S棟3階西病棟）
2020.2.13	新型コロナウイルス感染症診療体制の情報提供
2020.3.10	新型コロナウイルス感染症情報：診療体制、PCR検査、3月5日より帰国者・接触者外来の開始、環境調整・消毒

Ⅴ．他 活動内容

1．感染防止対策加算1にかかる感染防止対策加算2の施設との合同カンファレンス

開 催 日：5月28日、7月30日、10月29日、1月28日

参加施設：大圃病院、筑波胃腸病院

参 加 者：佐藤医師、福田医師、石川医師、渥美薬剤師、大森検査技師、星感染管理担当者、小祝看護師、荒木看護師

2．感染防止対策加算にかかる年4回の合同カンファレンスへオブザーバーとして参加

開 催 日：6月6日、9月5日、12月5日、3月5日

参加施設：筑波大学附属病院、取手北相馬保健医療センター医師会病院、筑波学園病院、守谷慶友病院

参 加 者：佐藤医師、福田医師、石川医師、渥美薬剤師、大森検査技師、星感染管理担当者、荒木看護師

3．感染防止対策加算地域連携加算にかかる相互チェック

開 催 日：6月28日、8月9日

連携施設：筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、国立霞ヶ浦医療センター

今年度は国立霞ヶ浦医療センターとの相互チェック（ラウンド）

4．院内ラウンド

1）週１回の環境ラウンド

2）毎週木曜日に感染症サーベイランス・抗菌薬適正使用についてミーティング

5．従業員に対する研修

実　施　日	対　象	内　容	参加人数
2019.4.4	新入職者	感染症対策	103 名
2019.4.5	新入職者	感染対策の基本、実践するために	53 名
2019.5.21、5.23	看護師、研修医	血液・体液曝露対策	46 名
2019.6.3、6.13、6.17（ライブ３回） 6.18 ～ 6.26 ランチョン DVD7 回	全職員	2019 年度前期医療安全管理研修： 薬剤耐性菌（AMR）アクションプランのつづき ～当院における薬剤耐性菌の現状と対策～	1174 名 （97.8%）
2019.7.17	看護師ラダーⅤ	リーダーシップにおける感染管理	18 名
2019.7.22、7.23	看護補助者	環境整備（清掃）みんなで一丸となって感染予防	20 名
2019.9.12、9.20、10.18、10.31	全職員	吐物処理方法実技	22 名
2019.10.16	看護師ラダーⅢ	患者を守る感染対策（デバイス）	22 名
2019.11.8、11.11、11.14	リハビリ	インフルエンザにおける対応	200 名
2019.11.25、12.2	全職員	N95 フィットテスト体験	43 名
2019.12.3	看護師ラダーⅢ	キャリア支援	22 名
2019.12.9、12.12、12.16、12.19（ライブ4回） 12.16～12.20（ランチョン DVD5回）	全職員	2019 年度後期医療安全管理研修： 結核の基礎知識と対策	1134 名 （98%）
2020.2.6	外来診療に関わる職員（医師、看護師、事務職、薬剤師、放射線科等）	新型コロナウイルス診療のシミュレーション	約 30 名
2020.2.19	全職員	新型コロナウイルス感染症について	約 200 名

6．サーベイランスの実施

厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）の全入院患者部門、検査部門、手術部位感染（SSI）部門、集中治療室（ICU）部門に参加

7．感染率　（JANIS の定義に基づく）

感染率＝感染症患者数／総入院患者数× 1000

※感染症患者数＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

※総入院患者数＝（新規入院患者数）＋（前月からの継続入院患者数）

	MRSA	MDRP
感染症患者数	33 件	0 件
感染率	2.87‰	0‰

検出率＝感染症検出患者数／総入院患者数× 1000

感染症検出患者数＝新規感染症患者数で重複を除く

クロストリジウム・ディフィシルはJANIS対象病原体でないため保菌を含む検出率とする

	クロストリジウム・ディフィシル
検出患者数	55件
検出率	4.78‰

［文責：佐藤祐二］

労働安全衛生委員会

Ⅰ．目的及び機能

病院職員の危険又は健康障害を防止するための措置の実現に携わり、労働安全衛生のための教育検討をする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床工学課	1
看護部	1	本部・事務部	5
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	3
放射線部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
臨床検査部	1	臨床心理士	1

Ⅲ．会議　開催回数

12回

Ⅳ．協議事項

2019.4.12	定例報告、委員会規約 ・メンバー確認、各部署時間外労働時間について
2019.5.10	定例報告、長時間労働者面談の見直しについて
2019.6.14	定例報告、各部署時間外労働時間について
2019.7.12	定例報告、職員定期健康診断、ストレスチェックについて
2019.8.9	定例報告、職員満足度調査について
2019.9.13	定例報告、時間外労働時間、衛生工学衛生管理者の選出について
2019.10.11	定例報告、良い行動を行った職員への表彰制度について
2019.11.8	定例報告、良い行動を行った職員への表彰制度、ストレスチェックについて
2019.12.13	定例報告、良い行動を行った職員への表彰制度について
2020.1.10	定例報告、職員健康診断、有給休暇消化状況、院内暴力、ハラスメント対策、不審者対応訓練について
2020.2.14	定例報告、職員健康診断について
2020.3.13	定例報告、職員健康診断、女性活躍推進法・次世代育成支援対策推進法について　（文書にて実施）

［文責：長澤俊郎］

防火防災管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

人為的原因を含む災害が発生した際に筑波記念会の有する機能をできる限り発揮し、被災対応、救護対応、後方対応を的確に行う。そのためにマニュアルを作成し訓練の実施などを通して強化していく。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	本部・事務部	6
看護部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
栄養管理課	1		

Ⅲ．会議　開催回数

１回

Ⅳ．協議事項

2019.9.17	千葉県風水害AMAT活動報告

［文責：小關　剛］

臨床研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

臨床研修医の管理及び採用、中断、修了の際の評価等、臨床研修の実施の統括を行う。
研修修了に際しては臨床研修医の評価を行い、管理者に対し当該臨床研修医の評価を報告する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
筑波総合クリニック	1	外部委員	11
つくばケアセンター	1		

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2019.10	2020 年度筑波記念病院総合研修プログラムについて 2020 年度採用マッチング結果について 2019 年度院内教育について（4 月～ 9 月） 2019 年度採用活動について 2020 年度臨床研修医採用者一覧
2020.3	1 年次臨床研修医研修活動報告 2 年次臨床研修医研修活動報告並びに修了判定 2020 年度臨床研修医採用状況 2020 年度臨床研修医一覧（1 年次・2 年次） 2020 年度協力病院・協力施設について

［文責：小關　剛］

臨床研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床研修のプログラム、臨床研修医の採用計画、研修過程の評価、臨床研修医の服務等、臨床研修医の研修に関する業務全般を司る。

Ⅱ．構成員

◎委員長：小關　剛

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	17	臨床検査部	1
看護部	1	医療相談室	1
薬剤部	1	本部・事務部	4
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.22	オリエンテーションについて 2019 年度の病院説明会予定について 2019 年度の臨床研修医採用試験日程について 学生実習について 臨床研修医の日当直について 退院前カンファレンス参加について 内科カンファレンスについて 研修医評価票について
2019.5.27	病院説明会報告 医学生実習について 臨床研修医の夏休みについて 医局勉強会について
2019.6.24	病院説明会報告 茨城県医師臨床研修連絡協議会総会報告 メディカルラリーについて 処方試験について ハンガリー医学部卒業生の国試対策について

2019.7.29	病院説明会報告 処方について ハンガリー学生実習について マッチングスケジュールについて
2019.8.26	臨床研修医採用試験について JCEP（卒後臨床研修評価機構）サーベイヤー講習試験について 病院実習受け入れについて
2019.9.30	マッチング登録及び中間公表について 他病院臨床研修プログラムの研修修了者報告
2019.10.28	マッチング最終結果について 病院説明会報告 院内学術集会について 地域医療研修施設見学について 2 年次臨床研修医の進路について
2019.11.25	EPOC 及び EPOC2（研修評価システム）について 新規登録保険医の集団指導について
2019.12.23	年末年始日当直体制について 2020 年度ローテーション希望調査について 院内学術集会成績について
2020.1.27	臨床研修管理委員会について 病院説明会について メディカルラリーについて 2020 年度専攻医応募状況について
2020.2.17	病院説明会報告 臨床研修医修了認定について 臨床研修医の進路について 年間活動報告 2020 年度他病院からのローテーションについて
2020.3.24	臨床研修医修了について 病院説明会について 医師国家試験結果について 2020 年度ローテーションについて

V．他 活動内容

2019.6.9	レジナビフェア 2019 東京～専門研修プログラム（東京ビックサイトにて）
2019.6.23	レジナビフェア東京（東京ビックサイトにて）
2019.6.29	東京大学病院まるごと探訪フェス 2019（東京大学病院にて）
2019.10.6	レジナビフェア 2019 仙台（仙台国際センターにて）
2020.2.16	レジナビフェア 2020 金沢（石川県産業展示場にて）

［文責：小關　剛］

地域医療研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療の中核として地域医療従事者の研修事業を積極的に行い、地域医療従事者の研鑽の場の提供と地域医療の質の向上を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤 俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査部	1
看護部	1	栄養管理課	1
薬剤部	1	地域医療連携部	1
放射線部	1	本部・事務部	1
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

4回

Ⅳ．協議事項

2019.7.29	公開講座についての報告協議・参加者アンケート報告 今後の公開講座について、申し込み状況報告
2019.8.29	今後の公開講座について、申し込み状況報告
2019.10.28	公開講座についての報告協議・参加者アンケート報告 今後の公開講座について、申し込み状況報告
2019.11.27	公開講座についての報告協議・参加者アンケート報告 今後の公開講座について、申し込み状況報告

Ⅴ．他 活動内容

2019年度　地域医療連携公開講座　11回開催

［文責：長澤俊郎］

診療管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医事・地域医療連携に係る情報の共有、評価、分析を行うとともに、各運営チームでの決定事項の報告、情報周知を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	26	臨床検査部	1
看護部	4	栄養管理課	1
薬剤部	1	地域医療連携部	1
放射線部	1	本部・事務部	1
リハビリテーション部	1	臨床工学課	1
ソーシャルワーカー	1	筑波総合クリニック	1
つくばケアセンター	1	トータルヘルスプラザ	1

Ⅲ．会議　開催回数

年 12 回

Ⅳ．協議事項

・医事報告
・地域医療連携報告
・地域連携患者サポートセンター報告
・施設基準充足状況報告
・各委員会からの報告

［文責：長澤俊郎］

救急診療運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域住民が生命の危機に瀕したときや、不慮の怪我や病状悪化により、緊急の対応を要したときに、生命を安心して預けられる病院であるよう、救急患者の受け入れと治療に病院全体で総力を挙げる。

Ⅱ．構成員

◎委員長：榎本　強志

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	9	地域医療連携部	2
看護部	3	本部・事務部	4
放射線部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.8	下血の対応について、めまいの外科対応について
2019.5.13	救急車受け入れの制限について
2019.6.4	朝方来院した患者の対応について
2019.6.21	ホットライン医師再導入について
2019.7.5	病棟の DC について
2019.8.2	Dr. と放射線技師の連携について
2019.9.6	受け入れ困難症例について
2019.10.4	ホットライン医師再導入について
2019.11.8	ホットライン受け入れ時の対応について
2019.12.6	めまい患者のホットラインの対応について
2020.1.10	コードブルー時の対応について
2020.2.7	拘留中患者の対応について

［文責：榎本強志］

手術部運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

手術室の円滑な運営ができるよう、関連する事項について協議、検討することを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：田島　啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	12	臨床工学課	1
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

年６回

Ⅳ．協議事項

2019.4.3	チーム規約の見直し、時間外の手術受け入れ体制について
2019.6.5	学会出席及び夏期期間中の手術室対応について
2019.8.7	動画などの診療記録提出、10 月以降の手術室稼働について
2019.10.2	電子カルテシステム導入について（手術 WG）
2019.12.4	電子カルテシステム導入の概要、手術室運用について
2020.2.5	電子カルテシステム導入の概要について

［文責：田島啓一］

ＩＣＵ運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

ICU 病床の円滑な運営を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：末松　義弘

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	臨床工学課	1
看護部	3	本部・事務部	2

Ⅲ．会議　開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2019.5.13	ICU ベッドコントロールについて
2019.7.8	抗生剤変更・カリウム補正について

2019.9.9	ICU ベッドコントロールについて
2020.1.14	ICU 稼働率について

Ⅴ．他　活動内容

重症患者の治療を要する ICU 病床のベッドコントロール及び運用などを協議する場である。2020 年 4 月よりは救急科医師も加わり、より高度な医療を提供できるよう協議を重ねている。

［文責：末松義弘］

シーティング WG

Ⅰ．目的及び機能

本 WG は、リハビリテーション運営チーム規約にもとづいて設置し、リハビリテーション運営チームの統括のもと、シーティング等に関する機器の整備と供給体制の構築を行い、患者・利用者の診療環境の向上を図ることを目的とし、以下を所掌とする。

（1）シーティングが必要な患者・利用者に対し、担当者・部署とともに評価し、助言を行う。
（2）シーティングに関する機器の調査・管理・運営を行う。
（3）シーティングに関する知識・技術の普及を図る。
（4）シーティングに関する取り決めを制定する。
（5）その他、シーティングに関するすべての事柄に対応する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：伊佐地　隆

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	医療相談室	1
医療安全管理室	1	本部・事務部	1
看護部	9	つくばケアセンター	3
リハビリテーション部	9		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.18	研修会開催・内容、WG メンバーによるシーティング回診の検討。各部署課題に関する報告。
2019.5.16	研修会開催・内容、車いす・クッション等の備品請求、高機能車いすの管理システム、車いすのメンテナンス、座圧分布測定装置（SR ソフトビジョン）に関する検討。
2019.6.20	座圧分布測定装置（SR ソフトビジョン）の説明およびデモンストレーション
2019.7.18	研修会開催・内容、高機能車いすの管理システム、座圧分布測定装置（SR ソフトビジョン）についての検討。各部署課題に関する報告。
2019.8.19	研修会開催・内容、高機能車いすの管理システムの検討。各部署課題に関する報告。
2019.9.19	車いす管理システム（ぽーさぽーと）の説明およびデモンストレーション。研修会開催に関する報告。

2019.10.17	SR ソフトビジョン・ぽーさぽーとに関する報告・検討。研修会案内の進捗、各部署課題に関する報告。
2019.12.19	研修会の振り返り。各部署課題の報告。
2020.1.16	研修会の報告。各部署課題の報告。
2020.2.20	研修会開催（来年度）について検討。各部署課題の報告。

Ⅴ．他　活動内容

1）SR ソフトビジョンの購入活動および購入後の活用

2）研修会 2 回開催

講師：木之瀬　隆氏

第 1 回 2019.12.3　シーティングの基礎－座位の考え方と評価の実際－　62 名参加

第 2 回 2020.1.7　シーティングの工夫－補助具を使ったシーティング－　48 名参加

［文責：伊佐地隆］

病院機能改善管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医療の質の要素である、診療の質（技術・能力）、設備・機器の質、付帯サービスの質（接遇・その他）、提供体制の質（制度・組織・運営）に関し、各担当から指標となる項目の報告をもらい、さらにこれらの改善に向けての院内での体制を整える。

Ⅱ．構成員

◎委員長：鯨岡　結賀

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	つくばトータルヘルスプラザ	1
看護部	4	筑波総合クリニック	1
薬剤部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	1	本部・事務部	6
地域医療連携室	1		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.15	委員の構成と規約の更新について 年報の作成依頼、クリニカルインディケーターの更新について
2019.5.20	新入職医師のオリエンテーション用資料の作成について
2019.6.17	仕事のスケジューリングについて
2019.7.22	医師向けのオリエンテーション資料の見直し 医療の質クオリティーインディケーターの原稿確認
2019.9.30	QC 活動ポスター発表（2018 活動分）の投票結果の報告

2019.10.18	病院機能評価に向けて（受審決定、WEB セミナー視聴等）
2019.11.18	QC 活動中間報告
2019.12.16	CoMedix（2020.04 稼働の院内グループウェア）導入について 電子カルテ導入後の『個人情報保護管理』について
2020.2.17	電子カルテ導入後の『医療情報管理規程』について
2020.3.16 （資料配布）	『医療情報システム管理規程』、『スキャナ等による電子化に関する管理規程』、『システム障害時対策マニュアル』についての承認

［文責：鯨岡結賀］

医療ガスチーム

Ⅰ．目的及び機能

医療法人社団筑波記念会の運営する各事業所における医療ガス設備の管理を行い、患者の安全と災害の未然防止を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：神山　幸一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	4
看護部	2	筑波総合クリニック	1
薬剤部	1	委託業者	1
臨床工学課	1		

Ⅲ．会議　開催回数

１回

Ⅳ．協議事項

2019.9.25	医療ガス配管設備保守点検報告 人工空気製造装置定期保守点検報告 2019.3. 月～９月にかけての修理等報告

［文責：神山幸一］

がん化学療法運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院における、がん化学療法剤のレジメンの管理（登録、削除、保留）、施用等の適正化を図る。

検討事項：がん化学療法を行うためのレジメン・手技・医薬品の管理、外来化学療法室の運用、その他

Ⅱ．構成員

◎委員長：添田　敦子

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	7名	薬剤部	3名
看護部	8名	医事課	1名

Ⅲ．会議　開催回数

5回

Ⅳ．協議事項

2019.5.16	委員会メンバーについて。がん化学療法マニュアルについて。経口抗癌剤の副作用対策について。院外薬局閉店時間に化学療法が終わらず内服薬受け取り困難な例について。インシデントについて。
2019.7.11	委員会メンバーについて。がん化学療法マニュアルについて。経口抗癌剤の副作用対策について。インシデントについて。レジメン登録について。
2019.9.12	がん化学療法マニュアルについて。経口抗癌剤の副作用対策について。インシデントについて。レジメン登録について。化学療法での速度 up が遅れる件について。クリニックから病院に外来化学療法が移動する件について。
2019.11.14	がん化学療法マニュアルについて。経口抗癌剤の副作用対策について。クリニックから病院に呼吸器内科・呼吸器外科の外来化学療法が移動したことについて。 電子カルテ (SSI) 導入の問題について。
2020.1.9	がん化学療法マニュアルについて。経口抗癌剤の副作用対策について。 電子カルテ (SSI) 導入に伴うケモレジメンの登録について。電子カルテ (SSI) 運用について。日立総合病院への見学報告と当院での課題について。インシデントの報告。

［文責：添田敦子］

輸血運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

院内における輸血が安全かつ円滑に行われるための活動の大網を定める事を目的とする。

管理者の諮問機関として、管理者からの諮問事項、輸血療法上の問題点、緊急的検討事項、疫学的集計結果などを検討するチームで、病院として行うべき輸血療法上の方策を管理者に答申する輸血療法に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査部	3
看護部	4	本部・事務部	1
薬剤部	3	委託業者	1

Ⅲ．会議　開催回数

７回

Ⅳ．協議事項

2019.4.17	停電・システムダウン時の輸血依頼について
2019.6.13	輸血在庫の削減について
2019.8.7	臨床輸血看護師配置について
2019.9.12	輸血トラブルについて
2019.10.9	夜間緊急時の輸血搬送について
2019.12.11	電子カルテ運用について
2020.2.12	電子カルテ移行による変更点・問題点について

［文責：佐藤祐二］

診療録チーム

Ⅰ．目的及び機能

診療情報ならびに診療録の管理について、総括的に規定し適切な管理を行い、医療の質を確保する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：田島　啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	7	臨床検査部	2
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
看護部	3	地域医療連携室	1
薬剤部	1	医療相談室	1
放射線部	1	本部・事務部	6

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.16	診療録チーム規約確認
2019.5.21	各診療科で所持しているデータについて協議
2019.6.18	電子カルテワーキンググループについて協議
2019.7.16	研修医カウンターサインについて協議
2019.8.20	適応外または未承認の薬剤使用に関する説明書の運用開始について
2019.9.17	電子カルテのデモンストレーション実施
2019.10.15	電子カルテのサマリー、文書関連の説明
2019.11.19	電子カルテの文書作成方法、作成スケジュール確認
2019.12.17	電子カルテの文書管理フォルダ構成について協議
2020.1.21	5 年間未受診カルテの取り扱いについて協議
2020.2.25	同意書書式変更について協議
2020.3.17	退院要約完成状況の報告

［文責：田島啓一］

臨床検査運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床検査部の効率的かつ円滑な運営、管理を図り、あわせて診療の向上に寄与することを目的とする。また当院では、検体検査を外部委託しており、委託業務の実態を評価し、改善を促進する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：井川　昌幸

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	本部・事務部	2
看護部	3	委託業者	1
臨床検査部	3		

Ⅲ．会議　開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2019.5.27	①チームメンバー・チーム規約の確認 ② OR の血液ガスの電源について ③電子カルテ導入に向けての準備を進める
2019.8.26	①電子カルテのメーカーが決定され、検査部門の運用検討 ②看護部より採血の手技による検査結果に及ぼす影響などの情報提供が検査部から欲しい
2019.11.25	①電子カルテの各検査 WG の内容報告 ②生理・輸血・採血部門は更新予定 ③病理部門は新規採用
2020.2.10	①電子カルテ切り替えが４月１日に決定 各部門の運用変更があるので３月のリハーサルで確認 ② 2019 年度　外部精度管理の成績報告

Ⅴ．他　活動内容

・検査部主催の院内講習会開催（医療安全と共催）

・2019 年 9 月 17 日　生理・輸血検査

［文責：井川昌幸］

栄　養　チ　ー　ム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院栄養チームは、当院における栄養管理業務の適正化をはかるために行う。栄養管理業務を遂行すると同時に、改善が必要な事項については検討し、さらに検討事項の改善、報告を行う。

Ⅱ．構成員

◎委員長：藤田　利枝

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	2
看護部	2	委託業者	2
栄養管理課	2		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

2019.4	・インシデントの報告 ・約束食事箋改定に向けて ・NST 業務について
2019.5	・インシデントの報告 ・分割食の取り扱いについて ・ST からの食事変更について ・計画停電の対応について
2019.6	・インシデントの報告 ・院内非採用の経腸栄養剤について ・ST からの食事変更について
2019.7	・インシデントの報告 ・分割食チェックリストについて ・院内非採用の経腸栄養剤にていて ・喫食調査アンケートについて
2019.8	・インシデントの報告 ・喫食調査アンケートについて ・きざみ・サイコロ形態の取り扱いについて
2019.9	・インシデントの報告 ・喫食調査アンケート報告 ・NST 専従変更の報告
2019.10	・インシデントの報告 ・嗜好調査アンケート考察 ・術前補水の取り扱いについて ・経腸栄養剤パッケージ変更の案内 ・台風 19 号による食事の影響
2019.11	・インシデントの報告 ・術前補水サイン実施について ・分菜食の形態について
2019.12	・栄養指導件数 ・新システムの食事変更点について ・食器の取り扱いについて
2020.1	・インシデントの報告 ・電子カルテの進捗状況 ・ノロウイルス、O-157 感染者の食事対応

2020.2	・インシデントの報告 ・電子カルテ導入の進捗状況 ・約束食事箋の変更について ・食札のレイアウトについて

［文責：藤田利枝］

栄養サポートチーム（ＮＳＴ）

Ⅰ．目的及び機能

栄養状態を判定し、その患者に最もふさわしい栄養管理を指導・提言することで、患者の治療・回復・退院及び社会的復帰を図る。

Ⅱ．構成員

◎委員長：藤原　淳

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	栄養管理課	4
看護部	12	本部・事務部	1
薬剤部	2	リハビリテーション部	1

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

2019.4	加算報告　チーム振り返り　栄養サポート研修会について
2019.5	加算報告　年間スケジュール　チーム振り返り
2019.6	加算報告　2019 年度の目標と課題　チーム編成
2019.7	加算報告　各部署報告　NST チーム内会議
2019.8	加算報告　各部署報告　NST チーム内の目標
2019.9	加算報告　各部署報告　スクリーニング対象者・補助食品の検討
2019.10	加算報告　各部署報告　スクリーニング対象者・補助食品の検討
2019.11	加算報告　各部署報告　各チーム報告
2019.12	加算報告　各部署報告　各チーム報告　電子カルテ移行について
2020.1	加算報告　各部署報告　各チーム報告　電子カルテ導入について
2020.2	加算報告　各部署報告　電子カルテ導入について

Ⅴ．他 活動内容

1．適切な栄養評価
2．栄養管理の指導・提言
3．栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4．資源・素材の省力化
5．各チームとの相互協力

6．病院スタッフへの知識の習得
※週３～４回のカンファレンス
※毎月１回のチーム会議の開催
※日本静脈経腸栄養学会への参加
※院外研究会等への参加
※つくば栄養サポート研究会世話人会への参加

［文責：藤原　淳］

摂食嚥下ケアチーム

Ⅰ．目的及び機能

1．各病棟で選出された患者の回診を行い、方向性や検査の必要性を検討し提案する
2．摂食嚥下訓練の指導・助言
3．摂食嚥下障害に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4．資源・素材の省力化
5．各委員会との相互協力
6．病院スタッフへの知識の提供

Ⅱ．構成員

◎委員長：海老原　一彰

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	栄養管理課	1
看護部	13	本部・事務部	1
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.12	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　電子カルテ内容　行事食内容検討
2019.5.10	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い
2019.6.14	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　行事食内容検討
2019.7.12	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　看護師、ST 連携方法の検討
2019.8.9	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　行事食内容検討
2019.9.13	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　行事食内容検討
2019.10.11	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　パス作成

2019.11.8	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　行事食内容検討
2019.12.13	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　行事食内容検討
2020.1.10	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　行事食内容検討　義歯の管理方法
2020.2.14	摂食機能療法対象者スクリーニング チーム内 WG 話し合い　電子カルテ内容
2020.3	開催なし

Ⅴ．他 活動内容

1．各病棟の摂食嚥下ケアチームの看護師が当該病棟に入院中の患者のスクリーニングを実施（第 1 週目）
2．各病棟から選出された患者の再スクリーニングを実施する
（第 2 金曜日 医師、言語聴覚士 摂食・嚥下障害看護認定 看護師、各病棟チーム担当看護師）
3．選出された患者の回診を行う（第 3・4 火曜日 16：00 ～）
4．職員に対し、摂食嚥下の知識や技術の向上を目指した勉強会を開催する
5．必要時は、NST、褥瘡チーム、緩和ケアチーム、栄養チームに協力依頼を行う
6．嚥下訓練食の検討を行い、摂食嚥下障害をもった患者が安全でおいしい食事ができるよう検討し実践する

摂食機能療法算定者：77 名　算定数：1,609 件　加算点数：297,665 点

［文責：阿部真由美］

褥瘡対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

褥瘡対策委員会は、院内における褥瘡予防を周知させることで、褥瘡発生を減少させ、かつ、発生した褥瘡に対しては､的確な対応ができることを目標とする｡医療スタッフが連携し､協力して行う｡チーム医療を基本とし､褥瘡対策の強化と早期治療の促進を図るため病院全体で取り組む。

Ⅱ．構成員

◎委員長：照沼　篤

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	栄養管理課	1
看護部	12	薬剤部	1
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.3	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド
2019.5.8	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド
2019.6.4	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 5 月 12 点、14 点以下の人数報告 ・全体研修について検討　6.7 月ブレーデンスケール 　8.9 月 DESIGN-R　　10.11 月 OH スケール
2019.7.3	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 6 月 12 点、14 点以下の人数報告
2019.8.7	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 7 月 12 点、14 点以下の人数報告
2019.9.4	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 8 月 12 点、14 点以下の人数報告
2019.10.2	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 9 月 12 点、14 点以下の人数報告 ・インシデント報告書の改訂と運用について
2019.11.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 10 月 12 点、14 点以下の人数報告 ・全体研修の参加状況報告 ・高機能エアマットについて
2019.12.4	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 11 月 12 点、14 点以下の人数報告
2020.1.8	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 12 月 12 点、14 点以下の人数報告
2020.2.5	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 ・記録の評価ラウンド ・ブレーデンスケール 1 月 12 点、14 点以下の人数報告

Ⅴ．他 活動内容

褥瘡リスク状態の患者に対して予防管理していく。

リスクのある患者に対してチームで関わり、予防策を検討、実施し、NST、シーティングチームと連携し、早期から褥瘡リスク予防を行う。

［文責：照沼　篤］

クリティカルパス・ＤＰＣチーム

Ⅰ．目的及び機能

院内におけるクリティカルパスの普及を目指す。

クリティカルパスの作成方法・運用方法を啓蒙し、指導する。

バリアンス評価の方法を啓蒙し、指導する。

効率のよい標準的治療を目指し、質の高い診療を普及させる。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	栄養管理課	1
看護部	2	地域医療連携室	1
薬剤部	2	本部・事務部	4
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

９回

Ⅳ．協議事項

2019.4.16	患者用パスの公開、退院支援パスの運用
2019.5.21	EVE を使用したパス作成
2019.7.16	他病院のパス作成状況
2019.8.20	患者用パスの見直し、アウトカムマスター導入検討
2019.10.15	患者用パス作成状況報告
2019.11.28	電子パス導入に関する説明
2020.1.8	電子パス導入に関する説明、新規患者用パス作成要望
2020.1.27	放射線オーダー方法、電子パスの運用方法
2020.2.10	パス担当者の選定、電子パスの運用方法

［文責：池澤和人］

緩和ケアチーム

Ⅰ．目的及び機能

病気や治療に伴う身体的･精神的苦痛の緩和、家族ケア、療養場の相談、栄養相談について、コンサルテーションと回診を多職種で行い、主治医と病棟スタッフと連携をとり、患者とその家族がよりよい状況で治療を受け、その人らしい生活が送れるよう支援することを目的とする。

（1）外来診療

・毎週木曜日に緩和ケア外来を設ける。

・オピオイドや鎮痛補助薬、制吐薬、向精神薬などの内服の調整、自宅療養においてのアドバイスを行い、症状緩和を図り QOL の向上を図る。

・患者 / 家族とのコミュニケーションを通じて、自宅療養の不安を取り除き、心理精神面、社会的な面を支えていく。

（2）コンサルテーションと回診

・各診療科から、入院患者に関する相談を緩和ケアチームとして受ける。

・毎週木曜日の緩和ケア外来終了後より、緩和ケアチーム回診を実施する。

・疼痛コントロール、精神状態の緩和、家族ケア、療養場の相談、栄養相談、等について回診を行い、主治医、病棟スタッフと連携し、よりよい状況で治療が行えるよう支援する。

委員会

Ⅱ．構成員

◎委員長：長岡　広香

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	リハビリテーション部	2
看護部	2	栄養管理課	2
薬剤部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

毎週 1 回

Ⅳ．協議事項

2020 年 3 月 19 日	電子カルテについて

Ⅴ．他 活動内容

毎週木曜日	緩和ケア外来、コンサルテーション、回診
2019 年 6 月 6 日	院内勉強会「疼痛と看護」
2019 年 9 月 5 日	院内勉強会「スキンケア」
2019 年 10 月 24 日	院内勉強会「非がん患者の緩和ケア」

［文責：高橋久美子］

地域医療サービスチーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療展開に関する医療サービスの充実、状況把握の調査・改善、環境整備などを目的に活動する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：谷中　清之

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	栄養管理課	1
看護部	2	地域医療連携室	1
薬剤部	1	本部・事務部	4
放射線部	1	筑波総合クリニック	2
リハビリテーション部	2	委託業者	1
臨床工学課	1		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.18	2019 年度活動予定及び構成員の確認。規約の見直し。 ご意見箱の投書対応（7 件）
2019.5.16	ご意見箱の投書対応（2 件）　環境整備の報告。
2019.6.20	ご意見箱の投書対応（8 件）
2019.7.18	ご意見箱の投書対応（7 件）　環境整備の報告。
2019.9.19	ご意見箱の投書対応（11 件）　環境整備の報告。
2019.10.17	ご意見箱の投書対応（10 件）
2019.11.21	ご意見箱の投書対応（6 件）　環境整備の報告。
2019.12.19	ご意見箱の投書対応（9 件）
2020.1.16	ご意見箱の投書対応（3 件）　環境整備の報告。
2020.2.20	ご意見箱の投書対応（4 件）

※投書総数 67 件（ご要望 49 件。その他 18 件。）

［文責：谷中清之］

企画広報運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは、病院長の諮問に基づき、以下のことを検討し答申することを目的とする。

（1）院外広報誌の制作と配布に関すること。

（2）病院パンフレット、入院案内の制作に関すること。

（3）WEB サイトに関すること。

（4）その他、広報活動全般に関すること。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
医局	2	本部・事務部	3
看護部	2	つくばトータルヘルスプラザ	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
放射線部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

11 回

Ⅳ．協議事項

2019.4.8	記念樹 Vol.59 について　　WEB サイトアクセス解析 規約の見直し　　年報掲載内容について 構成メンバーについて　　年間開催日程
2019.5.13	記念樹 Vol.59 について　　記念樹 Vol.60 について WEB サイトアクセス解析　　年報報告資料について
2018.6.10	記念樹 Vol.60 について　　WEB サイトアクセス解析
2018.7.8	メンバー加入について　　記念樹 Vol.60 について WEB サイトアクセス解析
2018.8.19	WEB サイトリニューアルについて 記念樹 Vol.60 について
2018.9.9	WEB サイトリニューアルについて（方向性・スケジュール） 記念樹 Vol.61 について
2018.10.21	WEB サイトリニューアルについて 受診動機アンケートについて　　記念樹 Vol.61 について
2018.11.11	WEB サイトリニューアルについて 記念樹 Vol.61 について
2018.12.10	記念樹 Vol.61 以降の制作予定について WEB サイトリニューアルについて
2019.1.20	記念樹 Vol.62 について WEB サイトニューアルについて
2019.2.10	記念樹 Vol.62 について WEB サイトリニューアルについて

Ⅴ．他 活動内容

2019.4	記念樹 Vol.58 発行
2019.7	記念樹 Vol.59 発行
2019.10	記念樹 Vol.60 発行
2020.1	記念樹 Vol.61 発行

［文責：池澤和人］

倫　理　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院及びその職員が行う臨床研究及び職域内の規制等について、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿って審議し、倫理的配慮を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：柏木　平八郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8※	本部・事務部	1
看護部	1	外部委員	1
薬剤部	1		

※診療部の構成員に病院長が含まれるが、病院長は採決評議には参加できない。

Ⅲ．会議　開催回数

通常開催　8件　　簡易倫理審査（書類審査）　15件

Ⅳ．協議事項

通常審査

2019.6.2	EGFR-TKI（特に osmertinib,afatinib）の無増悪生存期間に影響する 詳細な遺伝子探索を目的とした非介入の後方視的研究
2019.6.2	新規我が国における心臓植込み型デバイス治療の登録調査 - New Japan Cardiac Device Treatment Registry（New JCDTR）
2019.7.2	ブリリンタ錠　60mg，90mg　使用成績調査
2019.7.2	C 型肝炎に対するソホスブビル / ベルパタスビル治療の有効性に関する北関東多施設共同研究
2019.9.3	自由診療開始　多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術
2019.9.3	サッカー競技者の膝関節にかかる応力分布の検討
2020.1.7	低線量 CT による肺がん検診の精度および死亡減少効果評価のための個人単位ランダム化比較試験
2020.3.10	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針について

簡易審査（書類審査）

2019.5.15	第 60 回　日本肺癌学会学術集会 学会報告「肺癌と乳癌の同時性進行性重複癌に対する治療経験」
2019.5.15	2017 年 1 月 31 日に審議され承認された「心房細動合併急性冠症候群患者における抗血栓治療後の出血と血栓リスクに関する前向き観察研究（STAR-ACS Study）研究期間延長に伴う目標症例数の増加
2019.5.28	学会報告　臨床腫瘍学会 「切除不能であった 75 歳以上進行膵癌 26 例の臨床的検討」
2019.6.5	学会報告　第 6 回　日本糖尿病医療学学会 「急性発症 1 型糖尿病患者との 3 年間の関わりを通して」
2019.7.8	学会報告　第 20 回　日本クリニカルパス学術集会 「退院支援のためのパス作成に有効な DPC データの抽出」
2019.7.23	当院における B 型肝炎及び C 型肝炎の掘り起こしのための調査
2019.8.27	臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業　A：人工知能（AI）等利活用基盤構築関連　3：ICT 技術や人工知能（AI）等による利活用を見据えた、診療画像等データベース基盤構築に関する研究（日本医療研究開発機構（AMED）公募研究）研究期間延長について
2019.10.28	心房細動合併急性冠症候群患者における抗血栓治療後の出血と血栓リスクに関する前向き観察研究（STAR-ACS Study）
2019.11.1	ESD への術前看護訪問と管理栄養士による食事指導導入の臨床体験(学会報告 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会)
2019.11.12	DASC-8 を用いた高齢者糖尿病カテゴリー分類に基づいた血糖コントロール目標の到達度と FGM による夜間低血糖の関連
2019.12.12	アミノレバン EN 配合散の服薬アンケート調査と肝機能に関する研究
2020.1.27	強度近視眼における低矯正外斜視手術の有効性の検討
2020.3.10	第 63 回日本糖尿病学会　年次学術集会 「入院を拒否した 2 型糖尿病症例に GLP-1 アナログと基礎インスリンを導入した症例」
2020.3.17	Attenuation Imaging Shear Wave Elastography / Dispersion の導入と B モード所見・臨床診断との比較検討

Ⅴ．他 活動内容（外部講師招聘を含む）

2019.4.3	新入職員対象講義（委員長）　　講義　『医の倫理』
2019.10.3	帝京大学　衛生学公衆衛生学講座　准教授　浅山敬 全職員対象講義（2 時間）『医療情報の管理と保護』

［文責：柏木平八郎］

薬　事　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

医薬品の選定、購入、配布及び施用等の適正化を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：飯田　要

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	薬剤部	3
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

８回

Ⅳ．協議事項

2019.4.1	新規医薬品採用審議　3 件 外科系委員の選出について
2019.6.3	新規医薬品採用審議　7 件
2019.7.1	新規医薬品採用審議　5 件 抗生剤の見直し、後発医薬品への切り替え他
2019.8	新規医薬品採用審議　2 件 後発医薬品への切り替え 相互接続防止コネクタに係る国際規格への切り替わりについて
2019.9.2	新規医薬品採用審議　3 件
2019.10.7	新規医薬品採用審議　3 件 2 自主回収（クラスⅠ）となったラニチジン製剤について BS 製剤の採用について、電子カルテについて
2019.12.2	新規医薬品採用審議　4 件 後発医薬品の使用促進のため後発医薬品使用促進地域協議会における地域フォーミュラリー作成データの提出について
2020.2.3	新規医薬品採用審議　6 件

Ⅴ．他 活動内容

以下の事項を審議する

①医薬品採用の可否に関すること

②医薬品の適正な使用及び管理に関すること

③陳旧医薬品の取り扱いに関すること

④医薬品の副作用等の情報に関すること

⑤薬局業務に関すること

⑥その他薬事に関すること

［文責：飯田　要］

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波総合クリニック

【総括】

今年度の外来患者数はほぼ横ばいであったが、年度末は新型コロナウイルス感染拡大により減少傾向に転化した。また来年度から導入予定の電子カルテシステムの準備、診療報酬改定など年度後半は多忙を極めた。

来年度は電子カルテ導入による混乱を最小限にとどめ、早期にスムーズな運用ができるようにするとともに職員のスキルアップも目指したい。

最後に COVID-19 の早期収束を祈る。

［文責：大坂恒司］

【業務実績】

外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	490	495	446	541	591	419	585	556	557	592	477	485	6,234
小児科	237	244	229	270	284	260	275	299	253	232	238	208	3,029
消化器外科	425	499	555	503	501	520	510	532	487	431	454	452	5,869
形成外科	348	334	415	407	407	350	357	303	313	331	270	337	4,172
整形外科	2,100	2,024	2,014	2,066	2,033	2,030	1,923	1,649	2,093	1,928	1,807	1,935	23,602
脳神経外科	1,417	1,262	1,366	1,408	1,368	1,189	1,396	1,237	1,214	1,280	1,164	1,234	15,535
皮膚科	427	451	427	473	582	454	441	440	447	413	389	371	5,315
婦人科	812	787	828	775	820	752	842	754	808	734	714	740	9,366
心臓血管外科	316	349	355	403	333	367	335	237	324	271	257	263	3,810
精神科	273	261	235	294	241	237	247	460	514	449	440	490	4,141
眼科	1,232	1,076	1,142	1,283	1,010	1,088	1,154	1,113	1,081	1,050	830	1,068	13,127
神経内科	280	243	305	271	313	269	280	257	291	261	281	279	3,330
泌尿器科	360	345	354	370	387	354	367	359	388	365	339	309	4,297
循環器内科	2,453	2,396	2,223	2,420	2,194	2,162	2,375	2,065	2,307	2,306	1,970	2,333	27,204
消化器科	1,339	1,274	1,219	1,417	1,285	1,292	1,337	1,212	1,273	1,177	1,169	1,210	15,204
呼吸器外科	289	311	381	361	321	318	217	225	236	210	181	173	3,223
ﾘｳﾏﾁ・ｱﾚﾙｷﾞｰ科	365	343	351	362	346	347	355	348	318	354	330	282	4,101
糖尿病・内分泌代謝内科	1,014	1,008	1,044	1,048	1,013	1,058	996	985	1,054	1,043	1,009	1,066	12,338
血液内科	243	195	250	224	236	220	189	199	230	204	214	212	2,616
耳鼻咽喉科	1,136	1,127	1,046	1,154	931	1,040	1,158	994	1,004	1,007	948	1,019	12,564
血管専門外来	21	25	32	26	29	33	34	40	42	41	25	31	379
乳腺甲状腺外科	303	279	332	328	322	319	317	346	333	273	288	272	3,712
呼吸器内科	421	439	398	435	386	373	469	384	444	491	408	397	5,045
腎臓内科	103	95	112	104	123	120	115	111	117	111	101	108	1,320
合計	16,404	15,862	16,059	16,943	16,056	15,571	16,274	15,105	16,128	15,554	14,303	15,274	189,533

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
小林　栄喜	筑波総合クリニック名誉院長	脳神経外科	常（CL）
飯田　　要	筑波総合クリニック管理者	循環器内科	常（CL）
飯田　啓治	筑波総合クリニック副院長	循環器内科	常（CL）
宮内　　卓		循環器内科	非（CL）
鯵坂　隆一		循環器内科	非（CL）
小野田　翼		消化器内科	非（CL）
伊藤　嘉美		消化器内科	非（CL）
松村　文明		血液内科	非（CL）
清木　祐介		血液内科	非（CL）
安部　佳亮		血液内科	非（CL）
石塚幹太郎		血液内科	非（CL）
冨所　康志		神経内科	非（CL）
石井　一弘		神経内科	非（CL）
中馬越清隆		神経内科	非（CL）
三橋　　泉		神経内科	非（CL）
白岩　伸子		神経内科	非（CL）
寺田　　真		神経内科	非（CL）
松島　照彦		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
石垣　直美		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
松田ひとみ		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
竹越　一博		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
松野　洋輔		呼吸器内科	非（CL）
岡崎　直人		消化器外科	非（CL）
大野　優紀		消化器外科	非（CL）
刑部　弘哲		消化器外科	非（CL）
戸泉　　篤		消化器外科	非（CL）
下田　　貢		消化器外科	非（CL）
関根　康晴		呼吸器外科	非（CL）
北澤　伸祐		呼吸器外科	非（CL）
井上　堯文		心臓血管外科	非（CL）
岩井　武尚		心臓血管外科	非（CL）
増田　洋亮		脳神経外科	非（CL）
佐藤　博明		脳神経外科	非（CL）
兵頭康次郎		整形外科	非（CL）
三島　　初		整形外科	非（CL）
金森　章浩		整形外科	非（CL）
向井　直樹		整形外科	非（CL）
明星　里沙		形成外科	非（CL）
大脇　倫子		形成外科	非（CL）
森川　翔平		眼科	非（CL）
品川　樹美		眼科	非（CL）
松村　　裕		皮膚科	非（CL）
中村　貴之		皮膚科	非（CL）
宮本　信也		小児科	非（CL）
竹田　一則		小児科	非（CL）
堀米　ゆみ		小児科	非（CL）
宮川恵美子		小児科	非（CL）
本田　文香		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
近藤　裕也		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
角田　亮也		腎臓内科	非（CL）
戸村　成男		腎臓内科	非（CL）
佐々木啓太		乳腺・甲状腺外科	非（CL）
松尾　知平		乳腺・甲状腺外科	非（CL）
橋本　幸枝		乳腺・甲状腺外科	非（CL）
相吉　悠治		乳腺・甲状腺外科	非（CL）
原　　尚人		乳腺・甲状腺外科	非（CL）
頴川　　晋		泌尿器科	非（CL）
岡田　充生		泌尿器科	非（CL）
新田　　聡		泌尿器科	非（CL）
長尾　　剛		泌尿器科	非（CL）
内田　将央		泌尿器科	非（CL）
東田　俊彦	顧問	内科	非（CL）
鈴木　敏夫		内科	非（CL）
會田　有香		内科	非（CL）
斉藤　　剛		内科	非（CL）

つくばトータルヘルスプラザ

【総括】

1．2019 年度の実績報告

2018 年度と比べて 2019 年度の受診者数は、全体で 6.2% の減少があった。主な原因としては、新型コロナウイルス感染症で 2 ～ 3 月の受診者数が減少傾向にあった。人間ドック 0.2% と健診 2.2%・巡回健診 3.8% の受診者数減少がみられた。それにより、2019 年度の目標であった 1 月～ 3 月の人間ドック受診者数 1,000 名／月に対しては、どの月も達成することが出来なかった。

フェニックスの延べ来館者数は、2018 年度に比べて 7.7％減少した。2020 年 1 月までの来館者数は前年度を上回る数ではあったが、新型コロナウイルス感染症のクラスターが運動施設で全国的に話題になってから来館者数減少があった。通所リハビリテーションは、月曜日から金曜日の午前中の要支援者数を増やし利用者数を伸ばしている。引き続き広報活動に力を入れていきたい。

学会や講演会活動は、日本総合健診学会に 1 演題を発表した。講演活動については、各企業へ保健師、管理栄養士、理学療法士、トレーナーが連携を取りながら継続した。それに加えて出張での保健指導にも力を入れ実施する企業を増やしている。

2．2020 年度の課題・目標

感染症対策を徹底し三密を防ぎ安心して受診いただけるようにする。また、人間ドック終了後の結果説明をすべての方に提供できるようにする。学会活動についても、日本総合健診学会に演題発表を行っていく。

［ 文責：福原圭介 ］

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
中原　　朗	つくばトータルヘルスプラザ施設長	消化器内科	常（HP）
山根　一秀	つくばトータルヘルスプラザ顧問	リウマチ・アレルギー科	常（HP）
本橋　　歩	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	消化器内科	常（HP）
小松あかね	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	婦人科	常（HP）
設楽佐代子		消化器内科	常（HP）
清水　郁子		糖尿病・内分泌代謝内科	常（HP）
岡田　純代		糖尿病・内分泌代謝内科	非（THP）
大平　菜月		血液内科	非（THP）
吉澤　有紀		血液内科	非（THP）
丸山ゆみ子		血液内科	非（THP）
坂本　竜弘		血液内科	非（THP）
小原　　直		血液内科	非（THP）
宇佐美恭平		循環器内科	非（THP）
南　健太郎		循環器内科	非（THP）
寺内　泰観		循環器内科	非（THP）
折居　大輔		循環器内科	非（THP）
芳賀　厚子		循環器内科	非（THP）

中森　　容		消化器内科	非（THP）
福田由紀子		消化器内科	非（THP）
小川　英恵		内科	非（THP）
江辺　厚子		内科	非（THP）
廣瀬　千尋		内科	非（THP）
島　さつき		内科	非（THP）
柳　　久子		内科	非（THP）
金津　赫生		内科	非（THP）
清水　　優		リウマチ・アレルギー科	非（THP）
中村　優子		婦人科	非（THP）
小竹　文雄		放射線科	非（THP）

【業務実績】

人間ドック、健康診断受診者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	日帰り	763	948	1170	1217	1211	1066	1176	1118	1068	848	896	698	12,179
	一泊	0	0	1	0	2	0	1	1	1	0	0	0	6
	脳ドック	15	33	46	54	57	43	59	53	54	51	37	28	530
	レディース	5	19	18	21	26	35	39	37	44	24	31	49	348
ドック		772	974	1211	1246	1256	1111	1229	1171	1127	884	935	753	12,669
院　内		454	976	1432	1635	1630	1412	1574	1667	1493	1381	1441	927	16,022
巡　回		4372	1997	2188	1321	2121	1317	1739	1836	506	209	1163	451	19,220

検査別実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃内視鏡検査	305	306	287	343	316	280	316	299	305	298	287	285	3,627
乳腺エコー検査	332	308	578	668	660	589	600	611	598	501	526	415	6,386
マンモグラフィ検査	157	239	360	495	454	447	488	495	467	431	421	264	4,718
子宮細胞診検査	278	423	717	872	782	822	875	841	802	753	648	517	8,330

部位別精検指示及び実施者数

		胃部X線	胃内視鏡	胸部X線	心電図	便	腹部超音波	乳房	子宮細胞診
精検指示者数	2018年度	1,208	165	579	776	1,282	362	340	94
	上半期	536	89	361	349	697	212	167	57
精検実施者数	2018年度	602	152	324	85	408	296	204	74
	上半期	223	59	187	36	305	160	108	48

フェニックス延べ来館者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,564	2,434	2,681	2,842	2,728	2,455	2,558	2,470	2,308	2,394	2,236	1,158	28,828

【学会・講演】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
鈴木美帆、興野千春、篠原一哉、田中智美	若いうちから寝たきり予防 ～ロコモに負けない身体作り～	講演（企業）	つくば	2019.4
鈴木美帆、興野千春、篠原一哉、坂本真樹、二瓶久美子	タバコと健康-	講演（企業）	つくば	2019.5
本橋　歩	2018年度健診結果報告	講演（企業）	つくば	2019.6
鈴木美帆、興野千春篠原一哉、田中智美	高血圧予防と大人のラジオ体操	講演（企業）	つくば	2019.9
中原朗、鈴木美帆、篠原一哉、二瓶久美子	生活改善で高血圧を予防しよう ～忍び寄る塩分の恐怖～ 効果的な有酸素運動	講演（企業）	つくば	2019.9
中原　朗	睡眠について ～睡眠が及ぼす作業効率への影響～	講演（企業）	つくば	2019.10
鈴木美帆、興野千春、篠原一哉、二瓶久美子	生活改善で高血圧を予防しよう タオル体操	講演（企業）	つくば	2019.11
本橋歩、鈴木美帆、野口須美子、篠原一哉、二瓶久美子	生活改善で高血圧を予防しよう ～忍び寄る塩分の恐怖～ 高血圧に効果的な有酸素運動	講演（企業）	つくば	2019.11
中原　朗	睡眠について ～睡眠が及ぼす作業効率への影響～	講演（企業）	つくば	2019.11
中原朗、鈴木美帆、野口須美子、雨澤隆穂	生活改善で高血圧を予防しよう パンチ＆キック	講演（企業）	つくば	2019.11
鈴木美帆、篠原一哉、二瓶久美子	生活改善で高血圧を予防　高血圧に効果的な有酸素運動	講演（企業）	つくば	2019.11
本橋歩、鈴木美帆、野口須美子、興野千春、二瓶久美子	生活習慣の予防に向けて・・・ 食事接種で知っておいて欲しいこと　運動の種類と考課について（レジスタンス運動、有酸素運動、ストレッチ）	講演（企業）	つくば	2020.1
本橋歩、鈴木美帆、野口須美子、興野千春、二瓶久美子	生活習慣の予防に向けて・・・ 食事接種で知っておいて欲しいこと　運動の種類と考課について（レジスタンス運動、有酸素運動、ストレッチ）	講演（企業）	つくば	2020.2
二瓶久美子	ストレッチ、エアロビクス、ピラティス	出張指導（団体）	下妻	2019.4 ～ 2020.3 （計 25 回）
雨澤隆穂	職場フィットネスルームでのサーキットトレーニング	出張指導（団体）	つくば	2019.4 ～ 2020.3 （計 22 回）
塚田優子	ストレッチ、頭の体操、低強度の筋トレ、チェアエクササイズ	出張指導（団体）	つくば	2019.4 ～ 2020.3 （計 10 回）
神宮史明	アストロプラネッツ（野球球団） トレーニングとメディカルサポート	出張指導（企業）	つくば、水戸	2019.4 ～ 2019.10 （計 26 回）
神宮史明	少年野球　トレーニング	出張指導（団体）	筑西市	2019.5 ～ 2020.3 （計 25 回）
宮原悟、古徳卓也	集団でのボール運動、模倣ゲーム、ストレッチ体操等	出張指導（市町村）	つくば	2019.6 ～ 2020.3 （計 10 回）
二瓶久美子	運動セミナー「肩こり改善」「メタボ予防」「呼吸筋」「ロコモ予防」	出張指導（企業）	つくば	2019.8 ～ 2019.11 （計 4 回）
秋山泰蔵	看護の日、筑波記念健康フェア2019 （ロコモ度テスト）	出張指導	つくば	2019.5
二瓶久美子	ピラティス、エアロビクスエクササイズ	出張指導（企業）	つくば	2019.7　2019.12
神宮史明、雨澤隆穂、二瓶久美子	体力測定・20～50歳代	出張指導（企業）	つくば	2019.7（計 2 回）
二瓶久美子、田中智美	特定保健指導（運動指導）	出張指導（企業）	つくば	2019.7（計 2 回）

神宮史明、二瓶久美子	腰痛予防、転倒予防について	出張指導（企業）	つくば	2019.10（計４回）
雨澤隆穂	ストレッチ、集団エクササイズ（パンチ系）、筋力トレーニング	出張指導（企業）	つくば	2020.1
二瓶久美子	特定保健指導（運動指導）	出張指導（企業）	つくば	2020.2（計２回）

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

介護老人保健施設　つくばケアセンター

【総括】

1．2019 年度の実績

昨年度は、当施設では加算型から在宅強化型へ移行することを目標として運営に取り組んできた。その結果、在宅復帰率 33％強、平均入所者数（入所･ショートステイ）は 97.1％の稼働率を維持することが出来、現在に至っている。そして、ご利用者またはご家族の希望に沿った看取り介護を実施し、施設医との連絡体制、併設医療機関である筑波記念病院との連携、吸引等の看護処置体制を整備し、看取り介護を実施している。一方、通所リハビリテーションでは年度中盤から利用者数が増えてはきたものの、やはり増員が課題である。

訪問リハビリテーションは、訪問セラピスト一人あたりの平均実施回数は 8.1 回であった。訪問セラピスト一人あたりの実施回数を増やすことが課題となっており、地域の開業医や介護支援専門員等への訪問リハビリテーション利用の啓発を更に行うことで、来年度の実績につながるように努力する。

2．2020 年度の課題・目標

各サービスとも感染症予防を徹底して行う。入所では､更なるリハビリテーションの充実を目指し､強化型（在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅱ）を算定）の施設基準等を目標とする。ご利用者とご家族の満足度向上を目指し、今年度も職員の研修を重点的に行う。通所では、昨年に引き続き、デイケアの特徴を活かしつつ、ご利用者が楽しめるプログラムを行い、利用者数１日平均３０名を目標とする。訪問リハビリでは、実施回数の目標を訪問セラピスト一人あたり１日 12 回とし、より多くの利用者様に利用していただけるよう取り組むとともに、日々の安全運転を心がける。

［文責：磯山誠次］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入　　所	101	104	98	96	100	99	99	101	101	100	102	102	1,203
ショートステイ（予防含む）	14	19	20	22	20	23	21	21	15	17	12	11	215
通所リハビリ（予防含む）	90	94	97	95	90	94	91	93	97	94	94	99	1,128
訪問リハビリ（予防含む）	311	314	316	312	312	311	305	302	304	307	309	302	3,705

【資格保有者数】

看護師	12 名
准看護師	4 名
介護福祉士	27 名
社会福祉士	2 名
ケアマネジャー	6 名
ヘルパー２級	0 名
理学療法士	24 名
作業療法士	9 名
言語聴覚士	4 名

（2019 年 4 月 1 日現在）

【年間行事】

	行事内容	備　　考
4 月	お花見会	
5 月	母の日会	
6 月	父の日会	
7 月	七夕会	
9 月	納涼祭	ご家族参加者:大人183名､ボランティア4名
	祝寿会	
10 月	運動会	
11 月	演奏会	
12 月	クリスマス会	
1 月	新年会	
2 月	豆まき会	
3 月	ひなまつり会	

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

つくば訪問看護ステーション

【総括】

1．2019 年度の実績報告

看護師 10 名（管理者含む）、作業療法士 2 名（法人内兼務）、事務 1 名（医事課兼務）と増員し、8 月から桜川出張所が新設され、それに伴い管理者が変更となり、訪問看護事業は拡大した。実績からは、延べ訪問件数は、年関 5,395 件から 6,002 件と昨年度より 607 件増加し、利用者数は月 89 人から 110 人と 21 人増加がみられ、目標を達成した。

ステーションを 2 分割にしたことでより多くの地域の利用者様の在宅療養を支えることが可能になったが、エリアが拡大したことで、移動距離・時間が長く、訪問看護の効率性においては課題がある。

病床数の縮小や感染症対策重視の医療情勢の中、在宅医療への転換が提唱され、その中で訪問看護は重要な役割を担っている。地域の方々のニーズに応えるために、今後の訪問看護運営を変革していく必要がある。

2．2020 年度の課題・目標

桜川出張所利用者の拡大に努め、効率的に訪問看護サービスを実施する。

その人なりの在宅療養が継続できるよう、自立支援・生活指導・相談を重視し、質の高い訪問看護を実践する。

主治医、地域の医療福祉関係者との連携を密にしていく。

レスパイト入院等、介護者の負担軽減に努め、地域包括ケア病棟と密接な連携を図る。

訪問件数の目標は、6,500 件以上を目指す。

［文責：太田和子］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2018 年度延べ訪問件数	368	446	474	452	477	446	526	482	457	431	400	436	5,395
2019 年度延べ訪問件数	448	476	461	510	496	476	553	520	522	525	509	506	6,002
2018 年度利用者実数	83	87	90	86	94	97	95	97	96	96	89	89	1,099
2019 年度利用者実数	95	90	93	92	96	95	103	103	102	107	109	110	1,195

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

大穂豊里地域包括支援センター

【総括】

1．2019 年度の実績

2019 年 4 月に医療法人社団筑波記念会がつくば市からの事業委託を受け、つくば市大穂豊里地区に委託型地域包括支援センターである『大穂豊里地域包括支援センター』が誕生した。

2019 年 4 月の開設当初から、地域住民や民生委員、地域の関係機関等に周知活動を行い、現在では地域の皆様から多くの相談を頂くようになった。介護保険サービスの利用や認知症に関すること、地域の困りごとなど、様々な相談が月 60 ～ 80 件寄せられている。高齢者虐待や経済的困窮など重い問題を抱えるケースも少なくない。相談の内容によって、ケアマネジャーや民生委員・区長、行政や各関連機関と連携をとりながら支援にあたっている。

各分野での専門職である社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員を配置しており、その専門性を活かしながら、チームで地域で暮らす高齢者の支援にあたっている。

2．2020 年度の課題・目標

設立 2 年目を迎え、地域へのセンターの周知をさらに図り、住民や関係機関とのネットワーク形成をより形にしていくことが課題と考えている。様々なケースの相談に総合的に対応し、地域の課題抽出や解決を図るための相談対応能力の向上と、地域包括ケアシステムの実現を図るための土台を地域で形成していくことを目指す。

地域に相談窓口としての周知を図り総合相談件数を増やすとともに、包括的・継続的ケアマネジメントにおける地域の介護支援専門員の駆け込み寺となれるよう機能強化を目指す。また権利擁護における相談対応能力の向上のほか、適正な介護保険制度の活用の普及や介護予防活動の取組みを強化する。

［文責：井ノ口美樹子］

【業務実績】

相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実件数	22	42	45	52	42	81	81	83	60	69	60	73	688
延件数	38	69	66	83	57	138	138	149	107	143	93	101	1,118

（単位：件）

相談内容（延件数）

介護・日常生活に関する相談	921
サービス利用に関する相談	621
医療に関する相談	157
所得・家庭生活に関する相談	130
権利擁護に関する相談	60
苦情相談	8
その他	93
合計	1,981

参加した主な会議等（一部）

つくば市地域包括支援センター・在宅介護支援センター定例会
つくば市地域包括支援センター運営協議会
つくば市地域ケア会議・生活支援体制整備事業運営協議会
つくば市在宅医療・介護連携推進事業運営協議会
大穂豊里圏域生活支援体制整備事業第２層協議体会議
大穂豊里圏域ケア会議開催
認知症疾患医療センター運営協議会
つくば市民生委員児童委員連絡協議会
つくば市虐待防止ネットワーク実務者会議
つくば市主任介護支援専門員連絡会役員会

介護予防ケアマネジメント請求件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
123	129	134	140	132	140	140	147	152	150	152	153	1,695

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波記念病院　統　計

患　者　統　計

科別外来患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2018	204	150	224	209	234	206	288	272	317	430	247	228	3,009
	2019	224	249	239	212	232	216	237	238	300	309	218	178	2,852
消化器内科	2018	670	718	790	740	807	750	852	807	851	985	769	840	9,579
	2019	778	744	826	879	916	874	872	804	840	844	783	738	9,898
血液内科	2018	530	515	543	516	570	518	550	526	573	596	537	581	6,555
	2019	573	583	580	597	628	577	620	615	621	590	536	504	7,024
神経内科	2018	80	75	70	69	74	72	67	61	61	59	50	57	795
	2019	64	80	93	100	90	79	79	84	77	94	83	70	993
糖尿病・内分泌代謝内科	2018	101	83	86	87	94	100	86	79	73	106	96	74	1,065
	2019	82	70	80	80	66	66	67	87	98	133	65	71	965
呼吸器内科	2018	38	20	29	35	43	31	28	42	67	29	48	36	446
	2019	68	64	56	71	82	54	62	64	59	124	94	78	876
消化器外科	2018	161	159	174	158	155	157	162	146	145	148	143	120	1,828
	2019	88	100	131	120	108	111	107	93	116	100	92	99	1,265
呼吸器外科	2018	90	80	71	73	68	88	69	64	121	56	54	68	902
	2019	52	67	69	83	82	88	186	182	141	172	134	152	14,08
心臓血管外科	2018	148	143	163	159	167	179	174	143	151	141	117	122	1,807
	2019	138	128	124	167	148	163	206	134	194	170	146	110	1,828
脳神経外科	2018	119	96	93	89	99	91	105	118	93	119	84	121	1,227
	2019	116	93	101	115	118	100	140	116	177	119	119	112	1,426
整形外科	2018	541	563	594	602	651	595	625	566	652	652	594	661	7,296
	2019	628	651	629	602	631	532	523	540	545	555	509	466	6,811
婦 人 科	2018	22	22	21	23	26	23	43	26	35	37	31	33	342
	2019	33	25	24	25	30	24	24	34	26	22	30	28	325
眼　　科	2018	11	12	18	12	3	11	9	15	16	8	13	14	142
	2019	17	20	16	23	10	14	13	15	16	15	8	18	185
耳鼻咽喉科	2018	51	41	41	53	40	30	50	54	43	32	26	46	507
	2019	46	38	63	60	40	49	46	46	56	38	50	33	565
皮 膚 科	2018	1	2	5	2	1	1	0	2	1	2	4	0	21
	2019	2	1	1	1	3	2	2	0	2	0	2	4	20
小 児 科	2018	645	624	677	683	738	669	706	656	618	575	555	643	7,789
	2019	611	586	613	680	709	629	665	692	654	683	625	545	7,692
精 神 科	2018	321	340	335	353	375	344	335	383	333	315	330	334	4,098
	2019	329	326	339	339	357	334	355	94	106	96	99	105	2,879
麻 酔 科	2018	39	44	49	42	46	29	46	44	34	52	40	42	507
	2019	34	37	40	43	29	27	37	38	47	42	36	55	465
放射線科	2018	26	42	52	47	44	44	58	45	47	46	31	44	526
	2019	37	52	59	54	45	38	41	48	52	38	33	35	532
リハビリテーション科	2018	83	88	96	104	105	86	87	92	69	92	100	92	1,094
	2019	96	87	76	96	83	75	95	86	117	96	93	63	1,063
リウマチ・アレルギー科	2018	6	8	4	5	4	4	8	4	2	1	3	1	50
	2019	7	5	5	5	4	5	4	3	6	3	1	1	49

形成外科	2018	9	7	13	14	25	7	17	11	10	2	10	9	134
	2019	8	10	6	7	19	17	16	19	15	18	17	9	161
腎臓内科	2018	7	3	7	8	6	16	7	14	10	6	6	8	98
	2019	6	3	10	8	11	12	2	10	8	6	7	3	86
乳腺甲状腺外科	2018	195	170	162	173	160	164	178	162	166	155	132	155	1,972
	2019	162	146	150	169	181	162	184	173	153	150	130	130	1,890
泌尿器科	2018	16	28	30	35	29	32	39	24	32	32	25	30	352
	2019	36	26	31	34	21	22	20	28	36	29	31	22	336
内　　科	2018	42	28	36	33	35	23	42	43	25	43	34	40	424
	2019	51	34	42	16	33	27	28	35	30	36	27	25	384
一般外科	2018	4	1	9	6	4	6	6	7	7	10	2	5	67
	2019	2	3	5	3	3	2	1	1	16	1	2	0	39
救　　急	2018	216	42	100	59	270	150	249	214	122	247	128	92	1,889
	2019	196	169	178	233	236	196	221	121	226	292	154	192	2,414
合　　計	2018	4,376	4,104	4,492	4,389	4,873	4,426	4,886	4,620	4,674	4,976	4,209	4,496	54,521
	2019	4,484	4,397	4,586	4,822	4,915	4,495	4,853	4,400	4,734	4,775	4,124	3,846	54,431

救急車搬送患者記録

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
患者数（搬送台数）		2018	219名	211名	219名	288名	242名	204名	271名	248名	261名	306名	236名	239名	2,944名
			217台	208台	216台	287台	240台	204台	263台	247台	256台	305台	233台	237台	2,913台
		2019	233名	224名	197名	242名	261名	229名	206名	216名	249名	257名	221名	174名	2,709名
			231台	222台	196台	241台	258台	229台	206台	216台	248台	251台	221台	169台	2,688台
症度別	入　院	2018	119名	126名	122名	120名	109名	95名	124名	136名	109名	170名	122名	119名	1,471名
			54.3%	59.7%	55.7%	41.7%	45.0%	46.6%	45.8%	54.8%	41.8%	55.6%	51.7%	49.8%	50.0%
	外　来		100名	85名	97名	168名	133名	109名	147名	112名	152名	136名	114名	120名	1,473名
			45.7%	40.3%	44.3%	58.3%	55.0%	53.4%	54.2%	45.2%	58.2%	44.4%	48.3%	50.2%	50.0%
	入　院	2019	118名	113名	100名	110名	109名	122名	111名	111名	139名	126名	111名	73名	1,343名
			50.6%	50.4%	50.8%	45.5%	41.8%	53.3%	53.9%	51.4%	55.8%	49.0%	50.2%	42.0%	49.6%
	外　来		115名	111名	97名	132名	152名	107名	95名	105名	110名	131名	110名	101名	1,366名
			49.4%	49.6%	49.2%	54.5%	58.2%	46.7%	46.1%	48.6%	44.2%	51.0%	49.8%	58.0%	50.4%
診療科別	内科系	2018	108名	96名	116名	150名	129名	95名	109名	128名	114名	166名	124名	119名	1,454名
			49.3%	45.5%	53.0%	52.1%	53.3%	46.6%	40.2%	51.6%	43.7%	54.2%	52.5%	49.8%	49.4%
	外科系		71名	65名	57名	84名	70名	68名	102名	83名	93名	94名	74名	76名	937名
			32.4%	30.8%	26.0%	29.2%	28.9%	33.3%	37.6%	33.5%	35.6%	30.7%	31.4%	31.8%	31.8%
	救急科		40名	50名	46名	54名	43名	41名	60名	37名	54名	46名	38名	44名	553名
			18.3%	23.7%	21.0%	18.8%	17.8%	20.1%	22.1%	14.9%	20.7%	15.0%	16.1%	18.4%	18.8%
	内科系	2019	105名	112名	104名	113名	131名	109名	96名	112名	122名	123名	115名	78名	1,320名
			45.1%	50.0%	52.8%	46.7%	50.2%	47.6%	46.6%	51.9%	49.0%	47.9%	52.0%	44.8%	48.7%
	外科系		87名	66名	50名	84名	64名	79名	67名	60名	89名	85名	62名	52名	845名
			37.3%	29.5%	25.4%	34.7%	24.5%	34.5%	32.5%	27.8%	35.7%	33.1%	28.1%	29.9%	31.2%
	救急科		41名	46名	43名	45名	66名	37名	43名	44名	38名	49名	44名	44名	540名
			17.6%	20.5%	21.8%	18.6%	25.3%	16.2%	20.9%	20.4%	15.3%	19.1%	19.9%	25.3%	20.1%
交通事故		2018	19名	13名	17名	20名	12名	14名	36名	19名	39名	11名	18名	20名	238名
			15%	17%	13%	14%	14%	16%	14%	15%	13%	10%	13%	9%	8%
		2019	24名	14名	10名	17名	15名	12名	17名	12名	18名	26名	12名	17名	194名
			10.3%	6.3%	5.1%	7.0%	5.7%	5.2%	8.3%	5.6%	7.2%	10.1%	5.4%	9.8%	7.2%

ドクターヘリ搬送患者数

年　度	合　計
2018	14 名
2019	6 名

平均在院日数（一般病床）

	年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平　均
循環器内科	2018	10.3	10.5	12.2	13.5	12.9	12.8	11.6	12.8	9.7	13.8	13.7	12.4	12.2
	2019	13.2	14.9	15.0	12.8	11.6	12.4	12.6	13.9	13.5	11.8	13.1	16.5	13.4
消化器内科	2018	14.3	13.5	14.2	13.6	15.9	14.1	13.9	16.0	14.5	14.1	14.6	15.3	14.5
	2019	14.6	16.4	14.4	15.9	15.4	13.5	13.1	13.5	12.6	15.6	14.0	15.6	14.6
血液内科	2018	21.9	20.5	18.7	25.8	23.1	24.7	23.5	20.7	23.2	21.9	20.3	23.0	22.3
	2019	17.9	20.6	24.5	23.5	23.8	23.0	23.3	21.5	19.2	18.0	23.9	20.7	21.7
神経内科	2018		3.0		18.0		16.0	10.0		6.0				10.6
	2019			17.4			13.0	94.0	43.0	8.0	16.0	42.0	13.0	30.8
糖尿病・内分泌代謝内科	2018	10.1	12.3	15.7	9.4	9.2	12.3	15.6	16.6	14.5	18.0	21.9	15.1	14.2
	2019	13.0	13.3	10.2	14.6	10.5	9.7	15.6	10.3	17.7	13.3	9.9	8.4	12.2
呼吸器内科	2018	24.0	19.6	16.0	17.4	16.8	12.4	15.5	15.4	16.9	19.2	19.1	25.3	18.1
	2019	17.0	14.9	14.7	16.8	17.2	15.2	17.2	18.0	18.0	21.3	17.3	21.2	17.4
消化器外科	2018	14.9	13.4	15.4	12.8	15.3	14.0	13.5	13.2	11.0	14.4	11.4	13.7	13.6
	2019	13.0	13.2	17.1	13.4	12.8	15.6	15.8	15.7	12.8	14.3	11.9	15.2	14.2
呼吸器外科	2018	11.1	12.3	15.6	13.4	13.9	15.8	13.6	10.5	13.1	19.1	15.9	16.3	14.2
	2019	16.6	18.4	17.2	12.3	12.9	12.6	12.2	11.7	12.8	18.9	14.0	19.8	15.0
心臓血管外科	2018	11.3	10.0	8.2	9.0	11.3	11.8	11.4	10.2	8.7	10.6	12.5	10.3	10.4
	2019	11.1	14.8	12.7	10.0	9.2	9.5	10.0	9.8	14.4	14.7	14.7	13.1	12.0
脳神経外科	2018	22.0	19.8	17.9	24.3	19.6	20.2	20.8	18.7	18.4	24.0	22.5	27.8	21.3
	2019	21.5	26.9	21.5	19.3	20.3	20.6	24.2	23.5	19.7	24.1	25.9	25.6	22.8
整形外科	2018	17.9	20.5	20.5	20.9	16.2	21.5	21.1	20.8	18.4	18.9	22.0	19.7	19.9
	2019	19.7	23.0	18.9	21.9	18.2	22.0	19.5	22.1	20.6	21.3	22.0	18.8	20.7
婦 人 科	2018	6.9	7.0	8.4	7.5	5.6	7.2	6.6	5.0	6.6	5.5	6.0	4.8	6.4
	2019	6.2	6.7	8.7	3.4	5.1	9.5	8.7	6.2	6.2	5.7	8.3	4.4	6.6
眼　　科	2018	1.2	2.0	1.7	2.3	2.0	1.4	1.1	1.4	1.1	1.7	1.3	2.2	1.6
	2019	2.7	4.5	2.3	1.5	2.5	1.0	1.7	1.3	1.0	1.2	1.0	1.2	1.8
耳鼻咽喉科	2018	5.6	5.2	5.1	8.0	7.7	7.6	5.2	9.6	5.0	6.6	6.3	6.2	6.5
	2019	6.7	6.2	4.5	6.4	7.1	4.3	5.1	4.8	5.5	6.7	6.8	5.1	5.8
皮 膚 科	2018											14.0		14.0
	2019				22.0							26.0	6.0	
形成外科	2018		18.7	5.7	11.0	10.0	10.0	4.4	3.5	6.0	10.8	6.4	2.4	8.1
	2019	7.6	15.5	15.4	8.6	8.6	12.5	9.3	19.5	16.4	10.9	18.5	24.0	13.9
合　　計	2018	14.9	14.5	14.6	15.5	15.2	15.5	14.9	14.7	13.8	15.9	15.9	16.2	15.1
	2019	15.0	17.2	15.6	15.6	14.8	15.4	15.7	15.9	15.2	16.2	16.7	17.2	15.9

※回復期リハ、療養病棟を除く

入院延べ患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2018	899	1,100	1,143	1,235	1,118	1,073	1,415	1,586	1,438	1,763	1,449	1,484	15,703
	2019	1,561	1,879	1,943	1,668	1,688	1,567	1,377	1,474	1,466	1,407	1,440	1.349	18,819
消化器内科	2018	1,416	1,488	1,403	1,581	1,685	1,578	1,567	1,593	1,512	1,520	1,474	1,615	18,432
	2019	1,567	1,502	1,392	1,799	1,665	1,699	1,400	1,298	1,220	1,338	1,317	1,196	17,393
血液内科	2018	1,547	1,511	1,366	1719	1,863	1,808	1,813	1,589	1,665	1,778	1,545	1,445	19,649
	2019	1,273	1,296	1,263	1,363	1,503	1,356	1,753	1,545	1,300	1,368	1,607	1,479	17,106
神経内科	2018	54	67	120	108	154	138	236	193	143	67	55	109	1,444
	2019	96	84	154	147	112	169	109	119	79	70	79	82	1,300
糖尿病・内分泌代謝内科	2018	226	350	269	291	232	262	361	351	375	409	386	366	3,878
	2019	294	299	233	273	350	260	246	251	703	687	299	171	4,056
呼吸器内科	2018	591	544	490	536	558	393	495	463	530	497	599	735	6,431
	2019	681	490	579	519	582	465	596	750	679	962	1,190	1,038	8,531
消化器外科	2018	802	611	856	831	792	858	764	787	794	599	632	606	8,932
	2019	565	545	674	610	638	573	747	640	742	658	509	582	7,483
呼吸器外科	2018	227	240	292	306	338	401	266	199	302	416	317	323	3,627
	2019	321	380	443	318	257	152	194	251	279	375	276	223	3,469
心臓血管外科	2018	593	458	392	425	519	462	474	538	428	486	685	464	5,924
	2019	598	658	508	340	448	414	368	484	715	702	544	377	6,156
脳神経外科	2018	1,700	1,726	1,650	1,683	1,419	1,083	1,379	1,507	1,468	1,607	1,414	1,794	18,430
	2019	1,862	1,827	1,697	1,760	1,695	1,682	1,742	1,610	1,698	1.594	1.413	1,681	20,261
整形外科	2018	2,160	2,462	2,500	2,395	2,307	2,042	2,221	2,323	2,371	2,242	2,396	2,517	27,936
	2019	2,199	2,313	2,199	2,508	2,081	2,199	2,248	2,392	2,540	2,593	2,590	2,558	28,420
婦 人 科	2018	69	30	77	54	37	58	67	20	48	32	63	19	574
	2019	49	30	78	20	51	33	56	37	67	34	33	28	516
眼　　科	2018	41	80	58	65	35	24	52	56	51	51	42	77	632
	2019	54	125	68	45	41	49	53	65	41	46	17	37	641
耳鼻咽喉科	2018	138	130	102	158	243	138	139	216	119	112	107	99	1,701
	2019	159	71	98	111	131	59	106	83	107	123	131	125	1,304
皮 膚 科	2018	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	14
	2019	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	13	3	27
リハビリテーション科	2018	553	668	634	611	667	751	814	698	885	873	721	836	8,711
	2019	878	898	788	700	746	781	882	755	735	636	613	662	9,074
形成外科	2018	24	56	47	82	85	119	57	52	51	59	54	18	704
	2019	25	119	82	128	130	162	144	175	114	138	177	221	1,615
そ の 他	2018	180	190	247	240	262	127	100	197	232	200	163	178	2,316
	2019	116	151	72	65	87	81	95	77	90	108	92	88	1,122
合　　計	2018	11,220	11,711	11,646	12,320	12,314	11,315	12,220	12,368	12,412	12,711	12,116	12,685	145,038
	2019	12,298	12,667	12,261	12,385	12,205	11,701	12,116	12,006	12,575	12,839	12,340	11,900	147,293

入院患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2018	74	90	75	75	66	66	98	93	86	105	76	82	986
	2019	89	94	96	79	87	78	80	79	84	87	81	51	985
消化器内科	2018	76	91	73	89	78	79	80	79	83	102	86	84	1,000
	2019	90	79	72	91	85	99	79	82	75	78	73	63	966
血液内科	2018	55	65	66	54	73	58	59	59	53	70	61	40	713
	2019	60	48	51	51	59	54	55	62	57	67	61	50	675
神経内科	2018	0	1	2	3	4	1	4	0	0	0	1	1	17
	2019	1	2	2	1	0	4	0	3	2	1	0	2	18
糖尿病・内分泌代謝内科	2018	14	25	14	19	16	20	16	19	15	18	13	15	204
	2019	12	19	17	12	19	15	14	21	28	35	12	13	217
呼吸器内科	2018	21	20	25	20	22	19	27	26	23	21	22	19	265
	2019	30	25	31	27	30	27	36	33	26	43	45	27	380
消化器外科	2018	42	43	55	57	44	54	49	60	57	49	53	31	594
	2019	43	44	36	45	41	38	40	44	42	46	34	38	491
呼吸器外科	2018	15	20	15	21	21	27	13	21	21	20	16	17	227
	2019	15	24	20	18	15	14	17	15	18	21	13	8	198
心臓血管外科	2018	45	45	42	50	50	40	48	47	45	48	48	41	549
	2019	59	59	47	47	57	55	33	59	54	53	38	32	593
脳神経外科	2018	42	50	48	43	35	32	45	54	37	50	36	47	519
	2019	54	40	43	50	43	38	41	38	45	31	42	30	495
整形外科	2018	80	78	87	67	92	58	83	71	86	87	80	76	945
	2019	85	69	77	79	79	82	78	70	83	84	69	77	932
婦 人 科	2018	11	6	9	8	8	9	11	4	8	9	10	5	98
	2019	7	5	10	4	11	4	5	7	10	7	3	6	79
眼　　科	2018	22	34	26	28	14	17	23	26	19	26	22	31	288
	2019	19	19	28	21	14	23	20	25	17	19	10	18	233
耳鼻咽喉科	2018	24	24	17	15	27	16	22	21	19	15	18	15	233
	2019	21	8	24	16	15	12	21	17	17	20	14	17	202
皮 膚 科	2018	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	2019	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
リハビリテーション科	2018	0	1	2	2	2	3	4	3	4	4	1	2	28
	2019	1	5	4	5	1	4	2	4	3	3	4	2	38
形成外科	2018	1	4	9	9	8	12	11	16	8	6	8	7	99
	2019	3	8	4	16	11	11	14	8	5	10	9	7	106
そ の 他	2018	4	5	7	9	10	6	4	9	12	12	3	4	85
	2019	2	7	6	2	6	7	3	1	8	3	3	3	51
合　　計	2018	526	602	572	569	570	517	597	608	576	642	555	517	6,851
	2019	591	555	568	565	573	565	538	568	574	608	512	444	6,661

手術件数（入院・外来）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
内　　科	入院	2	0	0	3	2	0	2	4	1	9	0	0	23
	外来	0	0	0	3	3	1	0	0	4	1	2	1	15
循環器内科	入院	22	22	33	26	31	27	24	24	22	36	29	28	324
	外来	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
消化器内科	入院	39	40	33	36	27	38	44	43	40	31	35	41	447
	外来	54	49	55	63	50	70	71	71	80	62	76	70	771
血液内科	入院	4	1	0	1	2	0	0	1	1	1	1	0	12
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
消化器外科	入院	42	39	35	36	38	36	40	41	43	35	30	33	448
	外来	5	3	8	57	5	9	0	4	5	1	5	2	104
呼吸器外科	入院	4	8	9	3	6	2	5	2	7	7	6	7	66
	外来	5	4	7	8	4	10	6	7	2	10	3	2	68
心臓血管外科	入院	34	41	30	17	28	36	20	38	41	59	22	19	385
	外来	5	0	3	7	4	4	5	1	2	2	3	2	38
脳神経外科	入院	21	10	16	21	12	7	7	14	14	6	8	15	151
	外来	3	1	6	5	1	4	2	1	5	3	2	1	34
整形外科	入院	88	71	76	84	83	69	76	60	84	85	68	66	910
	外来	5	10	7	5	8	3	1	7	6	6	6	5	69
婦 人 科	入院	8	7	4	4	14	4	7	7	13	7	4	4	83
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼　　科	入院	27	28	38	27	15	23	24	28	20	20	10	22	282
	外来	14	15	15	18	7	12	14	13	14	11	6	15	154
耳鼻咽喉科	入院	8	3	3	16	8	6	7	5	14	11	5	10	96
	外来	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
皮 膚 科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
形成外科	入院	2	9	5	15	13	14	13	8	6	0	6	11	102
	外来	5	2	3	1	3	4	3	3	3	0	4	2	33
合　　計	入院	301	279	282	289	279	262	269	275	306	307	224	256	3,306
	外来	96	84	105	167	85	118	103	108	121	96	107	101	1,276

※手術室・血管造影室・内視鏡・救急処置室で行ったもの全て

手術件数（入院のみ・時間帯別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
内　　科	日勤	2	0	0	4	2	0	0	2	1	5	0	0	16
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器内科	日勤	21	21	30	26	28	25	19	23	22	33	28	27	303
	緊急	1	1	3	0	3	2	5	1	0	3	1	1	21
消化器内科	日勤	35	36	29	30	25	35	37	40	33	28	32	38	398
	緊急	4	4	4	6	2	3	7	3	7	3	3	3	49
血液内科	日勤	4	1	0	1	2	0	0	1	1	1	1	0	12
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	日勤	41	37	34	41	37	35	40	38	43	34	30	33	443
	緊急	1	2	1	1	1	1	0	3	0	1	0	0	11
呼吸器外科	日勤	4	8	9	3	6	2	4	2	7	6	6	6	63
	緊急	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3
心臓血管外科	日勤	30	38	27	14	26	34	18	35	34	51	20	17	344
	緊急	4	3	3	3	2	2	2	3	7	8	2	2	41
脳神経外科	日勤	21	9	16	19	10	5	6	10	13	6	5	13	133
	緊急	0	1	0	2	2	2	1	4	1	0	3	2	18
整形外科	日勤	86	69	75	81	82	67	75	56	84	85	68	65	893
	緊急	2	2	1	3	1	2	1	4	0	0	0	1	17
婦 人 科	日勤	8	7	4	4	14	4	7	7	12	7	4	4	82
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
眼　　科	日勤	27	28	38	27	15	23	24	28	20	20	10	22	282
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	日勤	8	3	3	16	8	5	7	5	14	11	5	10	95
	緊急	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
皮 膚 科	日勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	日勤	2	9	5	15	12	14	13	8	6	10	6	8	108
	緊急	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	4
合　　計	日勤	289	266	270	281	267	249	250	255	290	297	215	243	3,172
	緊急	12	13	12	15	12	13	17	18	16	16	9	13	166

病床利用率

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般病棟	2018	79.8%	83.0%	84.0%	84.0%	83.3%	80.5%	84.0%	88.4%	85.2%	87.4%	94.8%	85.7%
	2019	86.8%	85.7%	88.1%	84.1%	82.4%	79.7%	82.3%	85.7%	86.6%	87.1%	89.8%	79.2%
特定集中	2018	58.3%	64.9%	77.1%	77.4%	74.6%	63.3%	78.2%	68.8%	67.7%	75.8%	79.5%	85.5%
	2019	72.9%	87.5%	77.9%	62.1%	62.9%	53.8%	63.7%	70.0%	83.9%	87.1%	66.8%	53.6%
回復期リハ	2018	96.9%	101.1%	101.5%	101.1%	99.6%	97.7%	97.4%	100.8%	99.4%	99.3%	100.3%	99.8%
	2019	99.8%	101.2%	100.7%	100.7%	99.5%	100.1%	99.9%	99.5%	100.4%	99.5%	100.1%	99.4%
地域包括ケア	2018	62.3%	60.2%	69.7%	80.1%	87.0%	63.6%	70.4%	71.2%	80.8%	77.6%	79.1%	79.7%
	2019	74.1%	75.6%	69.1%	71.0%	74.6%	80.3%	68.7%	64.1%	73.4%	83.3%	83.7%	71.0%
療養病棟	2018	85.3%	71.1%	76.4%	82.6%	83.2%	84.1%	90.8%	94.4%	90.8%	87.2%	85.6%	98.0%
	2019	97.8%	95.2%	92.7%	96.1%	95.1%	97.1%	92.3%	94.7%	93.2%	92.5%	98.2%	96.2%
合　　計	2018	80.5%	81.4%	83.6%	85.3%	85.4%	81.0%	84.8%	88.7%	86.8%	87.7%	92.8%	87.9%
	2019	88.0%	87.4%	88.0%	85.8%	84.8%	83.8%	83.9%	86.0%	87.4%	88.6%	91.2%	82.3%

主な指導料・管理料

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
1	救急医療管理加算1	495	484	575	645	679	676	692	780	745	723	726	479	642
2	救急医療管理加算2（その他）	871	676	907	820	773	755	739	632	761	866	648	505	746
3	夜間休日緊急搬送医学管理料	93	81	64	87	100	78	82	72	91	112	82	61	84
4	特定集中治療室管理料3 （7日以内）	113	154	121	92	124	101	132	133	132	146	104	102	121
5	特定集中治療室管理料3 （14日以内）	24	33	34	21	5	13	17	20	25	43	15	14	22
6	麻酔管理料1 （閉鎖循環式全身麻酔）	142	116	91	83	90	62	77	76	110	83	77	57	89
7	麻酔管理料1 （脊椎麻酔）（硬膜外麻酔）	4	1	1	1	2	3	3	2	1	0	1	1	2
8	病理組織標本作製	322	216	278	250	250	256	262	243	253	247	221	226	252
9	画像診断管理加算1（単純撮影）	772	760	793	773	821	754	826	762	861	852	767	659	783
10	画像診断管理加算2（CT,MRI）	890	816	913	970	940	870	942	918	944	916	823	791	894
11	外来化学療法加算 （※ﾍﾙｹｲ含む）	129	121	132	152	185	138	188	138	160	144	141	149	148
12	外来栄養食事指導料 初回・ 2回目（クリニック実施分）	68	83	73	89	66	80	74	89	63	64	51	67	72
13	入院栄養食事指導料1 初回・ 2回目	96	70	90	100	92	90	89	94	79	73	94	62	86
14	集団栄養食事指導料	7	5	3	2	2	2	2	9	6	3	0	5	4
15	薬剤管理指導料 ※1・2含む	668	627	671	783	701	595	616	587	561	478	544	611	620
16	退院時薬剤情報管理指導料	180	140	182	198	171	158	175	164	189	138	163	175	169
17	薬剤情報提供料	270	256	233	274	339	321	269	266	307	372	266	207	282
18	無菌治療室管理加算	178	197	172	221	154	194	182	154	217	196	161	159	182
19	無菌製剤処理料1	223	227	214	223	221	195	292	250	248	270	276	281	243
20	無菌製剤処理料2	68	124	111	82	117	72	110	76	52	16	54	29	76
21	リハビリ総合計画評価料	634	562	668	669	701	645	631	618	696	670	706	601	650
22	退院時リハビリテーション指導料	178	159	221	207	219	174	181	190	206	174	176	193	190
23	在宅患者訪問リハビリ指導料	16	11	12	23	23	20	12	20	20	14	13	0	15
24	医療機器安全管理料	29	38	39	26	24	32	22	31	40	39	27	25	31
25	初診料	381	412	373	433	481	439	382	361	556	647	398	292	430
26	選定療養費（初診） ※自費5,500円	122	153	119	134	187	169	123	128	235	345	138	86	162
27	診療情報提供料（Ⅰ）	206	194	257	234	222	205	208	213	234	198	202	221	216
28	診療情報提供料（Ⅱ）	3	0	5	1	0	2	2	1	3	3	1	0	2
29	退院前訪問指導料	20	26	30	19	27	26	26	30	33	18	33	32	27
30	在宅療養指導料	1	1	0	0	2	1	2	2	1	1	1	1	1
31	在宅患者訪問診療料	3	5	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
32	訪問看護指示料	5	2	5	7	8	9	8	9	5	4	6	6	6
33	在宅自己注射指導管理料	24	23	28	23	17	23	24	19	24	18	22	12	21
34	在宅人工呼吸、酸素療法、持続陽圧呼吸療法指導管理料	25	32	31	30	32	25	33	40	35	25	43	43	33
35	在宅寝たきり患者 処置指導管理料	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1
36	悪性腫瘍特異物質 治療管理料	164	165	166	179	181	167	192	183	191	176	173	162	175

37	特定薬剤治療管理料	76	34	49	57	44	40	52	50	49	49	49	27	48
38	特定薬剤治療管理料 （4 箇月目移行）	4	4	12	11	3	4	5	2	12	5	9	3	6
39	特定薬剤治療管理加算 （臓器移植）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	特定薬剤治療管理加算 （臓器移植以外）	12	11	16	14	11	17	17	16	18	15	14	12	14
41	肺血栓塞栓症予防管理料	115	92	101	112	106	94	113	110	119	103	95	91	104
42	介護支援連携指導料	10	6	9	11	6	7	7	12	8	7	5	8	8
43	栄養サポートチーム加算	70	60	86	118	105	87	129	142	135	117	111	97	105
44	入退院支援加算 1 イ一般病棟	86	91	93	87	88	79	89	93	102	76	90	105	90
45	入退院支援加算 1 ロ療養病棟	5	8	3	4	3	5	2	2	2	3	1	1	3
46	急性期患者支援病床初期加算 （地域包括・療養）	491	519	519	478	466	354	427	382	607	570	521	469	484

地域がん登録部位別件数

部位名	第 1 段階　ICD-O-2　形態コード	第 1 段階　ICD-O-2　形態コード	件数
口腔・咽頭		C00-14	1
食道		C15	13
胃		C16	112
小腸		C17	2
結腸		C18	75
直腸		C19	17
肝臓		C22	18
胆嚢・胆管		C23- 24	23
膵臓		C25	18
喉頭		C32	
肺		C33-34	72
骨・軟部			
皮膚（黒色腫含む）		C44	
乳房		C50	5
子宮頸部		C53	
子宮体部		C54	
子宮		C55	
卵巣		C56	
前立腺		C61	1
膀胱		C67	1
腎・他の尿路		C67, C64-66, C68	2
脳・中枢神経系		C700, C71, C722- C729, C755-753	
甲状腺		C73	
悪性リンパ腫	959-972/974-975	リンパ腫	58
多発性骨髄腫	973，976	骨髄腫	12
白血病	980-994	白血病	25
他の造血器腫瘍	995-998	造血器腫瘍	11
その他（原発不明）		その他	1
			359

院内・院外　研修・講演会一覧

医局（内科カンファレンス）

内　　容	発　表　者	場　　所	年　月　日	参加者数
抄　読　会「Effect of AIC and Glucose on Postoperative Mortality in Noncardic and Cardiac Surgeries」	米倉みなみ	筑波記念病院	2019.5.15	17
症例報告「橋中心髄鞘崩壊症の画像所見を呈した肝性脳症の１例」	佐浦　勲	筑波記念病院	2019.5.29	20
症例報告「観血的手技と血小板数」	山崎幸紀	筑波記念病院	2019.5.29	20
予演会「化学療法後に発生した薬剤性無顆粒球症の経過中 PET/CT で骨髄の集積亢進を認めた悪性リンパ腫例」	坂本勇志	筑波記念病院	2019.6.5	23
抄読会「Effect of Aclidinium Bromide on Major Cardiovascular Events　and Exacerbations　in High-Risk Patients With Chronic Obstructive Pulmonary　Diseasa The ASCENT-COPD Randomized Clinical Trial」	宝田亜矢子	筑波記念病院	2019.6.12	20
症例報告「HIV 感染患者に発症したニューモシスチス肺炎の一例」	野本　怜	筑波記念病院	2019.6.12	20
予演会「免疫抑制薬内服中に豚肉の加熱不十分で感染したE型肝炎の一例」	堀井裕司	筑波記念病院	2019.6.12	21
抄　読　会「Aspirin for Primary Prevention of Cardiovascular Events」	根本佳那江	筑波記念病院	2019.7.10	21
症例報告「溶血性貧血を合併した重症アルコール性肝不全の一例」	山崎幸紀	筑波記念病院	2019.7.10	21
予演会「悪性リンパ腫治療における アントラサイクリン系抗がん剤による心機能障害の発生状況 当科における後方視的検討」	宝田亜矢子	筑波記念病院	2019.7.10	21
CPC「多発性骨髄腫の経過観察中に慢性心不全急性増悪を来した症例」	臨床側：末益貴仁 病理側：臺勇一	筑波記念病院	2019.7.31	25
予演会「慢性リンパ性白血病に対する 化学療法後に 10 年以上 低γグロブリン血症が遷延した一例」	荒井　貴	筑波記念病院	2019.9.4	23
症例報告「内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）で内視鏡根治度 A が得られた 胃リンパ球浸潤癌の１例」	堀井裕司	筑波記念病院	2019.9.4	23
症例報告「βラクタマーゼ産生菌と院内感染」	宝田亜矢子	筑波記念病院	2019.9.25	20
予演会「遷延性低血糖で搬送され原因特定に難渋した高容量インスリン自己注射による自殺企画の一例」	佐浦　勲	筑波記念病院	2019.10.16	16
予演会「分類不能型免疫不全症が疑われた一症例」	堀井裕司	筑波記念病院	2019.10.16	2
抄　読　会「Laparoscopic cholecystectomy versus percutaneous catheter drainage　for acute cholecystitis in high risk patients (CHOCOLATE): 13multicentre randomized clinical trial 」	荒井　貴	筑波記念病院	2019.10.30	12
症 19 例報告「腰椎化膿性椎間板炎を 呈した非結核性抗酸菌症の一例」	根本佳那江	筑波記念病院	2019.10.30	12
抄　読　会「Effect of a Resuscitation Strategy Targeting Peripheral Perfusion Status vs Serum Lactate Levels on 28-Day Mortality Among Patients With Septic Shock The ANDROMEDA-SHOCK Randomized Clinical Trial」	梅山翔平	筑波記念病院	2019.11.13	13
CPC「門脈血栓症により 小腸壊死を来した１例」	臨床側：矢野輝久 病理側：臺勇一	筑波記念病院	2019.11.27	19
抄　読　会「Dapagliflozin in Patients　with Heart Failure and Reduced Ejection Fraction」	佐浦　勲	筑波記念病院	2019.12.4	23
予演会「細菌性心外膜炎に続発した感染性大動脈瘤破裂の一例」	宝田亜矢子	筑波記念病院	2019.12.4	

学術集会「直腸膣瘻を伴った骨盤内悪性リンパ腫に、骨盤内臓器全摘術を行った一例」	若林宏樹	筑波記念病院	2019.12.7	29
学術集会「本院における透明中隔腔およびベルガ腔を有する患者と臨床症状の関連について」	堀井裕司	筑波記念病院	2019.12.7	
学術集会「抗 MDA5 抗体および抗 ARS 抗体陽性の無筋症性皮膚筋炎患者に おいて、治療が奏功した一例」	根本佳那江	筑波記念病院	2019.12.7	
学術集会「腹部 CT を契機に Fitz-Hugh-Curtis 症候群」	佐浦　勲	筑波記念病院	2019.12.7	
学術集会「血尿を契機に発見された膀胱憩室出血の一例」	山﨑幸紀	筑波記念病院	2019.12.7	
学術集会「膵・胆管病変に対してステロイド維持　治療中に後腹膜線維症で再燃した IgG4 関連疾患の一例」	坂本勇志	筑波記念病院	2019.12.7	
学術集会「「たかが Appe、されど Appe」急性虫垂炎の治療方針の検討」	荒井　貴	筑波記念病院	2019.12.7	
学術集会「腹痛の訴えなく発熱で来院したが、入院中 free air を認め、進行性大腸癌による消化管穿孔と診断した一例」	梅山翔平	筑波記念病院	2019.12.7	
抄 読 会「A Genotype-Guided Strategy for Oral P2Y12 Inhibitors in Primary PCI」	若林宏樹	筑波記念病院	2019.12.11	13
症例報告「高齢者急性骨髄性白血病の一例」	佐々木絵美	筑波記念病院	2019.12.11	
抄 読 会「Large-Scale Assessment of a Smartwatch to Identify Atrial Fibrillation」	山﨑幸紀	筑波記念病院	2020.1.8	16
症例報告「頸静脈孔症候群を きたした肺腺癌の一例」	荒井　貴	筑波記念病院	2020.1.8	
症例報告「小細胞肺癌と多発性骨髄腫と消化管間質腫瘍の重複癌の 1 例」	若林宏樹	筑波記念病院	2020.2.5	14
抄読会「Efficacy and safety of gastrointestinal bleeding prophylaxis in critically ill patients: systematic review and network meta-analysis」	安藤高志	筑波記念病院	2020.2.12	11
症例報告「完全房室ブロック、QT延長を合併した急性前骨髄球性白血病の 1 例」	梅山翔平	筑波記念病院	2020.2.12	

地域医療連携部（地域医療連携公開講座）

内　　容	発　表　者	場　　所	年　月　日	参加者数
liquid biopsy の現状と将来	東京大学医学研究所 湯地晃一郎	筑波記念病院	2019.5.15	52
DOAC を用いた DVT 治療について	榎本強志	筑波記念病院	2019.6.21	64
脳卒中のエビデンスを支える医療連携	脳血管研究所三原記念病院　神澤孝夫			
高血圧循環器疾患と睡眠時無呼吸症候群（SAS）	自治医科大学 苅尾　七臣	筑波記念病院	2019.7.5	109
急性大動脈解離と SAS の関係	末松義弘			
新規糖尿病治療薬の合併症予防～基礎・臨床研究からみえてきたもの～	獨協医科大学病院 城島輝雄	筑波記念病院	2019.9.13	40
当院におけるトルバプタンの使用経験から	榎本強志	筑波記念病院	2019.10.25	79
高齢者における心不全治療～心不全再入院と ADL 低下を防ぐために～	公立陶生病院 味岡　正純			
超高齢社会における救急医療	日本医科大学付属病院 横田裕行	筑波記念病院	2019.11.8	86
筑波記念病院の糖尿病運動療法に対する取り組み	古澤　弦	筑波記念病院	2019.11.15	84
ゼロから始める！糖尿病運動療法	獨協医科大学埼玉医療センター　原　健二			
日常診療に潜む二次性心筋症の診療と新しい心臓再生法の開発	筑波大学　家田真樹	筑波記念病院	2019.11.19	54

第 11 回つくば内視鏡ライブセミナー		筑波記念病院	2019.11.30	81
ライブデモンストレーション　ESD 治療のポイント	埼玉医科大学国際医療センター　野中康一			
本日の症例を振り返って	池澤和人			
地域包括支援センターの役割と活動内容	井ノ口美樹子	筑波記念病院	2019.12.6	76
人生の最終段階の医療ケアについて	環境省　特殊疾病対策室　松岡　輝昌			
令和 2 年診療報酬改訂について（院内のみ）	株式会社メディセオ 田村真治	筑波記念病院	2020.3.13	63

茨城県指定地域リハビリテーション研修推進支援センター

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日	参加者数
小児領域 A コース	岸本光夫	筑波記念病院	2019.8.3・4	9
卒後研修 Advanced OSCE（客観的臨床能力試験）		筑波記念病院	2019.11.7	9
小児領域Ｂコース	岸本光夫･根本浩則（茨城西南医療センター病院）	筑波記念病院	2019.12.21・22	7
茨城シーティングセミナー 2019 第 1 回『シーティングの基礎知識 - 座位の考え方と評価の実際 -』	木之瀬隆（㈱シーティング研究所　代表）	筑波記念病院	2019.12.3	50
茨城シーティングセミナー 2019 第 2 回『高齢者が快適に車椅子へ座るための 7 つのポイント』	木之瀬隆（㈱シーティング研究所　代表）	筑波記念病院	2020.1.7	22

茨城県指定地域リハ・ステーション

内　　容	場　　所	年　月　日	参加者数
つくば地域リハ・セミナー　第 29 回症例検討会	筑波記念病院	2019.10.5	48

茨城県指定地域リハ・ステーション

内　　容	場　　所	年　月　日	参加者数
第 54 回小児リハビリテーションネットワーク会議 平成 30 年度事例検討の経過報告、他	筑波記念病院	2019.6.7	45

医療法人社団 筑波記念会 2019年度年報

発行者：医療法人社団 筑波記念会
〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299
TEL 029-864-1212
FAX 029-864-8135
https://tsukuba-kinen.or.jp/

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL